

RICOH

リコーエディアコネクション

REシリーズ

使用説明書



このたびは、REシリーズをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用の前に、この「使用説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してから
お使いください。

お読みになったあとも、本商品のそばなどいつもお手元においてお使いください。

安全上のご注意

使用説明書および商品本体には、お使いになる方や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。

次の内容(表示・図記号)をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。また、電話機などをお使いになる前に、商品の使用説明書もよくお読みになり、記載事項をお守りください。

表記の説明

表 示	表 示 の 意 味
△ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷(*1)を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
△ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷(*1)を負う可能性が想定される内容を示しています。
△ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害(*2)を負うことが想定される内容および物的損害(*3)のみの発生が想定される内容を示しています。

* 1 : 重傷とは失明やけが、やけど(高温・低温)、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

* 2 : 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。

* 3 : 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかる拡大損害をさします。

図記号の説明

図記号	図 記 号 の 意 味
	は、禁止(してはいけないこと)を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
	は、強制(必ずすること)を示します。 具体的な強制内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
	は、注意を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

安全上のご注意

免責事項について

地震および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。

本商品の使用または使用不能から生ずる付随的な損害（記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中止、通信機会の喪失など）に関して、当社は一切責任を負いません。使用説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。

当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。

主装置について

！ 警告

分解・改造・修理しないこと
火災、感電、けがの原因となります。



分解禁止

取付位置を変更しないこと
火災、感電、けがの原因となります。
配線工事を行うには資格が必要です。販売店にご相談ください。



禁止

通風孔などから、金属類を入れないこと
感電の原因となります。



禁止

ぬれた手で主装置を操作したり、ぬれた布でふかないこと
感電の原因となります。



ぬれ手禁止

上や近くに飲み物など、液体の入った容器を置かないこと
液体がこぼれて内部に入ると、火災、感電の原因となります。



禁止

雷が鳴り出したら、主装置にふれないこと
感電の原因となります。



接触禁止

もし、煙が出ている、異常音がする、変なにおいがするなど、異常が発生したときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜くこと
そのまま使用すると、火災の原因となります。
電源プラグを抜いた後、販売店にご連絡ください。



電源プラグを抜く

一般のゴミとして放置しない
火災・けがの原因となります。
廃棄するときは、販売店にご連絡ください。



禁止

電源は、交流 100V のコンセントを単独で使用すること
コンセントを他の器具と同時に使ったり、延長コードを使うと火災、感電の原因となります。



強制

内線・外線の各端子をショートさせないでください。
火災、故障の原因となります。



禁止

安全上のご注意

⚠ 警告

テーブルタップや分岐コンセント・分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないこと
火災・感電の原因となります。



禁止

傾いた台の上や、振動、衝撃の多いところに置かないこと
落し・転倒し、けがの原因となります。落下・転倒により破損したときは電源プラグを抜いて販売店にご相談ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと
感電、けがの原因となります。



ぬれ手禁止

電源コードを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、高温部に近づけたり、重い物を載せたり、挟み込んだり、加工したりしないこと
電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。



禁止

電源プラグの刃及び刃の取付面にほこりが付着している場合は、よくふくこと
火災の原因となります。



強制

バッテリー内部からもれた液が皮膚や衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流すこと、また主装置に付着した場合は、液に直接ふれないように、ふきとること
皮膚がかぶれたり、主装置が破損する原因となります。



強制

主装置の右側面（バッテリー収納部）に火の気を近づけたり、加熱しないこと
液もれ・発熱・破裂し、火災、けがの原因となります。



火気禁止

風呂場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないこと
火災・感電・故障の原因となります。



禁止

工事・保守者以外は、装置の蓋等を開けないでください
感電の原因となります。



禁止

⚠ 注意

電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らないこと
コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源プラグを持って抜いてください。



禁止

電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込むこと
感電、ショート、発煙、発火の原因となります。



強制

上に乗ったり、座ったりしないこと
けがや故障の原因となります。



禁止

本機を壁掛けにするとき、本機器の重みにより落下しないように堅固に取り付け・設置すること
落下してけがの原因となります。



禁止

直射日光の当たるところや、暖房設備・ボイラーなどのため著しく温度が上昇するところ
に置かないこと
内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。



禁止

調理台のそばなど油飛びや湯気が当たらないような場所、埃が多い場所に置かないこと
火災・感電の原因となります。



禁止

本機器の開口部をふさがないこと
開口部をふさぐと、内部の熱が上昇し、火災の原因となることがあります。



禁止

安全上のご注意

電話機について

⚠ 危険

コードレス電話機内蔵のニカド電池は、専用品を使用すること
火災・けがの原因となります。



ニカド電池は、分解・改造・修理しないこと、また火の中に投げ入れたり、加熱
しないこと
破裂、発火、けがの原因となります。



不要になったニカド電池を廃棄するときは、ショート防止のために、電極に絶縁
テープを貼り、地方自治体の条例や規則に従うこと
電極がショートすると、破裂、発火の原因となります。



⚠ 警告

分解・改造・修理しないこと
火災、感電、けがの原因となります。
電話機の改造は法令違反になります。故障のときは販売店に修理をご依頼ください。



取付位置を変更しないこと
火災、感電、けがの原因となります。
配線工事を行うには資格が必要です。販売店にご相談ください。



傾いた台の上や、振動、衝撃の多いところに置かないこと
落下・転倒し、けがの原因となります。落下・転倒により破損したときは、電話
ケーブルを抜いて、販売店にご相談ください。



風呂場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないこと
火災、感電、故障の原因となります。



壁掛け設置のとき、電話機の重みにより落下しないように専用壁掛け金具を使用
して取り付けること
落下してけがの原因となります。



雷が激しいときは、電話ケーブルに触れないこと
感電の原因となります。



電話機の開口部から金属類を入れないこと
万一、異物が入ったときは、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連
絡ください。そのまま使用すると、火災、感電の原因となります。



そばに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器を置かないこと
水などがこぼれて、中に入った場合、火災、感電の原因となります。



安全上のご注意

⚠ 警告

もし、煙が出ている、異常音がする、変なにおいがするなど、異常が発生したときは、すぐに電源プラグを抜くことそのまま使用すると、火災の原因となります。電源プラグを抜いた後、販売店にご連絡ください。



充電端子に水がついたまま充電しないこと
火災・感電の原因となります。



⚠ 注意

直射日光の当たるところや、暖房設備・ボイラー・熱器具などの近くに置かないこと
内部の温度が上がり、火災の原因となります。



調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりが多い場所に置かないこと
火災、感電の原因となります。



電話機の開口部をふさがないこと
開口部をふさぐと、内部の熱が上昇し、火災の原因となります。



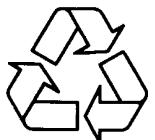
取扱上のお願い

主装置、電話機、他

海外でのご使用はできません
本機器は、日本国内の基準に適合するように設計されています。

オプションの停電用電源を接続している場合は、電源スイッチが「入」のままで、電源プラグを抜いたり、配電盤などの電源を切らないでください。
バッテリーが放電してしまい、停電時に、動作しなくなります。また、バッテリーの寿命を縮める原因になります。

【電池回収についてのお願い】



Pb

この製品（主装置）には、小形シール鉛電池を使用しています。
リサイクルにご協力ください。

目 次

第 1 章 お使いになる前に

1	各部の名称とはたらき	16
2	液晶ディスプレイの見方	18
3	ランプ表示	19
4	音の種類一覧	20

第 2 章 電話機を調整する

1	電話機の角度をかえる	22
2	日付・時刻をあわせる	23
3	時刻アラームを使用する	24
3.1	アラーム時刻の設定	24
3.2	アラーム時刻の解除	24
4	保留メロディを変更する	25
5	音量を調節する	26
5.1	受話音量を調節する	26
5.2	スピーカの音量を調節する	26
5.3	着信の音量を調節する	26
5.4	側音量を調節する	26
5.5	マイクの音量を調節する	27
6	ディスプレイの濃淡を調節する	27
7	キータッチトーンを切り替える	27
8	フッキング信号を送出する	27

第 3 章 サービスマニューやを利用する

1	サービスメニューのキー操作について	30
2	文字入力方法（漢字 / カタカナ / 英字 / 数字）	31
2.1	文字入力キー一覧	31
2.2	漢字登録のときの操作手順	32
2.3	カナ登録のときの操作手順	33
	<文字入力例（スズキイチロウの場合）>	
	<文字入力の修正例（スズキイタロウ スズキイチロウの場合）>	
3	メニュー項目について	35
4	操作例	36

第 4 章 電話機に機能を登録する

1	フレキシブルキーに機能を割り付ける	38
1.1	初期立上げ時のフレキシブルキーへの機能割付け	38
1.2	フレキシブルキーに機能を登録する	38
1.3	登録を削除する	39
1.4	機能一覧	40
2	フレキシブルキーにシステム短縮番号を登録する	41
2.1	短縮番号を登録する	41
2.2	短縮番号登録を削除する	42
3	フレキシブルキーに外線番号 / 内線番号を登録する	43
3.1	フレキシブルキーに登録する	43
3.2	登録を削除する	44
4	フレキシブルキーにメールボックスを登録する	45

目 次

4.1 メールボックスを登録する	45
4.2 登録を削除する	46
5 フレキシブルキーに DSS キーを登録する	47
5.1 DSS キーを登録する	47
5.2 登録を削除する	47
6 特番を設定する	48
7 相手側のディスプレイに名前を表示する（内線発呼者名表示）	49
7.1 内線ネームを登録する	49
7.2 登録を変更・削除する	50

第 5 章 電話機の基本的な使い方

1. 電話のかけかた	52
1 外線にかける	52
1.1 普通にかけるには（任意外線発信）	52
1.2 指定した外線からかけるには（指定外線捕捉）	53
1.3 オートダイヤルキーでかけるには（オートダイヤル）	53
1.4 システム短縮番号でかけるには（システム短縮ダイヤル）	54
<システム短縮番号によるかけかた> <システム短縮番号検索によるかけかた>	
<相手先名称（ネーム）検索によるかけかた> <システム短縮番号を登録するには>	
<システム短縮番号を変更するには> <システム短縮番号を削除するには>	
1.5 最後にかけた相手に再度かけるには（リダイヤル）	62
<最後にかけた相手に発信するには>	
1.6 蓄積されている発信記録 / 着信記録をシステム短縮番号に登録するには	63
<システム短縮番号に登録する>	
1.7 発信記録 / 着信記録から電話するには（履歴表示）	63
1.8 発信記録 / 着信記録を削除する	64
2 便利な外線発信機能	65
2.1 受話器を戻さずにかけ直すには（クイックリダイヤル）	65
2.2 かけ直しを繰り返すには（オートリピート）	65
2.3 ダイヤルメモリでかけるには（ダイヤルメモリ）	66
<ダイヤルメモリに電話番号を登録するには> <ダイヤルメモリを消去するには>	
2.4 別の電話機のダイヤルメモリを使ってかけるには（代理発信）	67
2.5 外線予約するには（発信予約）	68
2.6 電話番号を確認して発信するには（プリセットダイヤル）	69
2.7 マルチステーションキーを使ってかけるには（マルチステーションキー回線捕捉）	69
2.8 発信した回線から自動的に MSA を選択するには（回線捕捉時自動 MSA 捕捉）	69
2.9 NCC 回線を指定してかけるには（キャリア選択発信）	70
2.10 割引回線等の回線から優先して選択するには（割引回線優先捕捉）	70
2.11 優先接続（マイライン）	71
3 内線にかける	72
3.1 普通にかけるには（トーン呼出し）	72
3.2 内線登録したフレキシブルキーでかけるには（内線ワンタッチコール）	72
4 便利な内線発信機能	73
4.1 ホットラインでかけるには（ホットライン）	73
4.2 音声で呼び出すには（内線音声呼出し）	73
4.3 グループ内の空き電話を呼出すには（内線代表）	74
4.4 グループ内の内線電話を一斉に呼出すには（グループ音声呼出し）	74
4.5 すべての内線電話を一斉に呼出すには（一斉呼出し）	75

目 次

4.6	DGL グループを呼出すには (DGL グループ呼出し)	75
4.7	話し中の内線電話を予約するには (内線キャンプオンビジー)	76
	<予約するには> <相手のお話が終わったら>	
4.8	内線の呼び先を順次変更するには (シリーズコール)	76
2.	電話の受けかた	77
1	外線を受ける	77
1.1	普通に受けるには (任意外線応答)	77
2	内線を受ける	77
2.1	普通に受けるには (内線自動応答)	77
2.2	音声呼出しを受けたときには (音声呼出し)	78
2.3	受話器を上げずに受けるには (内線ハンズフリー応答)	78
2.4	グループ内の別の電話を受けるには (代理応答)	79
2.5	他グループの電話を受けるには (指定代理応答)	79
2.6	グループ内の電話が一斉音声呼出しを受けたときには (グループ呼出し応答)	80
2.7	DGL グループ呼出しに応答するには	80
3	DIL/DID 表示の電話を受ける	81
3.	保留のしかた	82
1	通話相手に一時お待ちいただくには (保留)	82
1.1	保留の解除は自分の電話機です (自己保留)	82
1.2	保留の解除を別の電話機です (通話保留)	82
	<保留のしかた> <別の電話機で保留を解除する> <保留した電話機で解除する>	
1.3	パーク保留をする (パーク保留)	84
	<保留のしかた> <別の電話機の保留を解除する>	
4.	転送のしかた	85
1	通話中の外線を内線に転送する	85
1.1	転送先に呼びかけて転送する (口頭転送)	85
1.2	ダイヤルして転送する (ダイヤル転送)	86
1.3	内線ワンタッチダイヤルキーで転送する (内線ワンタッチダイヤルキー転送)	86

第 6 章 電話機の便利な使い方

1.	夜間や留守番のときに便利な機能	88
1	昼 / 夜モードを切替えるには (夜間鳴動先指定 / 留守応答)	88
	<夜間モードに切替えるには> <解除するには>	
2	夜間の着信先を一定時間後別の内線に転送するには (応答遅延転送)	88
3	指定の外線着信に録音メッセージを送る (留守応答)	89
	<応答メッセージを録音する>	
4	一般着信を 1 台の電話機で受ける (集中着信)	91
	<集中着信にするには> <集中着信を解除するには>	
5	通話中に別の外線着信を一時待つてもらうには (着信ウェイトメッセージ)	92
2.	席を離れるときには	93
1	外線着信を指定した相手に自動転送するには (指定外線自動転送)	93
	<自動転送にするには> <自動転送を解除するには>	
	<転送される外線に電話番号を登録する>	
2	外線着信を手動で別の外線に転送するには (外線手動転送)	96

目 次

3	不在のメッセージを送る（不在設定）.....	97
	<メッセージを選ぶには> <不在設定にする> <不在設定を解除する>	
4	離席時に電話を転送する（不在転送）.....	98
	<不在転送先登録の手順> <不在転送先を登録する>	
	<不在転送 / 選択転送を有効とする> <不在転送を解除する>	
5	外出先から転送電話の設定などを変更するには（PB 保守）.....	101
	<外出先から転送電話の設定例：転送先を変更する>	
3.	その他の便利な機能	103
1	迷惑電話を拒否する（着信拒否）.....	103
	<個別着信中に着信拒否登録する> <外線通話中に着信拒否登録する>	
	<着信記録から登録する> <着信拒否したい電話番号を登録する>	
	<着信拒否登録の変更または削除>	
2	ナンバーディスプレイ機能を利用する	105
2.1	発番号対応着信	105
2.2	発番号別着信音選択	105
2.3	ネームディスプレイ情報を表示する	105
3	受話器を上げずにかける（オングックダイヤル）.....	106
4	相手の音声をスピーカで聞く（スピーカ受話）.....	106
5	Lモード（インターネット）を利用するには	107
	<Lモード端末収容> <Lモード対応電話機の操作方法>	
	<メッセージ到着のお知らせ>	
6	i・ナンバー機能、ダイヤルイン機能を利用するとき	108
7	3人以上で通話する	109
7.1	会議通話する（会議通話）.....	109
7.2	通話に3人目を加える（秘話解除）.....	109
7.3	通話中の外線に割込む（外線割込み通話）.....	110
7.4	通話中の内線に割込む（内線割込み通話）.....	110
8	便利な転送機能	111
8.1	発信元と転送先を交互に通話する（チェンジオーバー）	111
8.2	外線発信の依頼を受けたとき（外線依頼発信）	112
9	キャッチホンと表示されたときは	113
10	相手が内線通話中に特番操作で終話をうながすには（通話中着信）....	114
	<内線通話中の相手を呼び出すには>	
11	[DSS] キーで電話をかける	115
12	ボイスワープを利用する（キーパッドファシリティ送出）	115
	<ボイスワープを運用開始する> <ボイスワープを運用停止する>	
	<ボイスワープの設定内容を変更する>	
13	プッシュホン信号を送る（PB エンド・ツー・エンド通信）.....	116
14	ポーズ信号は自動的に挿入される（オートポーズ）	117
15	指定外線から直接内線に着信させる（付加番号 DID）	117
16	着信の音色を選択する（着信音選択）	118
17	外線別に鳴動電話機を指定する（外線別鳴動先指定）	118
18	外線別着信音を選択する（外線別着信音選択）	119
19	通話中の外線着信表示について（通話中外線着信表示）	119
20	停電について	120
20.1	停電中に一定時間電話の機能を維持する	120
20.2	停電用電話機について	120
21	長電話を知らせる（長時間通話警告）.....	120
22	秘書機能について	121
22.1	幹部電話機を設定する	121

目 次

2.2.2	幹部電話機が話中の場合には(話中転送)	121
2.2.3	幹部電話機が離席設定の場合には(離席転送)	121
	<[離席]にするには> <[在席]にするには>	
2.2.4	幹部電話機が着信拒否をした場合は(着信拒否転送)	121
2.2.5	幹部電話機の在席/離席を代行するには(代行操作)	121
2.2.6	幹部電話機が応答しない場合には(応答遅延転送)	121
2.3	主装置で設定する機能	122
2.3.1	外線発信を規制するには(発信テナント)	122
2.3.2	市外発信を規制するには(市外発信規制)	122
2.3.3	指定市外のみ発信させるには(帯域市外発信規制)	122
2.3.4	海外発信を規制するには(国際発信規制)	122
2.3.5	特定の海外(国)のみに発信させるには(特定国際発信規制)	122
2.3.6	内線番号を登録するには(ナンバーグループ)	122
2.3.7	発信者番号別に着信を分けるには(発信者番号別着信)	123
2.3.8	課金データを遠隔地から収集するには(課金データ遠隔収集)	123
2.3.9	一般着信時の着信先が塞がっているときに着信を規制するには(使用中着信規制)	123
2.3.10	ISDN回線で回線ごとに着信拒否するには(回線ごと着信拒否指定)	123

第7章 音声メールの使い方

1.	音声メールの基本的な使い方	126
1	音声メール取扱上の注意	126
2	音声メールの検索キー・機能キーの割付け、録音・再生機能の自動割付け ...	127
2.1	音声メール検索キー・機能キーへの録音・再生機能の自動割付け	127
2.2	初期立上げ時のフレキシブルキーへの機能割付け	127
3	パスワードを設定する	128
3.1	パスワードの新規登録	128
3.2	パスワードの変更	129
3.3	パスワードの消去	130
4	通話録音機能を利用する	131
4.1	受けた電話を自動的に録音する(着信自動録音)	131
	<着信自動録音の設定> <着信自動録音の解除>	
	<着信自動録音の録音先指定> <着信自動録音の取消>	
4.2	通話中に録音を開始する(通話録音)	133
4.3	通話録音中に保留する	134
	<自己の電話機で保留/解除する> <他の電話機で保留を解除する>	
4.4	通話録音中に転送する	135
	<転送先に呼びかけて転送する(口頭転送)> <内線にダイヤルして転送する>	
5	メールサービスを利用する	137
5.1	自分あてのメッセージを聞き出す(メッセージ再生)	137
	<自分あてのメッセージを聞く> <メッセージの状態表示>	
	<メールアクセス中にできる操作と内容>	
5.2	メッセージの消去と保存	142
	<再生後メッセージを消去する> <再生後メッセージを保存する>	
5.3	メールボックスにメッセージを録音する(伝言録音)	143
	<伝言メッセージの録音> <メッセージ録音中にできる操作>	
2.	音声メールの応用的な使い方	145
1	メッセージ通知で外出先の電話を呼び出す	145

目 次

1.1	メッセージを外線に通知する	145
	<メッセージ通知先の登録> <メッセージ通知の開始の設定>	
	<メッセージ通知の解除>	
1.2	メッセージ通知で外出先からメッセージを聞き出す	148
	<メッセージ通知先の電話からメッセージを聞く>	
2	不在代行 / 着信代行サービス	149
2.1	応答メッセージを録音する	149
	<応答メッセージの録音> <応答メッセージの消去>	
2.2	外出・離席中にかかってきた電話（個別着信のとき）（不在代行）	152
	<不在代行登録の手順> <不在代行の登録>	
	<不在代行の設定（解除中からの設定）> <不在代行の解除>	
2.3	夜間・休日などにかかってきた電話（夜間切替のとき）（着信代行）	155
	<着信代行の設定（解除中からの設定）> <応答ガイダンス>	
	<応答ガイダンスの切替> <着信代行の解除>	
	<不在代行、着信代行で録音するか、しないかを設定>	
3	メールサービスの便利な使い方	158
3.1	他の人にメッセージを転送する	158
3.2	外出先からメッセージを聞き出す	159
	<音声メールに直接電話する> <外線を音声メールに転送する>	
	<メッセージを聞いた後、内線に接続する（内線呼出）>	
3.3	外出先からメッセージを録音する	161
	<代行応答中から録音する（外線メールサービス中伝言録音）>	
	<通話中から録音する（録音転送）>	
3.4	外出先から内線を呼び出して通話する	163
	<代行応答中から内線を呼び出す（内線呼出サービス）>	
3.5	外出先からいろいろな設定を変更する（PB保守）	164
	<メッセージ通知の設定と解除> <不在代行の設定と解除>	

第8章 ご参考に

1	VOIP(FOIP)専用線収容	168
2	VOIP専用線を使ってFAXを送信する	169
2.1	FAXを送信する	169
2.2	FAXを転送する	169
3	通話料金の管理	170
3.1	度数・通話時間・料金の表示について	170
	<度数表示> <通話時間と料金表示>	
3.2	通話料金を集計表示する	171
	<予算を設定する>	
4	周辺機器との接続	173
4.1	ファクシミリとの接続	173
	<ファクシミリ手動転送> <ファクシミリ状況表示>	
4.2	構内放送装置との接続	173
	<構内放送するには> <構内放送で呼出を受けたとき>	
4.3	ドアホンとの接続	175
	<ドアホンの呼出しに応答する>（ドアホン着信応答）	
	<ドアホンで外の音声を聞く>（ドアホンモニタ）	
	<ドアホンを呼出す>（ドアホン呼出し）	
4.4	プリンタとの接続	176
	<課金情報の出力> <内線ごとの料金出力>	
4.5	ヘッドセットとの接続	178

目 次

<ヘッドセットの接続> <電話のかけかた> <電話の受けかた>		
4.6	外部保留音との接続	179
4.7	単独電話機との接続	179
4.8	高音量ベルとの接続	179
5	ISDN回線の利用	180
5.1	ISDN回線への発信	180
<普通にかけるには> <直通内線電話機にかけるには> (着サブアドレス付加発信)		
5.2	ISDN回線からの着信	181
<普通に受ける> (任意外線応答)		
<サブアドレス表示の受けかた> (着サブアドレス DID)		
5.3	ISDN回線またはMSAキーの使用制限について	182
<登録> <解除>		

本書の構成

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

外線

内線

保留

転送

留守

第1章 お使いになる前に

電話機を操作頂く上で必要な各部の名称やディスプレイの見方等、予備知識をまとめました。

第2章 電話機を調整する

電話機を快適にお使い頂くため必要な日時や角度や音量等、電話機の調節のしかたをまとめました。

第3章 サービスマニューカーを利用する

サービスメニューを利用すると、操作性が格段にアップします。操作例を交えて分かり易く解説しています。

第4章 電話機に機能を登録する

各種の便利な機能を利用するには、フレキシブルキーへの機能登録が必須です。

第5章 電話機の基本的な使い方

電話のかけかた及び受けかた、受けた電話を保留したり転送したり、電話機の基本的な操作方法についてまとめました。

第6章 電話機の便利な使い方

夜間や留守中など電話に出れない場合に便利な機能等、知っておくと便利な機能をまとめました。

第7章 音声メールの使い方

音声メールについて、初心者向けの基本的な使い方と、パワーユーザ向けの応用的な使い方をまとめました。

第8章 ご参考に

VOIP や LAN 専用線収容、VOIP 専用線を使用した FAX 送信、通話料金管理、周辺機器との接続、ISDN 回線や NTT ナンバーディスプレイの利用等を参考資料としてまとめました。

第1章

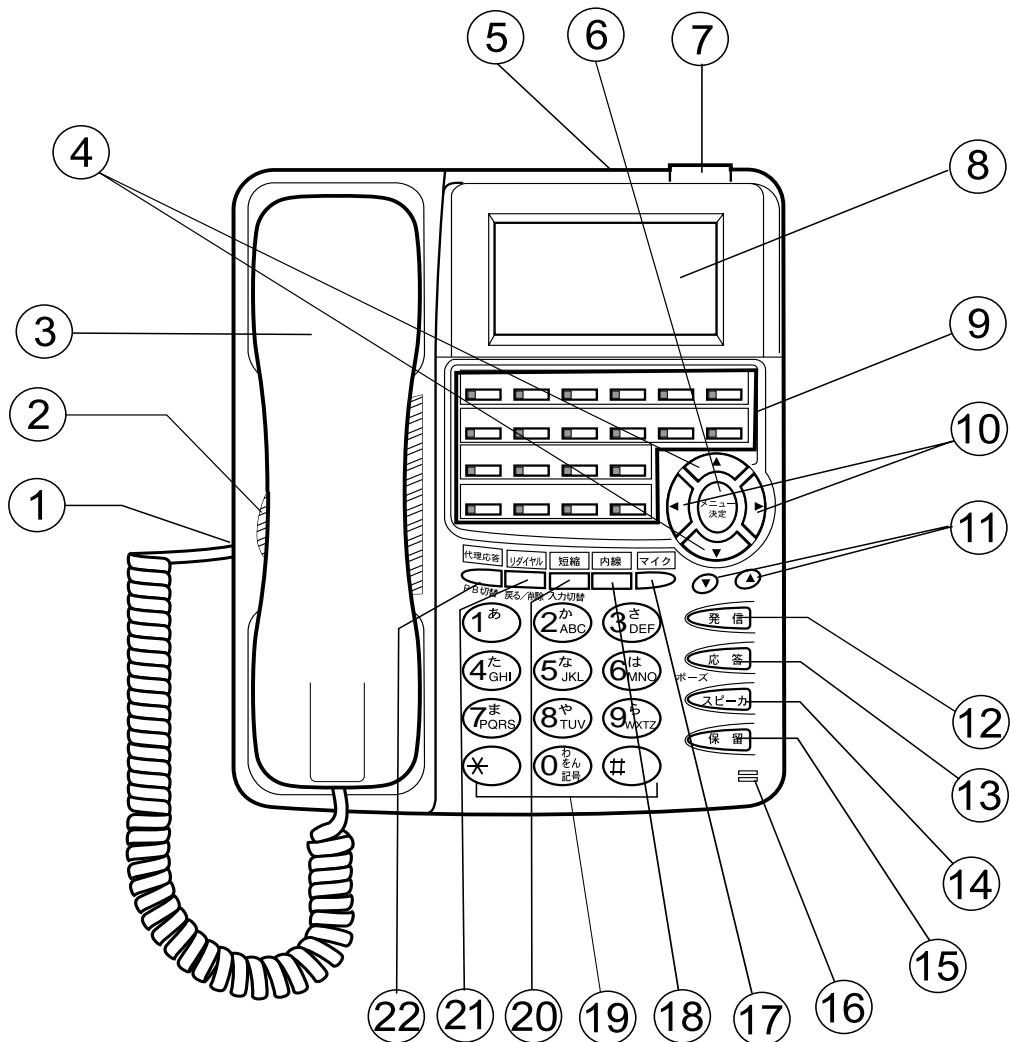
お使いになる前に

1	各部の名称とはたらき	16
2	液晶ディスプレイの見方	18
3	ランプ表示	19
4	音の種類一覧	20

1

各部の名称とはたらき

RE 20 表示付電話機

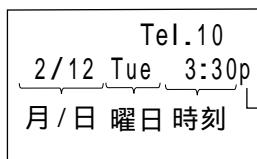


受話器用ジャック	: 受話器またはヘッドセットを接続します。
スピーカ	: 着信音や相手の声を聞くことができます。
受話器	: こちらの声を伝えたり、相手の声を聞くときに使います。
 キー	: 項目の選択キーです。[] [] キーを押すごとにカーソル位置が移動します。
「LINE」端子	: 主装置からの電話回線を接続します。
メニュー / 決定 キー	: 番号検索、履歴表示、番号登録等、各種の検索、登録 / 変更のメニュー表示と登録 / 変更の決定に使います。
「着信 / MBX」ランプ	: 自分のメールボックスにメールが届いているとき、点灯します。 自分の電話に個別着信があると点滅します。
ディスプレイ	: 外線・内線の電話番号、日付など各種情報を文字で表示します。
フレキシブル キー・ランプ	: 外線キー、DSS キー、代理応答キー、集中着信キーなど、いろいろな機能を割付けて使います。
 キー	: 文字数字入力の選択キーです。[<] [>] キーを押すごとにカーソル位置が移動します。
 キー	: スピーカ受話のとき、スピーカの音量を調節できます。受話器をあげているときは、受話音量を調節できます。また、電話機が使われていないとき、着信音量、側音量、マイク音量、ディスプレイの濃淡を調節します。
発信 キー・ランプ	: 外線で自動選択発信するときに押します。ランプは赤く点滅します。
応答 キー・ランプ	: 外線キーを押さなくても、外線着信に応答できます。番号入力中「ポーズ入力」キーとなります。
スピーカ キー・ランプ	: 受話器をあげずにダイヤルするときに使います。また、受話器の代わりに相手の音声を聞くときに使います。ランプは赤く点灯します。
保留 キー	: 通話中の相手に一時待ってもらうときに押します。
マイク	: 相手に音声を送るときに「マイク」キーを押して使います。
マイク キー・ランプ	: 受話器をあげずに応答するときに押します。そのときランプは赤く点灯します。(内線ハンズフリー応答)
内線 キー・ランプ	: 内線に電話を転送するときに使います。
「ダイヤル」キー	: 電話をかけたり、登録や設定のときに使います。
短縮 / 入力切替 キー	: 短縮登録された相手先に発信するときに押します。サービスメニューで文字入力のとき「入力モード切替」となります。
リダイヤル / 戻る / 削除 キー	: キーを押すことにより、前回ダイヤルした相手先番号を自動的に再発信できます。サービスメニューの操作中は、1つ前のメニューに戻す、または入力した文字の削除に使います。
代理応答 / PB 切替 キー	: 他の電話機への着信を応答するときに使います。サービスメニューでダイヤル入力時は、PB信号切替の入力キーとなります。

2

液晶ディスプレイの見方

〔待機中〕



午前 / 午後表示
午前 : 表示なし
午後 : p

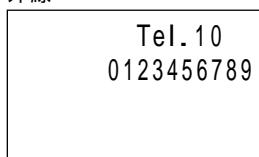
〔電話をかけるとき〕

- (1) 外線または内線を捕捉すると自分の内線番号表示のみとなります。



- (2) ダイヤルするとダイヤル番号が下の段に表示されます。

外線

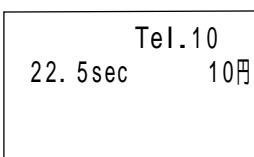


内線



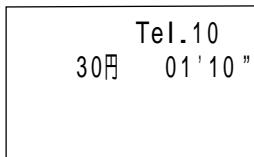
(3) 相手応答(外線)

外線の場合には相手が応答すると通話料金と通話時間が下の段に表示されます。



(4) 電話をかけ終ったとき(外線)

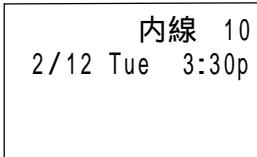
料金表示、時間表示は約5秒間表示されます。



〔内線着信〕

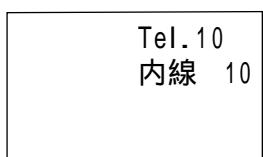
(1) 着信中

かけてきた相手の内線番号または、名前が上段に表示されます。



(2) 応答

相手の内線番号と名前が下段に表示されます。

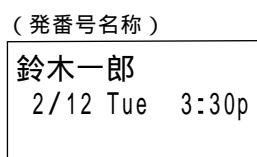


〔外線着信〕

ナンバーディスプレイ情報ありの場合

(1) 一般着信中

上段に相手の電話番号または名前が表示されます。

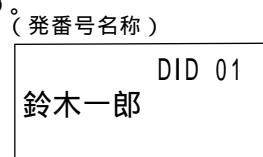


(発番号名称)

0123456789
2/12 Tue 3:30p

(2) DIL等個別着信中

上段に着信モード、下段に相手の電話番号または名前が表示されます。



(発番号名称)

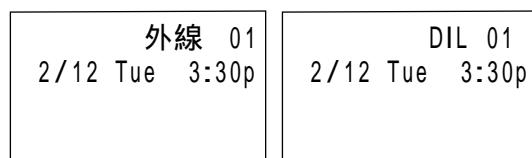
DIL 01
0123456789

DID 01
鈴木一郎

ナンバーディスプレイ情報なしの場合

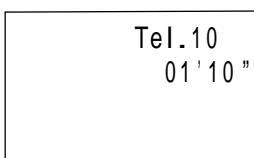
(1) 着信中

一般着信.....ガイセン DIL.....DIL



(2) 通話中

通話時間が表示されます。



Tel.10
01'10"

3

ランプ表示

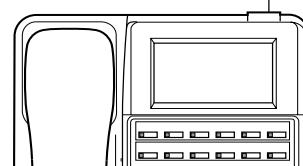
ランプの種類	ランプのつき方(色)	電話機の状態
着信ランプ	速い点滅(赤) 点灯(赤)	自分の電話機に着信があるとき(個別着信中) 未聴取メッセージがあるとき(音声メール)
外線ランプ	点灯(緑) 点灯(赤) 速い点滅(赤) 速い点滅(橙) 速い点滅(橙・緑) 速い点滅(緑) 遅い点滅(橙・緑) 遅い点滅(緑) 遅い点滅(橙)	自分で使用中 他の人が使用中 一般着信中 個別着信中 自分で保留した場合の長時間保留警報中 他の人が通話保留した場合または他の人が通話保留した場合の長時間保留警報中 自分で保留したとき 外線キャンプオン(転送先) 秘話解除中 / ISDN回線の外線キー、MSAキー使用制限中
	点灯(赤)	外線が全部使用中のとき
	速い点滅(赤)	着信中
	点灯(赤)	オノフックダイヤル中、スピーカ受話中
	点灯(赤) 速い点滅(赤) 遅い点滅(赤)	内線使用中 内線着信中 転送保留中
	点灯(赤)	マイクONのとき
	消灯 点灯(橙) 点灯(緑) 消灯 / 点灯(橙) 速い点滅(赤)	着信自動録音解除中 着信自動録音登録中 通話録音中 通話録音保留中 通話録音開始不可(通話録音開始時に総録音時間不足、録音件数満杯、使用中で録音開始できない場合、約2秒間表示後着信自動録音モード表示に戻ります。)
	点滅(緑) 点灯(赤) 消灯	未聴取メッセージあり 全メッセージ聴取済み メッセージなし

補足

「代理応答」キー、「リダイヤル」キー、「短縮」キーは、キーを押した時ランプはつきません。



「着信 / メッセージ」ランプは、当該内線の内線メールボックスに登録されているメッセージの聴取状況を示します。ただし、内線に個別着信が入っているときは、着信表示を優先します。
 音声メールの録音が満杯になると、「メールボックス」ランプが高速点滅(赤色)します。この表示は、不要なメッセージを消去して録音満杯が解消されるまで継続します。
 録音満杯の条件
 (1) 録音件数が128件
 (2) 録音可能残り時間がメッセージ録音最短時間より少なくなったとき。
 (3) 録音可能残り時間が30秒を切ったとき。
 上記(1)～(3)の条件を一つでも満たすようになったときは、録音満杯となります。



4

音の種類一覧

種類		音	位置
発信者	外線	ツー	受話器またはスピーカ
	内線	ツーツー	
着信者	内線	ブルブル・・・ブルブル	スピーカ
	外線、PBX経由	ブルル・・・ブルル	
	DIL/DID、外線キャンプオン	ブルブルブル・・・ブルブルブル	
	PBX内線経由	ブルブル・・・ブルブル	
	PBX外線経由のDIL/DID、外線キャンプオン	ブルブルブル、ブルブルブル	
	通話中の外線、ドアホン	ピー・・・ピー	
話中音		ツーッツーッ	受話器またはスピーカ
呼出し確認音		ピピ	
登録／解除終了音		ピー	
フッキングダイヤル		ツーツー	受話器
保留音		メロディ	受話器またはスピーカ
保留警告音		ピー・・・ピー	スピーカ
エラー音		ピーピー	受話器またはスピーカ
付加番号DIDの内線発信音		プブブブブ	外線に送出
付加番号DIDの話中音		ブーッブーッ	
付加番号DIDの呼出し確認音		ブルブル、ブルブル	

第2章

電話機を調整する

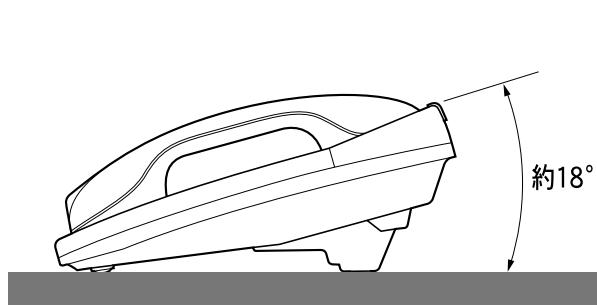
1	電話機の角度をかえる	22
2	日付・時刻をあわせる	23
3	時刻アラームを使用する	24
4	保留メロディを変更する	25
5	音量を調節する	26
6	ディスプレイの濃淡を調節する	27
7	キータッチトーンを切り替える	27
8	フッキング信号を送出する	27

1

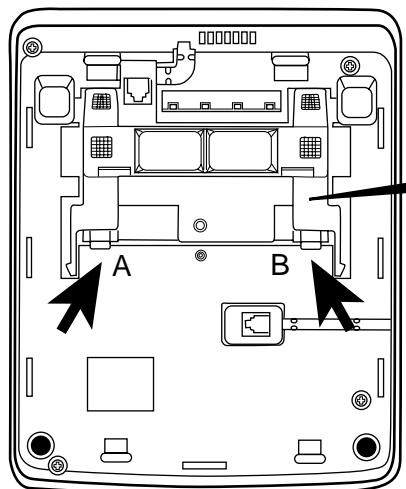
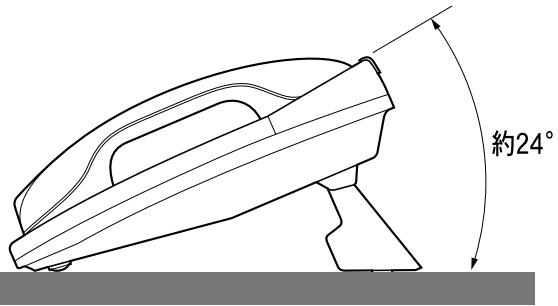
電話機の角度をかえる

RE 20 表示付電話機の角度を変えることができます。
裏面のアングルアジャスタを使って下図のように角度を変えます。

アングルアジャスタを利用しない場合

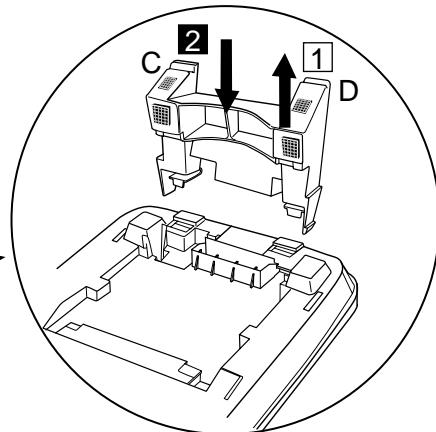


アングルアジャスタを利用した場合



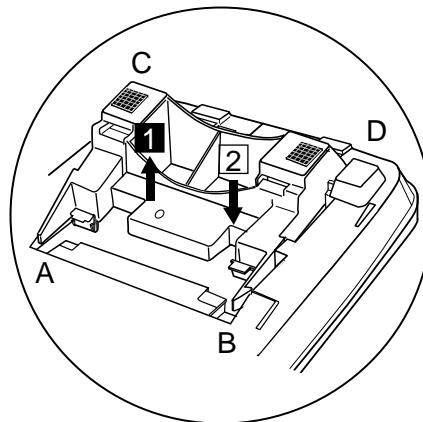
[アングルアジャスタを利用する]

- ① A と B のツメを押しながら角度切替用足を底板から外します。
- ② 角度切替用足を電話機の底板の溝に差し込みます。



[アングルアジャスタを収納する]

- ① 角度切替用足を上に引き上げます。
- ② C と D を底板の溝に差し込み、矢印方向にパチンと いうまで押します。



2

日付・時刻をあわせる

ご使用になる前にシステム管理電話機で日付・時刻をあわせてください。

日付を合わせる



1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“4(時刻設定)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



3 キーで“2(日時変更)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す

日時変更
2002年01月01日
00時00分

表示画面は、出荷時の表示です。変更した場合は、現在の日時が表示されます。



4 年月日、時分をダイヤルする

年は西暦の下2桁をダイヤルします。

月、日は2桁づつダイヤルします。1月1日の場合「0101」とダイヤルします。

時刻は24時間制で4桁ダイヤルします。0時0分の場合「0000」とダイヤルします。

例：2002年2月12日15時30分

0202121530



5 [メニュー/決定] キーを押す

設定できた場合は、「ピー」と鳴ります。



6 [スピーカ] キーを押す

補足

システム管理電話機は、初期では内線番号の一番若い電話機になっています。
システム管理電話機が不明のときは、販売店にご相談ください。

ご注意

工事設定により次の選択ができます。工事については、販売店にご相談ください。
時刻表示は、12時間制と24時間制の選択ができます。初期は12時間制となっています。

曜日表示は英小文字(Mon)/英大文字(MON)/漢字の(月)の3種類より選択できます。

3

時刻アラームを使用する

電話機ごとに設定した時刻にアラーム音を鳴動させることができます。あらかじめフレキシブルキーへの登録が必要です。

3.1 アラーム時刻の設定

操作手順



1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“4(時刻設定)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



3 キーで“1(時刻アラーム設定)”を選
び、[メニュー/決定] キーを押す

時刻アラーム
--時--分



4 時・分をダイヤルする

時刻は24時間制でダイヤルします。
(00:00 ~ 23:59)



5 [メニュー/決定] キーを押す

設定できたときは、「ピー」と鳴ります。
アラーム時刻が設定されると毎日設定した時刻
のたびに、「ピピ、・・ピピ」と約10秒間スピ
カが鳴動します。

補足

《アラーム》キーでアラーム時刻を設定するときは、操作手順1~3の代わりに《アラーム》キーを押します。

《アラーム》キーは《フレキシブル》キーにあらかじめ設定しておきます。設定方法は、P.38「フレキシブルキーに機能を割付ける」を参照してください。

3.2 アラーム時刻の解除

操作手順

アラーム



1 《アラーム》キーを押す

「ピー」と鳴り《アラーム》ランプが消灯し、ア
ラームは解除されます。

4

保留メロディを変更する

11種類の保留メロディから選択することができます。
この機能が使えるのはシステム管理電話機です。

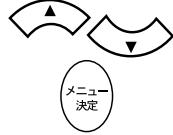
操作手順

- 1 [メニュー/決定] キーを押す

- 2 キーで“8(その他設定)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す

- 3 キーで“2(システム設定)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す

- 4 キーで“2(保留音曲名)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す
現在設定されている保留メロディがスピーカから流れます。

- 5 保留音曲名(11種類)から1曲選択し
[メニュー/決定] キーを押す
現在設定されている保留メロディは、曲名の最後に [*] が表示され画面起動時に「*」位置が反転選択されます。
保留音曲名を選択すると設定曲がスピーカから流れます。

- 6 [スピーカ] キーを押す


〔保留メロディ一覧〕

No.	保留メロディ	No.	保留メロディ
1	アリア	7	ザ・エンターティナ
2	ジムノペディ第1番	8	ジングルベル
3	春の歌	9	華麗なる大円舞曲
4	グリーンスリーブス	0	天国と地獄
5	峠の我が家	#	春の日の花と輝く
6	メヌエット		

補足

保留メロディは、初期では「2：ジムノペディ第1番」になっています。

ご注意

保留メロディの変更操作時、既に保留音接続中の端末や回線があるとメロディが切り替わるたびに曲が変わってしまいます。保留音を使用していないときには変更するようにしてください。

5

音量を調節する

5.1 受話音量を調節する

通話中に受話器の音量を3段階に調節できます。

- 1 通話中にVol.の[]または[]キーを押す

または

2 音量を調節する

[]キーを押すと 表示が増え音量が大きくなります。

HANDSET

[]キーを押すと 表示が減り音量が小さくなります。

HANDSET -----



待機中の場合は、[]キーまたは[]キーを押しながら“2”をダイヤルしても同様に調節できます。

5.2 スピーカの音量を調節する

スピーカ受話中にスピーカの音量を8段階に調節できます。

- 1 スピーカ受話中にVol.の[]または[]キーを押す

または

2 音量を調節する

[]キーを押すと 表示が増え音量が大きくなります。

SP VOL

[]キーを押すと 表示が減り音量が小さくなります。

SP VOL -----

5.3 着信の音量を調節する

着信音の音量は、3段階に調節できます。電話機が使われていないときに調節します。

- 1 Vol.の[]または[]キーを押しながら“1”をダイヤルする

または +

2 音量を調節する

[]キーを押すと 表示が増え音量が大きくなります。

RING

[]キーを押すと 表示が減り音量が小さくなります。

RING -----

5.4 側音量を調節する

側音量を2段階に調節できます。電話機が使われていないときに調節します。

- 1 Vol.の[]と[]キーを順番に押したまま“1”をダイヤルする

+ +

2 側音量を調節する

[]キーを押すと 表示が増え側音が大きくなります。

SIDETONE -----

[]キーを押すと 表示が減り側音が小さくなります。

SIDETONE -----



電話機がISDN回線を使用して通話を行う場合の側音量の設定です。アナログ回線の通話では自動的に側音量オフに調節されます。その他の通話の側音量はシステムで固定となります。

5.5 マイク音量を調節する

マイクの音量は3段階に調節できます。電話機が使われていないときに調節します。

- 1 Vol.の[]と[]キーを順番に押したまま“2”をダイヤルする

+ +

[]キーを押すと 表示が増えマイク音量が大きくなります。

M I C V O L -----

[]キーを押すと 表示が減りマイク音量が小さくなります。

M I C V O L -----

6

ディスプレイの濃淡を調節する

濃淡は8段階に調節できます。電話機が使われていないときに調節します。

- 1 Vol.の[]または[]キーを押しながら“3”をダイヤルする

または +

[]キーを押すと 表示が増え濃くなります。

D I S P L A Y -----

[]キーを押すと 表示が減り淡くなります。

D I S P L A Y -----

7

キータッチトーンを切り替える

キータッチトーンの有、無の設定ができます。電話機が使われていないときに調節します。

- 1 Vol.の[]と[]キーを順番に押したまま“3”をダイヤルする

+ +

[]キーを押すとON表示となり、キータッチトーンが有になります。

K E Y T O N E O N

[]キーを押すとOFF表示となり、キータッチトーンが止まります。

K E Y T O N E O F F

8

フッキング信号を送出する

アナログ回線のキャッチホンサービスを受けるとき、通話中に回線に対しフッキング信号を送出することができます。

- 1 通話中に[外線]キーまたは[フッキング]キーを押す

外線 または フッキング

補足

フレキシブルキーに[フッキング]キーを登録するには、P.38をご参照ください。

ご注意

この機能は、ISDN回線では使用できません。
この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

第3章

第3章

サービスメニューを利用する

1	サービスメニューのキー操作について	30
2	文字入力方法（漢字 / カタカナ / 英字 / 数字）	31
3	メニュー項目について	35
4	操作例	36

1

サービスメニューのキー操作について

システム短縮ダイヤル、発信記録、着信記録等の各種登録・情報参照をメニュー選択から操作することができます。

サービスメニューは、下記キーを使用して操作できます。

操作	操作キー	備考
メニューの表示		サービスメニューを表示させます。
項目の選択とデータの検索 短縮ネーム検索	 	メニュー内の項目の選択とデータの検索に使用します。 最初のキー操作で  を押します。
設定・登録・変更の決定		設定・登録・変更の内容を決定します。
発信記録 / 着信記録表示 文字入力時のカーソル移動	 	最初のキー操作で  を押すと発信記録を表示、  を押すと着信記録を表示します。 文字入力時のカーソルの移動に使用します。 発信記録または着信記録を表示しているとき16桁を超えた部分を表示したいときに使用します。  は、メニュー選択時に一つ上のメニューに戻る時にも使えます。
PB切替		サービスメニューでダイヤル入力時にPB信号切替の入力キーとして使用します。
戻る / 削除		サービスメニューを操作中、1つ前のメニューに戻す。または、入力した文字を1文字削除するとき使用します。
入力切替		文字入力する場合、「カナ」「英字」「数字」の切替に使用します。

上記キーの他、メニュー項目に対応する10キーによる項目選択が可能です。

2

文字入力方法(漢字/カタカナ/英字/数字)

相手名称登録等における文字入力方法を以下に示します。

2.1 文字入力キー一覧

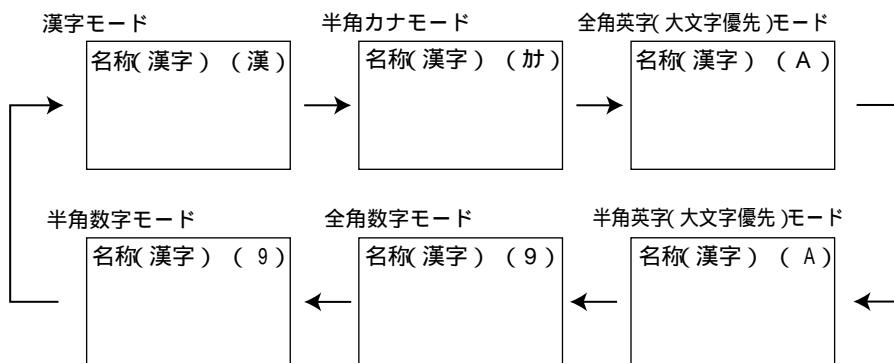
キー操作	入力モード	キーを押す回数(1回~最大17回)	数字入力モード
(1あ)	漢字	あいうえおあいうえお	1
	カナ	アイウエオアイウエオ	
(2かABC)	漢字	かきくけこ	2
	カナ	カキクケコ	
	英字	A B C a b c	
(3さDEF)	漢字	さしすせそ	3
	カナ	サシスセソ	
	英字	D E F d e f	
(4たGHI)	漢字	たちつてとっ	4
	カナ	タチツテトッ	
	英字	G H I g h i	
(5なJKL)	漢字	なにぬねの	5
	カナ	ナニヌネノ	
	英字	J K L j k l	
(6はMNO)	漢字	はひふへほ	6
	カナ	ハヒフヘホ	
	英字	M N O m n o	
(7まPQRS)	漢字	まみむめも	7
	カナ	マミムメモ	
	英字	P Q R S p q r s	
(8やTUV)	漢字	やゆよやゆよ	8
	カナ	ヤユヨヤユヨ	
	英字	T U V t u v	
(9らWXYZ)	漢字	らりるれろ	9
	カナ	ラリルレロ	
	英字	W X Y Z w x y z	
(0わ記号)	漢字	わをん゛。 - ! ? ー	0
	カナ	ワヲン゛。 - ! ? ー	
	英字	- . : & @ , _ ; ' ^ ¥ / [] _ * #	
(*)	漢字	゛。 „。	
	カナ	゛。 „。	

注: キー操作(0)の漢字、カナ、英字にあるーは、スペース(空白)が入力されます。

2.2 漢字登録のときの操作手順

1 文字入力モード切替

文字入力時に  を押すごとに下図のように切り替わります。



2 文字を入力する（最大文字数は全角8文字です）

各ダイヤルキーには、それぞれ複数の文字が割り当てられており、キーを押した回数により表示文字が切り替わります。

希望した文字が表示されたら、次の文字を入力するか ▶ キーを押すとその文字は採用されます。

3 濁点、半濁点の扱い

1つ前の入力文字に結合される濁点、半濁点の場合、入力キーは、 を使います。

例：ば、ぱ

ば：	 1回	 1回
ぱ：	 1回	 2回



独立した1文字分の濁点、半濁点の場合、入力キーは、 を使います。

例：う

う：  3回  4回

4 漢字の文節変換・確定方法

かなを入力する

名称(漢字)(漢)

いとういちろう

キーを押す

自動的に文節で区切られ、第1文節の変換候補が反転表示となる

名称(漢字)(漢)

伊藤いちろう

続けて キーを押すと反転部分の次候補が表示される

名称(漢字)(漢)

伊東いちろう

変換が正しい場合は [メニュー / 決定] キーを押す

確定した漢字は、2段目または3段目に移ります。

名称(漢字)(漢)

いちろう

引き続き、第2文節の変換となるので、キーを押し変換候補を選択する

名称(漢字) (漢)
伊東
一郎

正しい変換ができない場合は、△キーを押し文節を変えて、変換候補を選択する

名称(漢字) (漢)
井とういちろう

5 登録した漢字の修正 /挿入 / 削除方法

この操作は、表示画面4段目に文字が入力されていない時にできます。

△キーを押し修正 /挿入 / 削除位置にカーソルを移動する

例：伊東一郎

藤に修正

を押すとカーソルの部分が削除される

名称(漢字) (漢)
伊東一郎

△でカーソルを移動

名称(漢字) (漢)
伊東一郎

漢字を挿入する

漢字の文節変換、確定方法により漢字を入力します。

名称(漢字) (漢)
伊郎

名称(漢字) (漢)
伊藤一郎

6 漢字登録時の入力かな文字の名称(カナ)への反映

名称(漢字)の入力時、名称(カナ)が未入力だった場合、漢字変換時に入力した全角かな文字を全て半角カナにした文字列を名称(カナ)に自動的に反映します。正式な読み仮名と違うときは、カナを修正します。

例 入力かな：すずきいちろう 名称(カナ)：ススキイチロウ

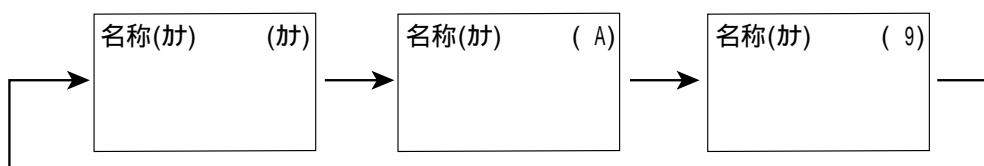
名称(漢字)：鈴木一郎

ただし、名称(カナ)にすでに何らかの入力がある場合は反映しません。

2.3 カナ登録のときの操作手順

1 文字入力モードを選び

文字入力時にを押すごとに下図のように切り替わります。



2 文字を入力する（最大入力文字数は10文字です。）

各ダイヤルキーには、それぞれ複数の文字が割り当てられており、キーを押した回数により表示文字が切り替わります。

希望した文字が表示されたら、次の文字を入力するか△キーを押すと、その文字が採用されます。

<文字入力例(スズキイチロウの場合)>

- 1  を3回押す
- 2  を押しカーソルを移動する
- 3  を3回押し、 を4回押す
または  を1回押す
- 4  を2回押す
- 5  を2回押す
- 6  を2回押す
- 7  を5回押す
- 8  を3回押す
- 9  を押す

<文字入力の修正例(スズキイタロウ→スズキイチロウの場合)>

- 1 文字入力画面で  でカーソルを「タ」に移動する
- 2  を押す
「タ」が削除されます。
- 3  を2回押す
- 4  を押す

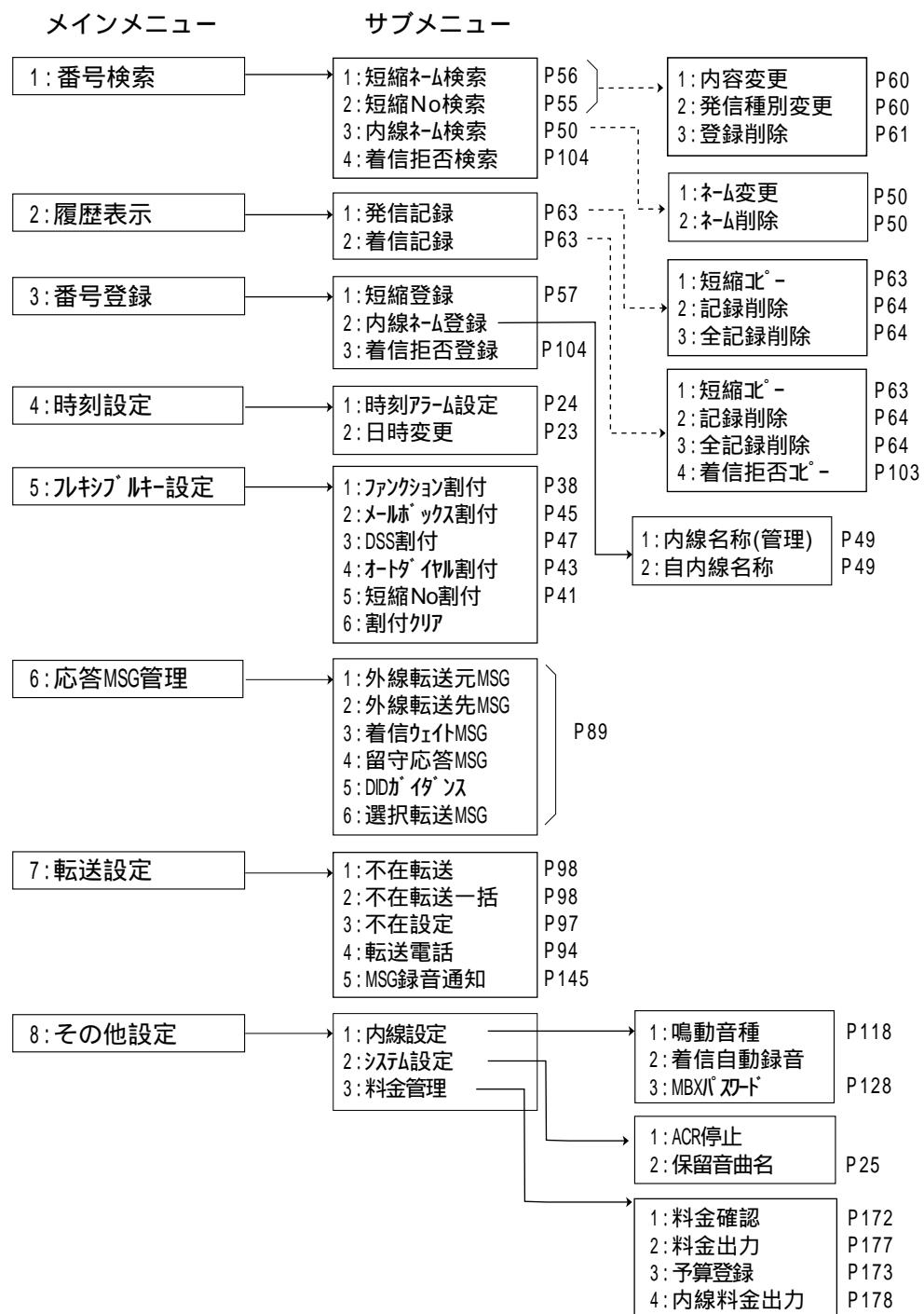
3

メニュー項目について

メインメニューおよびサブメニューのメニュー項目を以下に示します。
(ページは、詳細説明の記載されているページです。)

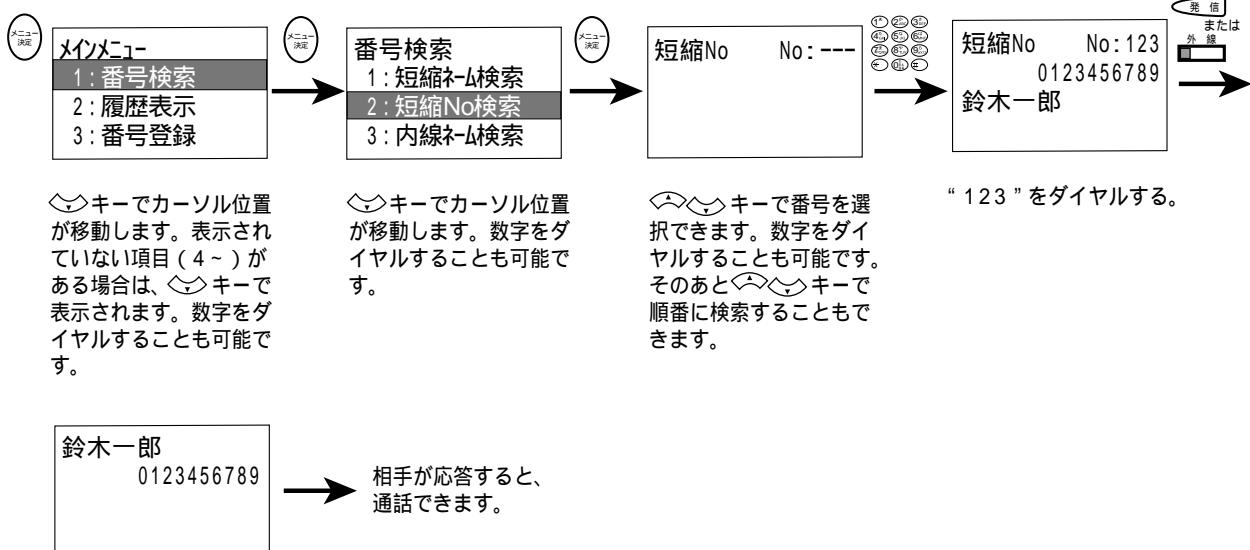
注: ----->は、サブメニューから短縮No. や名等検索後の操作を示します。

第3章

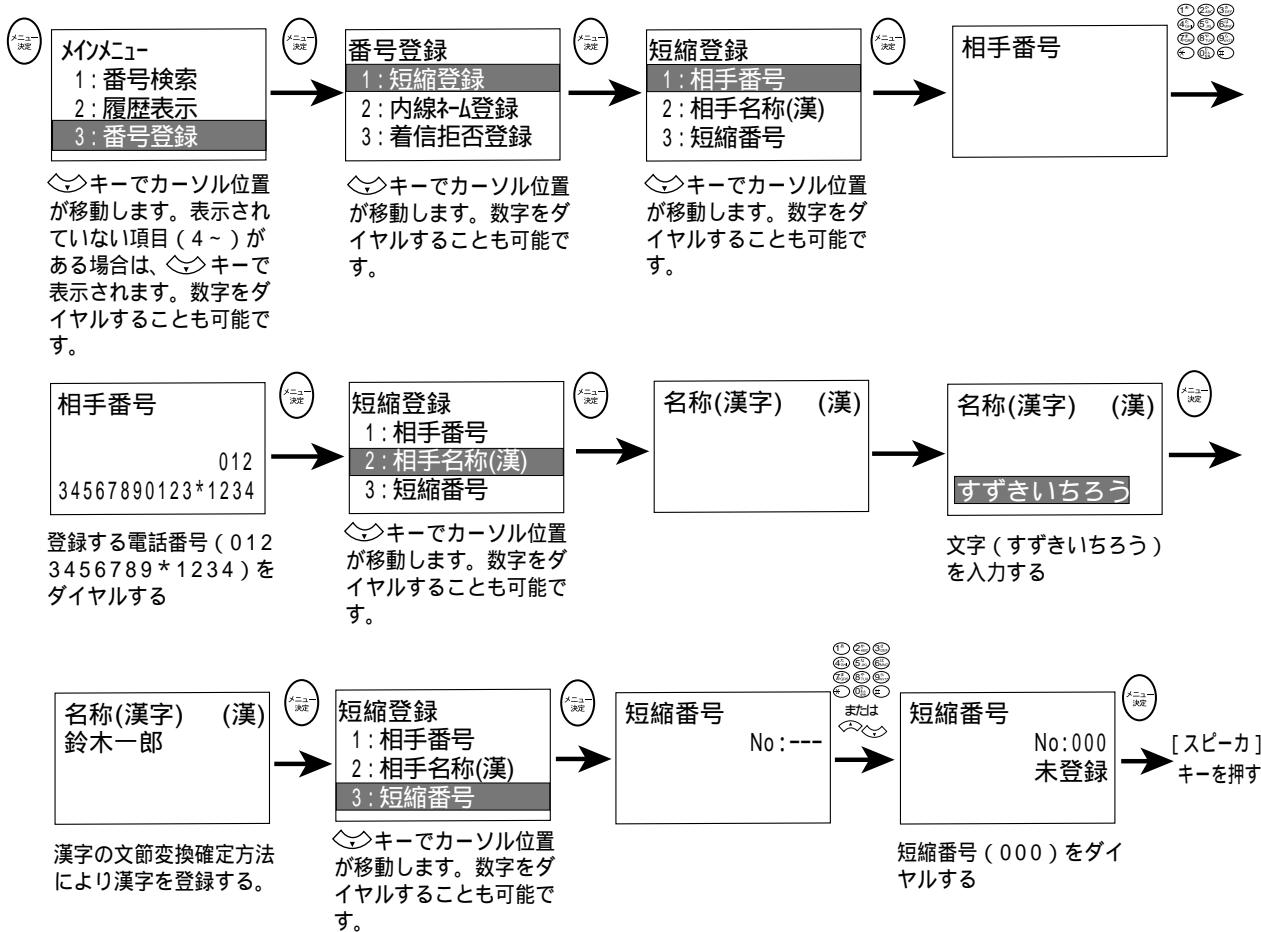


操作例

操作例 1. システム短縮番号検索による外線発信の場合



操作例 2. システム短縮番号を登録する場合



第4章

第
4
章

電話機に機能を登録する

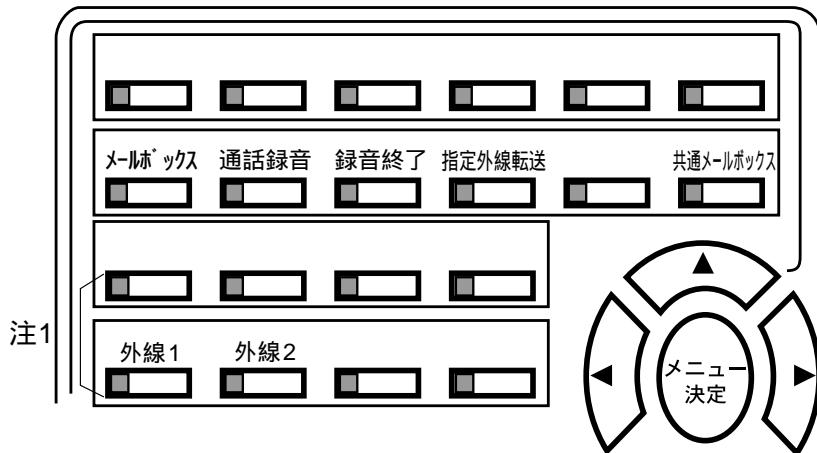
1	フレキシブルキーに機能を割り付ける	38
2	フレキシブルキーにシステム短縮番号を登録する	41
3	フレキシブルキーに外線番号 / 内線番号を登録する	43
4	フレキシブルキーにメールボックスを登録する	45
5	フレキシブルキーにDSSキーを登録する	47
6	特番を設定する	48
7	相手側のディスプレイに名前を表示する（内線発呼者名表示）	49

1

フレキシブルキーに機能を割り付ける

電話機ごとにフレキシブルキーに下記表に示す機能を割付けて使用することができます。

1.1 初期立上げ時のフレキシブルキーへの機能割付け



注1：収容した回線数に従い、外線8まで自動で割り付けられます。

補足

初期立上げ時のフレキシブルキーの機能割付けを変更する場合に、「1.2 フレキシブルキーに機能を登録する」必要があります。
フレキシブルキーの機能割付けを確認するには、[保留] + 0 のあとに調べるキーを押すことにより、ディスプレイに機能を表示させることができます。

1.2 フレキシブルキーに機能を登録する

操作手順

1 [メニュー / 決定] キーを押す

2 キーで“5(フレキシブルキー設定)”を選び、[メニュー / 決定] キーを押す

3 キーで“1(ファンクション割付)”を選び、
[メニュー / 決定] キーを押す

ファンクション割付
F---:---



4 機能を登録する《フレキシブル》キーを押す

ファンクション割付
F13:__
未登録

例えば、上段の1番左側のキーを押した場合です。



5 機能番号を「機能一覧表」から選んでダイヤルする

ファンクション割付
F13:10
自己保留

例えば、自己保留であれば、ファンクション番号10をダイヤルします。

補足

操作手順5の機能番号をダイヤルするかわりに[]キーで機能名を表示することができます。[]キーを続けて押すことにより機能順に表示します。



6 [メニュー/決定]キーを押す

登録ができた場合は、「ピー」と鳴ります。
続けて登録するには、操作手順3に戻ります。



7 [スピーカ]キーを押す

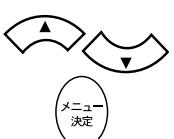


1.3 登録を削除する

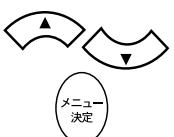
操作手順



1 [メニュー/決定]キーを押す



2 キーで“5(フレキシブルキー設定)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す



3 キーで“6(割付クリア)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す



4 削除する《フレキシブル》キーを押す



5 [メニュー/決定] キーを押す

削除ができた場合は、「ピー」と鳴ります。
続けて削除するには、操作手順4からの操作となります。



6 [スピーカ] キーを押す



1.4 機能一覧表

No.	機能	ディスプレイ表示
01	リダイヤル	リ ^タ ダイ ^ル
02	オートリピート	オト ^リ ピ ^ト
03	ダイヤルメモリ	ダ ^イ ヤルメモリ
04	短縮ダイヤル	短縮ダ ^イ ヤル
05	代理応答	代理応答
06	秘話解除 / 会議	秘話 / 会議
07	夜間切替	夜間切替
08	集中着信	集中着信
09	指定外線転送	指定外線転送
10	自己保留	自己保留
11	不在設定	不在設定
12	PB信号	PB信号
13	予約	予約
15	不在転送	不在転送
16	ACR停止	ACR停止
17	クラス切替	クラス切替
18	指定代理応答	指定代理応答
19	着信ウェイト	着信ウェ ^イ ト
20	割込み	割込
21	フッキング	フッキング
22	料金	料金

No.	機能	ディスプレイ表示
23	アラーム	アラーム
24	FAX1	FAX1
25	FAX2	FAX2
26	在席 / 異席	在席 / 異席
27	通話録音	通話録音
29	録音終了	録音終了
32	外線発信	外線発信
33	キャリア選択	キャリア選択
36	内線料金	内線料金
37	非通知	非通知
38	外線代理応答	外線代理応答
39	内線代理応答	内線代理応答
40	キーパッド	キ ^エ パ ^ッ ド
41	着信履歴	着信履歴
42	ボイスワープ	ボ ^イ スワ ^{ープ}
47	停電	停電
48	センターメール	センターメール
49	拡張表示	拡張表示
50	ガイダンス切替	ガイダンス切替
51	着信拒否	着信拒否
52	回線制限	回線制限



機能「No.07 夜間切替」および「No.17 クラス切替」の設定については販売店にご相談ください。

2

フレキシブルキーにシステム短縮番号を登録する

システム短縮番号にあらかじめ電話番号を登録しておき、そのシステム短縮番号をフレキシブルキーに登録します。これにより、登録されたフレキシブルキーは[ワンタッチダイヤル]キーと同じように使うことができます。

2.1 短縮番号を登録する

操作手順

第4章

1 [メニュー/決定]キーを押す



2 キーで“5(フレキシブル-設定)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す



3 キーで“5(短縮No割付)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す



短縮No割付
F13:短縮No---

4 システム短縮番号を登録する《フレキシブル》キーを押す



短縮No割付
F13:短縮No---
未登録

例えば、上段の1番左側の
#-を押した場合です。

5 登録するシステム短縮番号を3桁でダイヤルする



短縮No割付
F13:短縮No000
未登録

登録できるシステム短縮番号は000～999までです。

補足

登録できるシステム短縮件数は、最大500件です。

補足

操作手順5の短縮番号をダイヤルするかわりにキーで登録済の短縮番号を順番に検索できます。



6 [メニュー/決定] キーを押す

登録ができた場合は、「ピー」と鳴ります。
続けて登録するには、操作手順3に戻ります。



7 [スピーカ] キーを押す



2.2 短縮番号登録を削除する

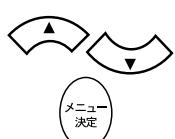
操作手順



1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“5(フレキシブル-設定)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す



3 キーで“6(割付クリア)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す



4 削除する《フレキシブル》キーを押す



5 [メニュー/決定] キーを押す

削除ができた場合は、「ピー」と鳴ります。
続けて削除するには、操作手順4からの操作となります。



6 [スピーカ] キーを押す

3

フレキシブルキーに外線番号／内線番号を登録する

フレキシブルキーに外線番号／内線番号を割付けて、オートダイヤル発信することができます。

3.1 フレキシブルキーに登録する

操作手順

第4章

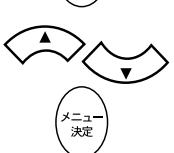
1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“5(フレキシブルキー設定)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す



3 キーで“4(オートダイヤル割付)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す



オートダイヤル割付
F---:

4 登録する《フレキブル》キーを押す



オートダイヤル割付
F13:未登録

例えば、上段の1番左側のキーを押した場合です。



5 登録する電話番号をダイヤルする

オートダイヤル割付
F13:未登録
123
4567890123456789

補足

操作手順5でダイヤル桁数が16桁を超えると、先頭から3段目に表示されます。



6 [メニュー/決定] キーを押す



7 キーで[番号種別]を選び、[メニュー/決定]キーを押す

- 1 : 外線
- 2 : 特番展開（内線の場合）
- 3 : PBX（構内交換機に収容されている内線／専用線の場合）



8 [スピーカ]キーを押す

3.2 登録を削除する

操作手順



1 [メニュー/決定]キーを押す



2 キーで“5(フリシブル-設定)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す



3 キーで“6(割付クリア)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す



4 削除する《フリシブル》キーを押す



5 [メニュー/決定]キーを押す

削除ができた場合は、「ピー」と鳴ります。
続けて削除するには、操作手順4からの操作となります。



6 [スピーカ]キーを押す

4

フレキシブルキーにメールボックスを登録する

フレキシブルキーにメールボックスを登録して、メールボックスを使用することができます。メールボックスに未聴取のメッセージがある場合、登録されているメールボックスランプが緑点滅します。これにより、メールボックスにメッセージがあるかどうかを確認することができます。

4.1 メールボックスを登録する

操作手順



1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“5(フレキシブルキー設定)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す



3 キーで“2(メールボックス割付)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す

メールボックス割付
F13:MBX----



4 メールボックスを登録する《フレキシブル》キーを押す

メールボックス割付
F13:MBX----
未登録

例えば、上段の1番左側のキーを押した場合です。



5 メールボックス番号をダイヤルする

メールボックス割付
F13:MBX10--
未登録

例えば、内線番号10のメールボックス番号10をダイヤルした場合です。



6 [メニュー/決定] キーを押す

登録ができた場合は、「ピー」と鳴ります。

続けて登録するには、操作手順3に戻ります。



7 [スピーカ] キーを押す

補足

[メールボックス]キーは、初期で《フレキシブル》キーに登録されています。P.38「1.1 初期立ち上げ時のフレキシブルキーへの機能割付け」を参照してください。

第4章

補足

メールボックス番号は、次の通りです。
内線のときは：内線番号
共通メールボックスのときは：
・初実装の音声メール装置の場合は：97
・増設の音声メール装置の場合：98

4.2 登録を削除する

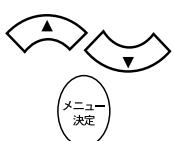
操作手順



1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“5(フレキシブルキー設定)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す



3 キーで“6(割付クリア)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



4 削除する《フレキシブル》キーを押す



5 [メニュー/決定] キーを押す

削除ができた場合は、「ピー」と鳴ります。
続けて削除するには、操作手順3からの操作となります。



6 [スピーカー] キーを押す

5

フレキシブルキーにDSSキーを登録する

フレキシブルキーに[DSS]キーを登録して、相手の使用状態のわかる[内線番号]キーとして使用することができます。

5.1 DSSキーを登録する

操作手順



1 [メニュー / 決定] キーを押す



2 キーで“5(フレキシブルキー-設定)”を選び、[メニュー / 決定] キーを押す



3 キーで“3(DSS割付)”を選び、[メニュー / 決定] キーを押す



4 内線番号を登録する《フレキシブル》キーを押す

DSS割付
F13:内線----
未登録

例えば、上段の1番左側のキーを押した場合です。



5 登録する内線番号をダイヤルし、[メニュー / 決定] キーを押す



6 [スピーカ] キーを押す



5.2 登録を削除する

操作手順

「4.2 登録を削除する」と同じです。

6

特番を設定する

回線捕捉、代理応答、構内放送、ドアホンなどに特番を使って捕捉、接続ができます。
この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

特番一覧表

特番の種類	初期値	特番の種類	初期値
外線捕捉	0	ACR停止	96
外線発信		PB保守	92
リダイヤル	80	FAX発信	
短縮	6	キャリア選択	
代理発信	82	発信予約	
代理応答	81	グループパーク保留／応答	84～89
集中着信		システムパーク保留／応答	
不在転送		外線代理応答	
FAX転送		内線代理応答	
指定外線捕捉	83	フッキング送出	
放送アクセス	*9	指定専用線捕捉	70
放送応答	#9	DGLグループ呼出	
会議		通話中着信	
ドアホンアクセス		データ通信	
メールアクセス	71	共通MBX1	97
グループ音声呼出	*0	共通MBX2	98
グループ音声呼出応答	#0	メールボックス番号指定	74

注1

注1：初実装の音声メール装置の共通メールボックス特番です。

注2：増設の音声メール装置の共通メールボックス特番です。

7

相手側のディスプレイに名前を表示する

(内線発呼者名表示)

相手側のディスプレイに、名前や所属を表示することができます。表示できる文字は、漢字4文字、英数字およびカタカナ8文字までです。濁点、半濁点、句読点、コロン、ピリオドも1文字分になります。

7.1 内線ネームを登録する

操作手順

- 1 [メニュー/決定] キーを押す
- 2 キーで“3(番号登録)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す
- 3 キーで“2(内線ネーム登録)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す
- 4 キーで“2(自内線名称)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す

内線10 (カ)
 ネーム :
 名称:
- 5 文字を入力する

キーで入力位置に合わせます。ネームはカナ入力、名称は漢字入力となります。
名称から入力するとネームは、未入力の場合は、名称で入力した文字列の半角カナが自動的に反映します。
文字入力方法は、サービスメニューを利用する(P.30 ~ P.34)を参照してください。
- 6 すべての文字を入力したら
[メニュー/決定] キーを押す

登録ができた場合は、「ピー」と鳴ります。
- 7 [スピーカ] キーを押す

補足

システム管理電話機から名前を入力する場合は、操作手順4で“1(内線名称(管理))”を選びます。次に、内線番号をダイヤルし、キーでネームを選びます。次に操作手順5に戻ります。

補足

操作手順5で、ネーム入力から名称入力に、またはその逆にカーソルを移動させる場合は、キーを押してください。

7.2 登録を変更・削除する

操作手順

- 1 [メニュー/決定] キーを押す
- 2 キーで“1(番号検索)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す
- 3 キーで“3(内線ネーム検索)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す
- 4 変更する内線ネーム頭1文字(カナ)を入力し、[メニュー/決定] キーを押す
- 5 キーで変更する内線ネームを確認し [メニュー/決定] キーを押す
- 6 “1(ネーム変更)”または“2(ネーム削除)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す
“2(ネーム削除)”を選んだときは、次に操作手順 11 にいきます。
- 7 変更する内線ネームを確認し、[メニュー/決定] キーを押す
もし内線ネームが違う場合は、キーで選んで [メニュー/決定] キーを押してください。
- 8 変更する文字にカーソルを合わせ
[戻る/削除] キーを押す
- 9 文字を入力する
文字入力方法は、サービスメニューを利用する(P.30 ~ P.34)を参照してください。
- 10 変更できたら [メニュー/決定] キーを押す
- 11 [スピーカ] キーを押す

補足

内線ネームの登録を変更する方法は、操作手順1~7のかわりに、「7.1 内線ネームを登録する」の操作手順1~4でもできます。システム管理電話機から登録を変更・削除する場合は、操作手順3の次に変更・削除する内線ネームの頭文字(カナ)を入力し、該当内線ネームを出したあと操作手順4に戻ります。

ご注意

文字変更画面のとき [戻る / 削除] キーを押すと、文字 / 数字が削除されます。まちがって削除してしまった場合は、もう一度文字 / 数字を入力するか [スピーカ] キーを押しやりなおしてください。操作途中で [スピーカ] キーを押した場合、登録されている内容は変更されません。

第5章

第5章

電話機の基本的な使い方

1.	電話のかけかた	52
1	外線にかける	52
2	便利な外線発信機能	65
3	内線にかける	72
4	便利な内線発信機能	73
2.	電話の受けかた	77
1	外線を受ける	77
2	内線を受ける	77
3	DIL/DID表示の電話を受ける	81
3.	保留のしかた	82
1	通話相手に一時お待ちいただくには(保留)	82
4.	転送のしかた	85
1	通話中の外線を内線に転送する	85

電話のかけかた

1

外線にかける

1.1 普通にかけるには（任意外線発信）

外線ランプの消えている [外線] キーを押し、次に電話番号をダイヤルします。

操作手順



1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

外線
□

2 外線ランプが消えている [外線] キーを押す

外線とつながり発信音は「ツー」に変わります。

[外線ランプ] は緑に点灯し、他の電話機の [外線ランプ] は赤く点灯します。



3 相手の電話番号をダイヤルする

相手が応答すると、通話ができます。

4 通話が終了したら受話器を戻す

使用した [外線] ランプは消灯します。

補足

外線にかけるには、次のかけかたもできます。

[外線] キーの代わりに [発信] キーでも外線とつながります。

操作手順 2 で [発信] を押した後、相手の電話番号をダイヤルします。

[外線] キーの代わりに “0” 発信または [外線発信] キーを押しても外線とつながります。（ルート選択発信）操作手順 2 で “0” をダイヤルした後、相手の電話番号をダイヤルします。

[外線] キーを押さずに、外線とつながります。（オフフック外線自動捕捉）

受話器をあげ「ツー」音を確かめ、相手の電話番号をダイヤルします。このかけ方は、販売店にご相談ください。



[発信] キーのランプが点灯しているときは、外線がすべて使われています。ランプが消えるまでお待ちください。

NTT のナンバーディスプレイサービスを使用して相手にかけ 自分の電話番号を通知たくないとき（いわゆる 184 発信）相手の電話番号をダイヤルする前に [非通知] キーを押すか 184 をダイヤルすることで、184 発信になります。

1.2 指定した外線からかけるには（指定外線捕捉）

指定外線捕捉特番 + 外線番号によって、指定した外線を捕捉することができます。

操作手順



1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

(8や
TUV) (3さ
DEF)

(1あ
1
4た
GHI)
(2か
ABC)
(5な
JKL)
(6は
MNO)
(7ま
PORS)
* (8や
TUV)
(9ら
WXYZ)
(0ゼン
ゼン)
#

(1あ
1
4た
GHI)
(2か
ABC)
(3さ
DEF)
(5な
JKL)
(6は
MNO)
(7ま
PORS)
* (8や
TUV)
(9ら
WXYZ)
(0ゼン
ゼン)
#

(1あ
1
4た
GHI)
(2か
ABC)
(3さ
DEF)
(5な
JKL)
(6は
MNO)
(7ま
PORS)
* (8や
TUV)
(9ら
WXYZ)
(0ゼン
ゼン)
#

2 指定外線捕捉特番をダイヤルする（初期値は“83”です。）

3 外線キー番号（2桁）をダイヤルする

4 相手の電話番号をダイヤルする

相手が応答すると、通話できます。

5 通話が終了したら受話器を戻す

使用した [外線] ランプは消灯します。

(1あ
1
4た
GHI)
(2か
ABC)
(3さ
DEF)
(5な
JKL)
(6は
MNO)
(7ま
PORS)
* (8や
TUV)
(9ら
WXYZ)
(0ゼン
ゼン)
#

(1あ
1
4た
GHI)
(2か
ABC)
(3さ
DEF)
(5な
JKL)
(6は
MNO)
(7ま
PORS)
* (8や
TUV)
(9ら
WXYZ)
(0ゼン
ゼン)
#

(1あ
1
4た
GHI)
(2か
ABC)
(3さ
DEF)
(5な
JKL)
(6は
MNO)
(7ま
PORS)
* (8や
TUV)
(9ら
WXYZ)
(0ゼン
ゼン)
#

1.3 オートダイヤルキーでかけるには（オートダイヤル）

[オートダイヤル] キーを押すだけで、電話番号がダイヤルされます。

操作手順



オートダイヤル

1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 [オートダイヤル] キーを押す

電話番号がダイヤルされます。

相手が応答すると通話できます。

3 通話が終了したら、受話器を戻す

すべての外線 1 ランプは消灯します。



[非通知] キーが登録されていないオートダイヤルで、非通知発信を行うためには、オートダイヤルを押す前に [非通知] キーを押します。

補足

指定した外線を捕捉して外線発信するほかに、下記の状態中のものを捕捉して通話することができます。

保留中

着信中

自己保留中

パーク保留中

着信ウェイト中

秘話解除中

外線番号は、次の方法で確認してください。

保 留

#

外線

ディスプレイ 2 段目右端に外線キー番号が表示されます。

第5章

外線

補足

フレキシブルキーに [オートダイヤル] キーを登録するには P43 を参照してください。

1.4 システム短縮番号でかけるには（システム短縮ダイヤル）

システム管理電話機で登録されたシステム短縮ダイヤルで、電話をかけることができます。システム短縮番号ダイヤルによるかけかた、システム短縮番号検索によるかけかたと、相手先名称検索によるかけかたの3種のかけかたがあります。

<システム短縮番号によるかけかた>

操作手順



短縮



1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 [短縮]キーを押す

Tel.10
タシクNo:

①あ

②かABC

③さDEF

3 たとえばシステム短縮番号“123”をダイヤルする

Tel.10
0123456789

ディスプレイ2段目に電話番号を表示します。

電話番号を表示すると同時に、自動的に外線とつながりダイヤルをはじめます。

相手が応答すると、通話ができます。



4 通話が終了したら、受話器を戻す

補足

システム短縮ダイヤルの登録はP.57をご参照ください。

参考

NTTのナンバーディスプレイサービスを使用して相手にかける場合、自分の電話番号を通知したくないとき（いわゆる184発信）[短縮]キーを押す前に[非通知]キーを押すことで、184発信になります。

<システム短縮番号検索によるかけかた>

操作手順



1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“1(番号検索)”を選び[メニュー/決定]キーを押す



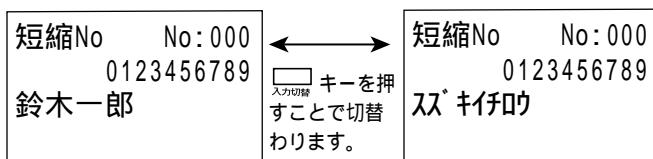
3 キーで“2(短縮No検索)”を選び[メニュー/決定]キーを押す



4 キーでシステム短縮番号を検索する

[検索]キーの「」を押すと、若番から検索します。「」を押すと、老番から検索します。

例えば、ある番号からの検索を行うときは、その番号をダイヤルし、その後に　キーで検索します。



5 検索終了後、[発信]キーを押すか、外線ランプの消えている[外線]キーを押す

外線ランプは緑で点灯し、他の電話機の外線ランプは赤く点灯します。



6 受話器をあげる

相手が応答すると、通話ができます。



7 通話が終了したら、受話器を戻す

<相手先名称(ネーム)検索によるかけかた>

操作手順



1 キーを押す

短縮ネーム	-
(カ)	

2 検索する名称の頭文字を入力し、
[メニュー/決定]キー押す

たとえば「スズキイチロー」のネームを検索する場合、[3]キーを3回押し、[メニュー/決定]キーを押します。

文字(入)	No:000
0123456789	
鈴木一郎	
□ キーを押すことで切替わります。	

文字(入)	No:000
0123456789	
スズキイチロー	

もし同じ頭文字で2つ以上の短縮Noがある場合は、キーでスクロールします。



3 検索終了後、[発信]キーを押すか、外線ランプの消えている[外線]キーを押す。



4 受話器をあげる

相手が応答すると、通話ができます。



5 通話が終了したら、受話器を戻す

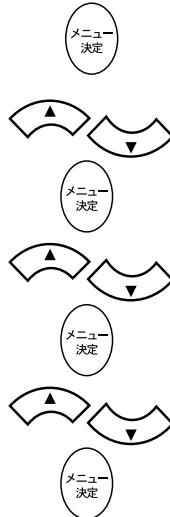
補足

操作手順1のかわりに
 1. [メニュー/決定]キーを押す
 2. キーで“1(番号検索)”を選び[メニュー/決定]キーを押す
 3. キーで“1(短縮ネーム検索)”を選び[メニュー/決定]キーを押す
 方法でもできます。

<システム短縮番号を登録するには>

システム短縮番号の登録や削除は、システム管理電話機から行います。電話番号の登録のあと相手先の名前など漢字、カタカナ、英数字で登録できます。また、登録内容は、そのまま発信者情報となり、発番号表示、発番号別個別着信、発番号別着信音選択ができるようになります。

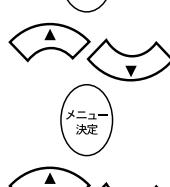
操作手順



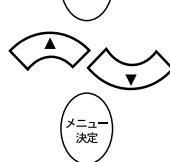
1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“3(番号登録)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す



3 キーで“1(短縮登録)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す



4 キーで“1(相手番号)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す

相手番号

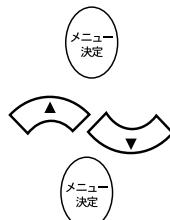


5 登録する電話番号をダイヤルする

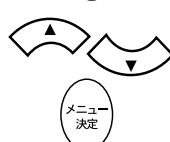
相手番号

012

34567890123#1234



6 [メニュー/決定] キーを押す



7 キーで“2(相手名称(漢字))”を選び、[メニュー/決定]キーを押す

名称(漢字) (漢)

-

8 文字を入力する

入力方法は、サービスメニューを利用する
(p.30 ~ 34) を参照してください。

名称(漢字) (漢)
鈴木一郎

補足

登録できるシステム短縮件数は、最大500件です。

ご注意

システム管理電話機がわからないときは、販売店にご相談ください。
初期は、内線番号の一番若い番号がシステム管理電話機となっています。

参考

ポーズ信号は、[応答]キーで登録でき1桁としてつかわれます。

登録するダイヤルがACR機能を働かせないようにする場合、電話番号のダイヤルの前に[ACR停止]キーまたは、特番をダイヤルします。登録するダイヤルが相手にナンバーディスプレイを行いたくない場合、電話番号のダイヤルの前に[非通知]キーまたは、184をダイヤルします。

登録するダイヤルにPB信号を含めるときは、PB信号を入れる所で[PB信号]キーを押します。

補足

初期登録時の発信種別は外線です。変更する場合は、システム短縮番号を登録したあと、番号検索メニューの「短縮No検索」「短縮ネーム検索」のサブメニューから行います。

システム短縮番号登録を発信者情報とするためには、相手番号は、市外局番から登録してください。



9 [メニュー / 決定] キーを押す



10 キーで“4(相手名称(カナ))”
を選び、[メニュー / 決定] キーを押す
操作手順 8 で入力した全角かな文字が半角カナ
となり表示します。

名称(カナ)	(カ)
スズキイチロー	



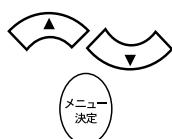
11 文字を修正入力する

入力方法は、サービスメニューを利用する
(p.30 ~ 34) を参照してください。
修正しない場合は、操作手順 12 に行きます。



12 [メニュー / 決定] キーを押す

付加情報を入力する場合は、操作手順 17 に行き
ます。



13 キーで“3(短縮番号)”を選び、 [メニュー / 決定] キーを押す

短縮番号
No : ---



14 短縮番号をダイヤルする

空き短縮番号を検索する場合は、キーでスク
ロールします。
短縮番号 000 から順番に検索する場合は、
キーでスクロールします。

短縮番号
No : 000
未登録



15 [メニュー / 決定] キーを押す

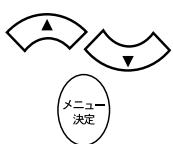
登録できた場合は、「ピー」と鳴ります。
続けて登録する場合は、操作手順 3 に戻ります。



16 [スピーカ] キーを押す

(付加情報を入力する場合)

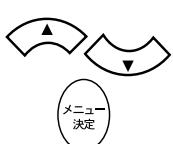
発番号表示、発番号別個別着信、発番号別着信音を選択する場合には、操作手順12の次に付加情報(操作手順17~23)を入力します。



17 キーで“5(着信音種)”を選び、
[メニュー/決定]キーを押す



18 着信音種を選び、[メニュー/決定]キーを押す



19 キーで“6(着信形式(昼))”を選び、[メニュー/決定]キーを押す



20 着信形式を選び、[メニュー/決定]キーを押す

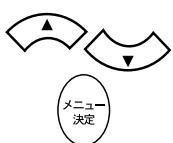
“4(DIL)”を選んだ場合は、DILの着信先を決めます。

その他は、操作手順22に進みます。



21 着信先の番号をダイヤルし、
[メニュー/決定]キーを押す

メールボックスを指定する場合は、メールボックス97または98から選んでください。



22 キーで“7(着信形式(夜))”を選び、[メニュー/決定]キーを押す



23 着信形式を選び、[メニュー/決定]キーを押す

“4(DIL)”を選んだ場合は、DILの着信先を決めます。操作手順21参照。

操作手順13に戻ります。

<システム短縮番号を変更するには>

操作手順



1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“1(番号検索)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す



3 キーで“1(短縮番号検索)”または“2(短縮No検索)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す

4 短縮ネームの頭文字を入力して検索、または短縮 No をダイヤルするか キーで検索し [メニュー/決定] キーを押す
または

5 キーで“1(内容変更)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す



6 キーで変更する項目を選び、[メニュー/決定] キーを押す

7 文字または番号を変更する

相手名称のときは、△ キーで変更する文字にカーソルを合わせ削除してから再入力してください。

相手番号または短縮番号のときは、変更数字まで末尾から削除し再入力してください。



8 [メニュー/決定] キーを押す



9 キーで“3(短縮番号)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す



10 [メニュー/決定] キーを押す

登録できた場合は、「ピー」と鳴ります。



11 [スピーカー] キーを押す

補足

発信種別を変更するときは、操作手順 5 で“2(発信種別変更)”を選びます。操作手順 6 の操作で完了します。

ご注意

文字変更画面のとき [戻る / 削除] キーを押すと文字 / 数字が削除されます。まちがって削除した場合は、もう一度文字 / 数字を入力するか [スピーカー] キーを押し操作をやりなおしてください。
操作途中で [スピーカー] キーを押した場合、登録されている内容は変更されません。

<システム短縮番号を削除するには>

操作手順



1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“1(番号検索)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



3 キーで“2(短縮No検索)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



4 削除するシステム短縮番号をダイヤル
する
キーでスクロールさせて検索することもでき
ます。



短縮No	No:000
0123456789	
スヌキイロウ	



5 [メニュー/決定] キーを押す



6 キーで“3(登録削除)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す

削除できた場合は、「ピー」と鳴ります。

削除を続けるときは、操作手順4からはじめま
す。



7 [スピーカ] キーを押す

1.5 最後にかけた相手に再度かけるには（リダイヤル）

最後にかけた電話番号は、次に電話をかけるまで[リダイヤル]キーに記憶されています。

[リダイヤル]キーで最後にかけた電話番号に再度かけることができます。

また、最後にかけた電話番号を含む20件までの電話番号を[検索]キーで呼び出してかけることもできます。（履歴表示 P.63 参照。）

<最後にかけた相手に発信するには>

操作手順



リダイヤル



1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 [リダイヤル]キーを押す

自動的に外線とつながりダイヤルをはじめます。

ディスプレイ2段目に電話番号が表示されます。

外線を指定して発信することができます。[リダイヤル]キーを押す前に[外線]キーを押します。

相手が応答すると、通話ができます。



3 通話が終了したら、受話器を戻す

補足

[外線]キーの代わりに[発信]キーでも外線とつながります。

最後にかけた電話番号を消すには、発信記録の削除機能を使います。（P.64 参照）

全ての発信記録を消すには、[保留]キー押下 [リダイヤル]キー押下の手順で行います。

1.6 蓄積されている発信履歴 / 着信履歴をシステム短縮ダイヤルに登録するには

蓄積されているリダイヤル情報は全て(最大20件)システム短縮ダイヤルに登録できます。

<システム短縮ダイヤルに登録する>

操作手順



または



- 1 発信記録を選択するときは ◎キーを、着信記録を選択するときは ▶キーを押す

メニュー
決定

- 2 キーで登録するダイヤル番号を検索し [メニュー/決定]キーを押す

発信記録00
10/10 10:10
0123456789

メニュー
決定

- 3 キーで“1(短縮記録)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す

- 4 ここからの操作は、<システム短縮番号を登録するには>(P.57)の操作手順4からの操作となります。

!ご注意

発信履歴 / 着信履歴をシステム短縮ダイヤルに登録できる電話機はシステム管理電話機です。

補足

操作手順1のかわりに

1. [メニュー/決定]キーを押す
2. キーで“2(履歴表示)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す
3. キーで“1(発信記録)”または“2(着信記録)”を選び、[メニュー/決定]キーを押すと操作してもできます。
着信履歴を着信拒否番号に登録できます。登録方法はP103を参照してください。

1.7 発信記録 / 着信記録から電話するには(履歴表示)

発信記録やナンバーディスプレイサービスで通知された電話番号を着信記録として記憶し、発信記録や着信記録を検索して発信操作で自動的に発信することができます。

操作手順



または



- 1 発信記録を選択するときは ◎キーを、着信記録を選択するときは ▶キーを押す

補足

操作手順1のかわりに

1. [メニュー/決定]キーを押す
2. キーで“2(履歴表示)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す
3. キーで“1(発信記録)”または“2(着信記録)”を選び、[メニュー/決定]キーを押すと操作してもできます。



2 キーでかけたい相手先の電話番号を表示する

[]キーを押すと古い発信記録または着信記録へ移行します。[]キーを押すと新しい発信記録または着信記録に移行します。

発番号名称の登録がある場合は、名称で表示します。



3 [発信]キーを押すか、外線ランプが消えている [外線]キーを押す

外線につながりダイヤルをはじめます。

外線ランプは「緑」で点灯し、他の電話機の外線ランプは「赤」で点灯します。



4 受話器をあげる

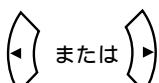
相手が応答すると通話ができます。



5 通信が終了したら、受話器を戻す

1.8 発信記録 / 着信記録を削除する

操作手順



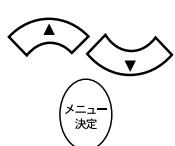
1 発信記録を選択するときは△キーを、着信記録を選択するときは▽キーを押す



2 キーで削除したい電話番号を表示する



3 [メニュー/決定]キーを押す



4 キーで“2(記録削除)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す



5 [スピーカ]キーを押す

補足

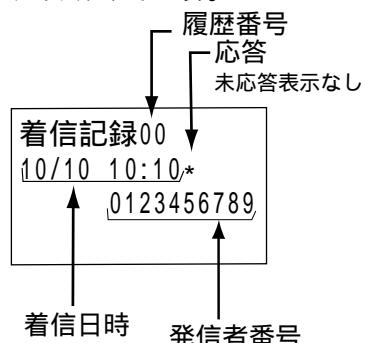
発信記録は、外線 / 専用線に発信した最後の20件を内線毎に蓄積します。

着信記録は、応答 / 未応答にかかわらず全ての着信について記録します。蓄積件数はシステムで100件です。

着信記録をグループわけして利用することも可能です。蓄積件数はグループ最大100件、システム全体で100件となります。販売店にご相談ください。

発信記録または着信記録が16桁以上になっているときは、△▽キーによって表示

ディスプレイの表示:



!ご注意

発信記録、着信記録が16桁表示されている時は、△▽キーを使って16桁を越えた部分を表示させることができますので、確認する様にしてください。

補足

発信記録を全て削除したい場合は、操作手順4で“3(全記録削除)”を選び、[メニュー/決定]キーを押してください。

着信記録を全て削除することができるには、システム管理電話機です。操作は、操作手順4で“3(全記録削除)”を選び、[メニュー/決定]キーを押し、次に“1(削除)”を選び、[メニュー/決定]キーを押してください。

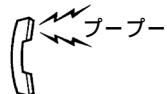
2

便利な外線発信機能

2.1 受話器を戻さずにかけ直すには（クイックリダイヤル）

相手が話中の場合、受話器を戻さずにかけ直すことができます。

操作手順



話中音「プーブー」が受話器から聞こえます。



- 1 受話器を戻さずに[リダイヤル]キーを押す
先ほどと同じ電話番号がダイヤルされます。



- 2 相手が応答すると、通話ができる

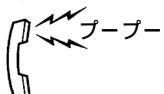


- 3 通話が終了したら、受話器を戻す

2.2 かけ直しを繰り返すには（オートリピート）

相手が話中の場合、かけ直しを自動的に15回までできます。

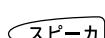
操作手順



話中音「プーブー」が受話器から聞こえます。



- 1 受話器を戻さずに[オートリピート]キーを押す
リピートランプが赤く点灯します。
先ほどと同じ電話番号がダイヤルされます。



- 2 [スピーカ]キーを押し、受話器を戻して相手の応答を待つ



- 3 相手の応答する声が「スピーカ」から聞こえる
通話できる状態です。

リピートランプは消灯します。



- 4 受話器をあげて通話する



- 5 通話が終了したら、受話器を戻す



オートリピートの回数を変更したいときは、販売店にご相談ください。

オートリピートの回数は、初期で15回となっており1回から15回まで変更できます。

[リピート]キーを再度押すとオートリピート機能は解除されます。

受話器をあげないプリセッタダイヤル(P.69)でも、オートリピート機能は使えます。

2.3 ダイヤルメモリでかけるには（ダイヤルメモリ）

ダイヤルメモリに登録された電話番号で、電話をかけることができます。

操作手順



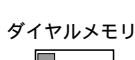
1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 [発信] キーを押すか、外線ランプが消えている [外線] キーを押す

外線とつながると発信音は「ツー」に変わります。
外線ランプは緑で点灯し、他の電話機の外線ランプは赤く点灯します。



3 [ダイヤルメモリ] キーを押す

ダイヤルメモリに登録された電話番号をダイヤルします。

相手が応答すると、通話ができます。



4 通話が終了したら、受話器を戻す

<ダイヤルメモリに電話番号を登録するには>

通話中または、通話中でなくともダイヤルメモリに電話番号を登録できます。

- ・最大 32 衔までの電話番号が登録できます。
- ・あらたに電話番号を登録すると、前の電話番号は消去されます。

通話中に「連絡された」電話番号をメモしておくのに便利です。

通話中にダイヤルメモリする

補足

通話中でない場合に登録するときは、操作手順1の前に[保留]キーを押します。また、操作手順3のあとに、[スピーカ]キーを押します。

操作手順



1 通話中に [ダイヤルメモリ] キーを押す

ダイヤルメモリランプが赤く点灯します。



2 登録する電話番号をダイヤルする

電話番号が登録されます。



3 [メニュー/決定] キーを押す

ダイヤルメモリランプは消灯します。

<ダイヤルメモリを消去するには>

通話中または、通話中でなくてもダイヤルメモリの電話番号を消去できます。

通話中にダイヤルメモリを消去する

操作手順



- 1 通話中に [ダイヤルメモリ] キーを押す
ダイヤルメモリランプが赤く点灯します。



- 2 [ニュ-/決定] キーを押す
登録されている電話番号は消去されました。
ダイヤルメモリランプは消灯します。

補足

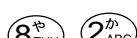
通話していないときにダイヤルメモリを消去するには、操作手順1の前に[保留]キーを押してください。
また、操作手順2のあとに[スピーカ]キーを押します。

第5章

2.4 別の電話機のダイヤルメモリを使ってかけるには（代理発信）

別の電話機のダイヤルメモリに登録されている電話番号を使って、電話をかけることができます。

操作手順



- 1 受話器をあげる
受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
- 2 代理発信特番をダイヤルする（初期値は“82”です。）



- 3 ダイヤルメモリを使う内線電話機の内線番号をダイヤルする
自動的に外線とつながります。
つながった外線ランプが緑で点灯します。

相手が応答すると、通話ができます。



- 4 通話が終了したら、受話器を戻す
外線ランプは消灯します。

参考

通話中に聞き取った相手ファクシミリの電話番号を、ダイヤルメモリ（自席）に登録します。通話終了後、ファクシミリで代理発信特番の次に、相手ファクシミリの電話番号が登録された自席の内線番号をダイヤルします。ファクシミリにはダイヤルメモリに登録されている電話番号をダイヤルし、ファクシミリ通信をはじめます。（注）ファクシミリなどの単独内線がオフフック外線捕捉の設定になっている場合、本機能は使用できません。

外線

ご注意

VoIP専用線へのダイヤルメモリ発信は、できません。

2.5 外線予約するには（発信予約）

すべての外線が使われているとき発信を予約しておくと、外線が空くと予約した電話機に電話をかけられることを知らせる呼出し音が鳴ります。

操作手順

すべての外線ランプが点灯している状態で次の操作を行います。



1 [予約]キーを押す



2 [発信]キーを押すか、使用中 [外線]キーを押す



3 [スピーカ]キーを押す



4 呼出音が鳴る

外線が空くと、外線が空いたことを知らせる呼出音が鳴ります。



5 受話器をあげる

外線とつながり発信音「ツー」が聞こえます。
予約ランプは消灯します。



6 相手の電話番号をダイヤルする

ワンタッチダイヤルやシステム短縮ダイヤルも使えます。

相手が応答すると、通話ができます。



7 通話が終了したら、受話器を戻す

外線ランプは消灯します。

補足

オフフック状態で発信予約の操作をするときは、操作手順3で[スピーカ]キーを押すかわりに受話器を戻します。

2.6 電話番号を確認して発信するには（プリセットダイヤル）

相手の電話番号をダイヤルし、次に発信操作をします。

操作手順



発信
または
外線

- 1 電話番号をダイヤルする
- 2 [発信]キーを押すか、外線ランプの消えている [外線]キーを押す
外線ランプは緑で点灯し、他の電話機の外線ランプは赤く点灯します。
ダイヤルした電話番号に電話をかけます。



- 3 相手の応答する声が「スピーカー」から聞こえる
通話のできる状態です。



- 4 受話器をあげて通話する



- 5 通話が終了したら、受話器を戻す
外線ランプは消灯します。



この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

2.7 マルチステーションキーを使ってかけるには（マルチステーションキー回線捕捉）

空いている [MSA] キーを押すことにより、局データで指定した外線（方路）を捕捉することができます。



この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

2.8 発信した回線から自動的に MSA を選択するには（回線捕捉時自動 MSA 捕捉）

外線での発信時、捕捉した外線の方路に従い、自動的に MSA を捕捉します。



この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

2.9 NCC回線を指定してかけるには（キャリア選択発信）

契約しているNCC回線を選択する番号をダイヤルしてから電話をかけます。

操作手順



キャリア選択

1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 [キャリア選択]キーを押すか、キャリア選択特番をダイヤルする

3 キャリア番号をダイヤルする

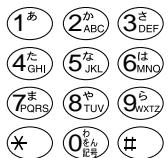
KDDI : 001、0070、0077

日本テレコム : 0041、0088

国際デジタル通信 : 0061

東京電話 : 0081

キャリア番号をダイヤルすると、外線につながります。



4 相手の電話番号をダイヤルする

相手が応答すると、通話ができます。

5 通話が終了したら、受話器を戻す

外線ランプは消灯します。

補足

該当するキャリアの優先接続契約が無い場合は、回線ごとの契約に従います。回線契約に登録できない回線については、マイラインプラス契約以外の全ての公衆回線を対象にして回線を選択します。

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前に[内線]キーを押します。

2.10 割引回線等の回線から優先して選択するには（割引回線優先捕捉）

マイラインの割引契約を結んだ回線から、自動的に選んで電話をかけることができます。



この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

2.1.1 優先接続（マイライン）

外線発信時にマイライン（電話会社選択サービス）または、マイラインプラス（電話会社固定サービス）に対応した回線を優先的に選択して電話をかけます。



この機能を利用するには、各電話会社のマイラインまたは、

マイラインプラスを契約する必要があります。

この機能を利用する場合は、販売店にご相談ください。

3

内線にかける

3.1 普通にかけるには（トーン呼出し）

呼出音を鳴らして相手を呼出します。

操作手順



1 受話器をあげる

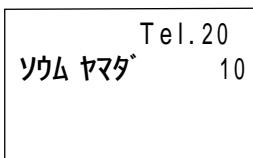
受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 内線番号をダイヤルする

電話機のディスプレイに相手の所属や名前が表示されます。相手の電話機のディスプレイには内線発呼者名が表示されます。

(例)かけた電話機のディスプレイ表示



相手が応答すると、通話ができます。

3 通話が終了したら、受話器を戻す

補足

内線発呼者名を表示するには、P.49(相手側のディスプレイに名前を表示)をご参照ください。

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定(オフフック外線自動捕捉)をしている場合、操作手順1の前に[内線]キーを押します。

3.2 内線登録したフレキシブルキーでかけるには（内線ワンタッチコール）

登録済の[フレキシブル]キーを押すだけで、電話番号がダイヤルされます。

操作手順



1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 内線を登録した《フレキシブル》キーを押す
内線に電話をかけます。

相手が応答すると、通話ができます。



3 通話が終了したら、受話器を戻す

補足

[フレキシブル]キーに内線番号を登録するには、P.43を参照してください。

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定(オフフック外線自動捕捉)をしている場合、操作手順1の前に[内線]キーを押します。

4

便利な内線発信機能

4.1 ホットラインでかけるには（ホットライン）

受話器をあげるだけで、登録されている内線に電話をかけることができます。

操作手順



1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえ、しばらくすると「プルルル」と呼出音に変わります。



2 通話が終了したら、受話器を戻す

相手が応答すると、通話ができます。

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。相手先として登録できる電話番号は内線番号のみです。

補足

受話器から「ツーツー」の発信音が聞こえているときに、ダイヤルすると別の内線にかけることができます。

4.2 音声で呼び出すには（内線音声呼出し）

呼出音でなく、音声で相手を呼びだします。

操作手順



1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 内線番号をダイヤルする

受話器から「プルルル」と相手を呼出す音が聞こえます。



3 “*”をダイヤルする



4 受話器に向かって、音声で相手を呼出す

たとえば「田中さん、田中さん」と呼ぶと、相手の電話機の「スピーカ」から呼びかける音声が流れます。



相手が応答すると、通話ができます。

5 通話が終了したら、受話器を戻す

補足

トーン呼出しに戻すことができます。操作手順3または4でもう一度「*」をダイヤルすると、トーン呼出しにもどります。音声呼出しとトーン呼出しは、「*」で交互に切替えることができます。内線ごとに呼出されるときは、最初から音声呼出しにすることができます。この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

メモ

倉庫内の内線電話、1つの電話を数人で共有している場合などでは、呼出音「プルブル、プルブル」より音声呼出しが方が、誰にかかってきた電話かわかり便利です。

4.3 グループ内の空き電話を呼出すには（内線代表）

内線の代表番号をダイヤルすると、グループ内の空き電話を呼出します。

操作手順



1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



相手が応答すると、通話ができます。



3 通話が終了したら、受話器を戻す



この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

4.4 グループ内の内線電話を一斉に呼出すには（グループ音声呼び出し）

グループ分けされた内の、1グループのすべての電話機を一斉に音声で呼出せます。

操作手順



1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 グループ呼出し特番をダイヤルする

初期値は“*”“0”です。

3 グループ番号をダイヤルする

4 受話器でグループ名を呼びかける

たとえば「営業1課さん」と呼ぶと、そのグループのすべての電話機の「スピーカ」から呼びかけられる音声が流れます。



相手が応答すると、通話ができます。



5 通話が終了したら、受話器を戻す



応答の手順は、P.80を参照してください。

操作手順2のグループ呼出しと3のグループ番号を、まとめて[フレキシブル]キーに登録すると操作手順2と3をワンタッチでできます。P.4.3を参照してください。また、グループ内の電話が一斉に音声呼び出しを受けたときにも[フレキシブル]キーが使えます。

4.5 すべての内線電話を一斉に呼出すには（一斉呼出し）

グループ分けに関係なく、すべての内線電話を一斉に音声で呼出せます。

操作手順



1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 一斉呼出し特番をダイヤルする

初期値は“*”“0”です。



3 グループ番号をダイヤルする

初期値は“0”です。



4 受話器でグループ名を呼びかける

たとえば「どなたか電話に出てください。」と呼ぶと、すべての電話機の「スピーカ」から呼びかける音声が流れます。



5 通話が終了したら、受話器を戻す

相手が応答すると、通話ができます。

補足

一斉呼出しの応答手順は、P.80 を参照してください。

参考

グループ“0”は、システム一斉呼び出しです。グループをいくつかに分けるときは、販売店にご相談ください。

第5章

4.6 DGL グループを呼出すには（DGL グループ呼出し）

DGL グループに直接電話をかけることができます。

操作手順



1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 DGL 特番をダイヤルする

特番は販売店にご相談ください。



3 DGL グループ番号をダイヤルする

相手が応答すると、通話ができます。



4 通話が終了したら、受話器を戻す

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

補足

操作手順2のDGL特番と3のDGLグループ番号をまとめて[フレキシブル]キーに登録すると操作手順2と3をワンタッチでできます。

DGLグループ呼出しの応答手順は、P.80 を参照してください。

参考

拡張内線番号を利用することで、DGLグループを内線と同じように呼出すことができます。この機能を使うときは、販売店にご相談ください。

内線

4.7 話し中の内線電話を予約するには（内線キャンプオンビジー）

<予約するには>

操作手順

相手に電話をかけ、話中音が聞こえたら

予 約



1 [予約] キーを押す

予約キーランプが赤く点灯します。

2 受話器を戻す

補足

フレキシブルキーに「予約」キーを登録するには、P.38「フレキシブルキーに機能を割りつけるには」をご参照ください。

<相手のお話が終わったら>



1 予約した内線に呼出しがかかるので、受話器をあげる

受話器から「プルループルルー」と呼出音が聞こえます。

相手が呼出されます。

相手が応答すると、通話ができます。



2 通話が終了したら、受話器を戻す

4.8 内線の呼び先を順次変更するには（シリーズコール）

たとえば、呼び先の課の内線番号が「10～14」と5台あり、いつもは「10」にかけているものとします。たまたま「10」が話中の場合は、「1」を追加ダイヤルすることで「11」番へかかります。

操作手順

相手に電話をかけ、話中音が聞こえたら

①^あ

1 “1”をダイヤルする

下1桁だけで呼出先を変更できます。

「10」番への呼出しは中止され、「11」番を呼出します。

“2”をダイヤルすると、「12」番を呼出します。



相手が応答すると、通話ができます。

2 通話が終了したら、受話器を戻す

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

電話の受けかた

1

外線を受ける

1.1 普通に受けるには（任意外線応答）

[応答]キーですべての外線着信に応答できます。

操作手順



1 外線着信音「プルルー」が鳴る

かかってきた外線の外線ランプは赤で点滅します。



2 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



3 [応答]キーまたは、点滅している [外線]キーを押す

通話ができる状態になります。

外線ランプは緑の点灯に変わります。

応答キーランプは消灯します。



4 通話が終了したら、受話器を戻す

外線ランプは消灯します。

補足

受話器をあげる前に、[応答]キーを押しても電話を受けることができます。

主装置の設定により受話器をあげるだけで、電話を受けることができます。（オフフック外線自動応答）この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

2

内線を受ける

2.1 普通に受けるには（内線自動応答）

自分にかかってきた電話は、受話器をあげるだけで受けることができます。

操作手順



1 内線着信音「プルプルプル」が鳴る



2 受話器をあげる

通話ができる状態になります。



3 通話終了後は、受話器を戻す

2.2 音声呼出しを受けたときには（音声呼出し）

「スピーカ」から音声で呼出しを受けたときは、「普通に受けるには(P.73)」と同じ操作で電話を受けることができます。

操作手順



「スピーカ」から呼びかけられます。

1 受話器をあげる

通話ができる状態になります。

2 通話終了後は、受話器を戻す

2.3 受話器を上げずに受けるには（内線ハンズフリー応答）

音声呼出しを受けたときは、受話器の代わりに「ハンズフリーマイク」と「スピーカ」で通話できます。

操作手順



「スピーカ」から呼びかけられます。

1 受話器をあげずに [マイク] キーを押す

マイクランプが赤く点灯します。

通話ができる状態になります。



2 「マイク」に向かって話す

3 通話終了後 [マイク] キーを押す

マイクランプが消灯します。

補足

通話中に受話器をあげると、通常の受話器による通話になります。受話器による通話から「マイク」による通話には戻れません。

一斉呼出し、グループ呼出しのときは「マイク」による通話はできません。

あらかじめ[マイク]キーを押しておくと、音声呼出しにいつでもマイクで応答できます。

倉庫などで使う電話機は、あらかじめ音声呼出しにしておくと便利です。この機能を使う場合は、販売店にご相談ください。

相手がハンズフリー応答のときは、転送行為はできません。

ハンズフリーでの発信はできません。

着信側からの切断は、[スピーカ]キーの2度押しでできます。

2.4 グループ内の別の電話を受けるには（代理応答）

内線グループ内の別の電話に、かかってきた電話を受けることができます。

操作手順

別の内線電話機が「プルプルプル」と着信音が鳴ります。



1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 [代理応答]キーを押す

通話ができる状態になります。



3 通話終了後は、受話器を戻す

補足

[代理応答]キーの代わりに[内線代理応答]キーを押すと、グループ内の内線のみ応答できます。

[代理応答]キーの代わりに[外線代理応答]キーを押すと、グループ内の外線のみ応答できます。

受話器をあげると、自動的に外線を捕捉する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、本機能を利用する場合、操作手順2の前に[内線]キーを押します。

第5章

2.5 他グループの電話を受けるには（指定代理応答）

他のグループにかかってきた電話を、受けることができます。

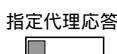
操作手順

他のグループの内線電話機が「プルプルプル」と着信音が鳴ります。



1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 [指定代理応答]キーを押す

3 着信中のグループ番号をダイヤルする

通話ができる状態になります。



4 通話終了後は、受話器を戻す

補足

受話器をあげると、自動的に外線を捕捉する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、本機能を利用する場合、操作手順2の前に[内線]キーを押します。

内線

2.6 グループ内の電話が一斉音声呼出しを受けたときには（グループ呼出し応答）

内線グループ内の内線電話が一斉に音声呼出しを受けたときには、グループ内のどの電話機でも応答できます。

操作手順



スピーカから呼びかけられます。

1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 グループ呼出し応答の特番をダイヤルする

初期値は“#”“0”です。



3 グループ番号をダイヤルする

グループ番号の初期値は“0”です。



通話ができる状態になります。

4 通話終了後は、受話器を戻す

補足

受話器をあげると、自動的に外線を捕捉する設定(オフフック外線自動捕捉)をしている場合、本機能を利用する場合、操作手順2の前に[内線]キーを押します。

2.7 DGL グループ呼出しに応答するには

操作手順

DGL グループ呼出しがある。

LCDディスプレイの上段に「DGLnn」と表示します。

DGLnn

nnは、DGL グループ番号



1 受話器をあげる



2 [DGL] または [MSA] キーを押す

相手とお話しできます。



3 通話終了後は、受話器を戻す

補足

[DGL]キーまたは[MSA]キーを登録していないとき、または、オフフック自動応答を設定しているときで鳴動していれば受話器をあげるだけで応答できます。

DGL表示の着信は、不在転送できません。

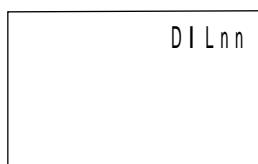
3

DIL/DID表示の電話を受ける

ダイレクトインライン、夜間ダイレクトインライン、PBXダイヤルイン、付加番号DIDでかかってきた電話を受けることができます。

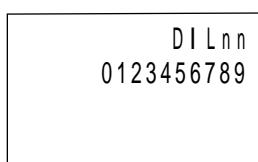
操作手順

1 着信音が「フルフルフル」と鳴る

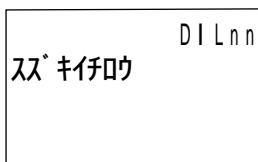


LCDディスプレイの上段に「DILnn」または「DIDnn」と表示します。
nnは外線番号

かかってきた外線の外線ランプは、橙の早い点滅をします。



NTTのナンバーディスプレイサービス契約回線からの着信時は、相手の電話番号が下段に表示されます。



電話番号の代わりに名前を登録していた場合は、名前が表示されます。



2 受話器をあげる

通話ができる状態になります。



3 通話終了後は、受話器を戻す



この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。



付加番号DIDとは、指定外線の着信に自動応答し、外線からのPB信号(内線番号)を受信することにより内線に直接着信させます。

DILとは、指定外線の着信を指定された内線に直接着信させます。

PBX DI(ダイヤルイン)とは、指定番号対応の内線または、DGLグループに直接着信させることができます。(外線はダイヤルイン契約が必要です。)

3

保留のしかた

1

通話相手に一時お待ちいただくには

(保留)

1.1 保留の解除は自分の電話機でする(自己保留)

保留した電話機以外では、保留の解除ができないようにすることができます。

操作手順

自己保留



1 通話中の相手に保留することを伝え、[自己保留]キーを押す

受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。

保留の相手には、保留音(メロディ)を送ります。

自己保留ランプは橙と緑で交互に点滅します。

外線を保留した場合は、その外線ランプは橙と緑で交互に点滅します。

自己保留



2 保留の解除は、[自己保留]キーを押す

通話ができる状態に戻ります。

自己保留ランプは消灯します。

外線を保留した場合、点滅していた外線ランプは、緑の点灯に変わります。



3 通話終了後、受話器を戻す

点灯していたランプは消灯します。

補足

フレキシブルキーに[自己保留]キーを登録するには、P.38をご参照ください。

保留時間が長すぎると「スピーカ」から警告音が鳴り、外線ランプを早い点滅にして知らせます。

外線通話を保留し受話器を戻した場合は、橙と緑を交互に点滅している[外線]キーを押しても保留を解除します。

1.2 保留の解除を別の電話機でする(通話保留)

保留の解除を別の電話機でもできるようにします。

<保留のしかた>

保 留

1 通話中の相手に保留することを伝え、[保留]キーを押す

受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。

保留の相手には、保留音(メロディ)を送ります。

外線を保留した場合は、その外線ランプは橙と緑で交互に点滅します。

<別の電話機で保留を解除する>

操作手順

外線

1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 外線ランプが緑で点滅している、
[外線]キーを押す

通話ができる状態になります。



3 通話終了後は、受話器を戻す

外線ランプは消灯します。

補足

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、受話器をあげないで[外線]キーを押してから受話器をあげてください。

第5章

<保留した電話機で解除する>

操作手順

保留
外線
1 通話中の相手に保留することを伝え、
[保留]キーを押す

受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。

保留の相手には、保留音(メロディ)を送ります。

外線ランプは橙と緑で交互に点滅します。



2 保留の解除は、[外線]キーを押す

通話ができる状態に戻ります。

点滅していたランプは、緑の点灯に変わります。

補足

保留時間が長すぎると「スピーカ」から警告音が鳴り、外線ランプを早い点滅にして知らせます。

保留

1.3 パーク保留をする(パーク保留)

[外線]キーが割付けられていない電話機、または内線通話を保留する場合は、パーク保留にします。

<保留のしかた>

操作手順

パーク保留



1 通話相手に保留することを伝え [パーク保留]キーを押す

受話器は「ツーツー」との発信音に変わります。

パークランプは橙と緑で交互に点滅します。また、別の電話機のパークランプは緑で点滅します。

保留の相手には、保留音(メロディ)を送ります。

パーク保留



2 保留の解除は、[パーク保留]キーを押す

通話ができる状態に戻ります。

自分のパークランプは消灯します。

別の電話機のパークランプは消灯します。



3 通話終了後、受話器を戻す

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

メモ

パーク保留に応答できる電話機をグループ化し、グループ内保留に応答できるグループパークとシステム全体に応答できるシステムパークにグループ化できます。たとえば、会社の受付はシステムパーク保留、課内はグループパーク保留にするなどして効率的な運用ができます。

<別の電話機の保留を解除する>

操作手順



パーク保留



1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 緑で点滅している[パーク保留]キーを押す

通話ができる状態に戻ります。

パークランプは消灯します。

3 通話終了後、受話器を戻す

補足

受話器をあげた場合、自動的に外線をつかむ設定になっている場合、受話器をあげないで[パーク保留]キーを押し、その後受話器をあげてください。

ご注意

保留の警告について
保留時間が1分経過すると「スピーカ」から警告音が鳴り、保留した電話機の保留ランプの点滅は速くなります。保留開始から警告音が鳴り出すまでの時間は、あらかじめ1分に設定されています。

1

通話中の外線を内線に転送する

1.1 転送先に呼びかけて転送する（口頭転送）

外線を保留してから転送先に呼びかけます。

操作手順

転送元

保 留

1 通話相手に転送することを伝え[保留] キーを押す

受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。

保留した外線のランプは橙と緑で交互に点滅します。また、別の電話機の保留の外線ランプは緑の速い点滅をします。

保留の相手には、保留音(メロディ)を送ります。



2 転送先に呼びかける

たとえば、「田中さん、外線 5 番に池田さんから電話が入っています」と呼びかけます。

3 受話器を戻す



転送先

外 線

1 呼びかけられた人は受話器を上げる

受話器から「ツーツー」の発信音が聞こえます。

2 点滅している [外線] キーを押す

この場合は、呼ばれた田中さんは[外線 5] キーを押します。

通話ができる状態に戻ります。

外線ランプは緑の点灯に変わります。



3 通話終了後、受話器を戻す

外線ランプは消灯します。

補足

転送先が一定時間内に応答しない場合は、保留した電話機に保留警告音が鳴ります。この場合は、橙と緑で交互に点滅しているランプの [外線] キーを押すと、保留が解除され相手との電話に戻れます。

呼びかけられた人の電話機が、受話器をあげると自動的に外線をつかむ設定をしている場合、受話器をあげないで [外線] キーを押した後、受話器をあげます。

1.2 ダイヤルして転送する（ダイヤル転送）

転送先の内線番号をダイヤルして転送します。

操作手順

内線



1 通話相手に転送することを伝え [内線] キーを押す

受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。

内線ランプは赤く点滅します。

外線ランプは緑の点灯のままでです。

保留の相手には、保留音(メロディ)を送ります。



2 転送先の内線番号をダイヤルする

3 転送先に用件を伝える

たとえば、「田中さんに池田さんから電話が入っていますのでおつなぎします」と伝えます。



4 受話器を戻すと、転送される

転送元の外線ランプは赤く点灯します。

転送先の外線ランプは緑で点灯します。

補足

相手が内線の場合でも、他の内線に転送できます。

1.3 内線ワンタッチダイヤルキーで転送する（内線ワンタッチダイヤルキー転送）

内線



操作手順

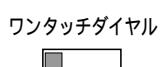
1 通話相手に転送することを伝え [内線] キーを押す

受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。

内線ランプは赤く点滅します。

外線ランプは緑の点灯のままでです。

保留の相手には、保留音(メロディ)を送ります。



2 [ワンタッチダイヤル] キーを押す

3 転送先に用件を伝える

たとえば、「田中さんに池田さんから電話が入っていますのでおつなぎします」と伝えます。



4 受話器を戻すと、転送される

転送元の外線ランプは赤く点灯します。

転送先の外線ランプは緑で点灯します。

補足

フレキシブルキーに [ワンタッチダイヤル] キーを登録するには、P.43「フレキシブルキーに外線番号 / 内線番号を登録する」を参照してください。

オプション電話機の場合は、[ワンタッチ] キーで操作します。

[ワンタッチダイヤル] キーの代わりに、[DSS] キーでも同じことができます。

第6章

電話機の便利な使い方

第6章

1.	夜間や留守番のときに便利な機能	88
1	昼／夜モードを切替えるには（夜間鳴動先指定／留守応答）	88
2	夜間の着信先を一定時間後別の内線に転送するには（応答遅延転送）	88
3	指定の外線着信に録音メッセージを送る（留守応答）	89
4	一般着信を1台の電話機で受ける（集中着信）	91
5	通話中に別の外線着信を一時待つてもらうには（着信ウェイトメッセージ）	92
2.	席を離れるときには	93
1	外線着信を指定した相手に自動転送するには（指定外線自動転送）	93
2	外線着信を手動で別の外線に転送するには（外線手動転送）	96
3	不在のメッセージを送る（不在設定）	97
4	離席時に電話を転送する（不在転送）	98
5	外出先から転送電話の設定などを変更するには（PB保守）	101
3.	その他の便利な機能	103
1	迷惑電話を拒否する	103
2	ナンバーディスプレイ機能を利用する	105
3	受話器を上げずにかける（オングックダイヤル）	106
4	相手の音声をスピーカで聞く（スピーカ受話）	106
5	Lモード（インターネット）を利用するには	107
6	i・ナンバー機能、ダイヤルイン機能を利用するとき	108
7	3人以上で通話する	109
8	便利な転送機能	111
9	キャッチホンと表示されたときは	113
10	相手が内線通話中のとき特番操作で終話をうながすには（通話中着信）	114
11	[DSS]キーで電話をかける	115
12	ボイスワープを利用する（キーパッドファシリティ送出）	115
13	プッシュホン信号を送る（PBエンド・ツー・エンド通信）	116
14	ポーズ信号は自動的に挿入される（オートポーズ）	117
15	指定外線から直接内線に着信させる（付加番号 DID）	117
16	着信の音色を選択する（着信音選択）	118
17	外線別に鳴動電話機を指定する（外線別鳴動先指定）	118
18	外線別着信音を選択する（外線別着信音選択）	119
19	通話中の外線着信表示について（通話中外線着信表示）	119
20	停電について	120
21	長電話を知らせる（長時間通話警告）	120
22	秘書機能について	121
23	主装置で設定する機能	122

夜間や留守番のときに便利な機能

1

昼 / 夜モードを切替えるには

(夜間鳴動先指定 / 留守応答)

留守番や夜間のとき、外線ごとに着信鳴動する電話機を指定できます。着信音は鳴らなくても外線ランプは点滅します。

かかってきた電話は、[応答] キーまたは、点滅している [外線] キーを押すことによって受けることができます。また、夜間や留守のとき指定の外線に着信があった場合、システム内蔵の留守応答装置につながり、録音メッセージを送ることができます。

<夜間モードに切替えるには>



受話器を置いたまま操作します。

1 [夜間切替] キーを押す

設定できた場合は、「ピー」と鳴ります。
[夜間切替] ランプは赤く点灯します。



この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

<解除するには>



受話器を置いたまま操作します。

1 [夜間切替] キーを押す

削除できた場合は、「ピー」と鳴ります。
[夜間切替] ランプは消灯します。

2

夜間の着信先を一定時間後別の内線に転送するには

(応答遅延転送)

夜間または昼間（昼食時）など、誰もいないときの着信を、別の内線に転送できます。転送する条件は、一定時間応答がない場合に転送されます。

応答遅延転送先は昼 / 夜間に分けることができます。



この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

3

指定の外線着信に録音メッセージを送る

(留守応答)

夜間や留守のとき指定の外線に着信があった場合、システム内蔵の留守応答装置につながり録音メッセージを送ることができます。

<応答メッセージを録音する>

応答メッセージの録音は、システム管理電話機で行います。メッセージは16秒間録音できます。

操作手順



1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“6(応答MSG管理)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す

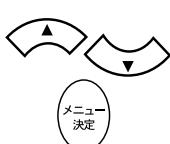


3 キーで“4(留守応答MSG)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す

留守応答MSG
1: 再生(録音なし)
2: 録音
3: 消去



4 受話器をあげる



5 キーで“2(録音)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す
「ピー」と鳴り録音を開始します。



この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。
応答メッセージを録音する場合および、留守応答機能を利用する場合は、ハードオプションが必要のため、販売店にご相談ください。



応答メッセージの録音と確認は、システム管理電話機で行います。

録音の確認方法は、操作手順1～3です。操作手順3でディスプレイの“1(再生)”を選ぶと、録音アリ/録音なしが表示されます。

操作手順3のあと“1(再生)”をダイヤルし、[メニュー/決定] キーで再生されます。



応答メッセージは、下表から選んで利用することもできます。操作手順3の機能番号を変えれば、番号に応じたメッセージを録音できます。

機能番号	機能種別名	ディスプレイ表示	参照ページ
1	外線転送元メッセージ	外線転送元MSG	P.98
2	外線転送先メッセージ	外線転送先MSG	P.98
3	着信ウェイトメッセージ	着信ウェイトMSG	P.92
4	留守応答メッセージ	留守応答MSG	P.88
5	付加番号DIDガイダンス	DIDガイダンス	P.117
6	選択転送メッセージ	選択転送MSG	P.98



6 受話器に向かってメッセージを話す

MSG録音
>>> 
1: 録音終了
2: キャンセル

ディスプレイの表示“>”は録音時間を表します。1つの“>”で1秒です。

録音時間は16秒です。

録音時間の16秒以内に“1(終了)”をダイヤルすると、録音を終了しメッセージが再生されます。“2”をダイヤルすると、録音内容をキャンセルできます。

録音をやり直す場合は、操作手順4からはじめます。

(1あ)

7 “1”をダイヤルする

MSG再生
>>>
1: 再生内容登録
2: キャンセル

録音が再生されます。

ディスプレイの表示“>”は再生時間を表します。1つの“>”で1秒です。

(1あ)

または

(2か)
ABC

8 再生内容を登録する場合は“1”を、キャンセルする場合は“2”ダイヤルする



9 受話器を戻す

4

一般着信を1台の電話機で受ける

(集中着信)

集中着信機能を持たせた電話機では、グループ分けに関係なくDIL、サブアドレス着信等個別着信を除いた外線着信を1台の電話機で受けることができます。また、集中着信中は受話器をあげるだけで応答できます。

操作手順



1 外線着信音「プルル」が鳴る

かかってきた外線ランプは赤で点滅します。



2 受話器をあげる

通話ができる状態になります。

外線ランプは、緑の点灯に変わります。



3 通話終了後は、受話器を戻す

外線ランプは、消灯します。

第6章

<集中着信にするには>



受話器を置いたまま操作します。

1 [集中着信] キーを押す

登録できた場合は、「ピー」と鳴ります。

集中着信ランプは赤く点灯します。

補足

集中着信登録の電話機は、常に集中着信ランプは赤く点灯しています。

《集中着信》キーは《フレキシブル》キーにあらかじめ設定しておきます。

設定方法は、P.38「フレキシブルキーに機能を割付ける」を参照してください。

<集中着信を解除するには>



受話器を置いたまま操作します。

1 [集中着信] キーを押す

解除できた場合は、「ピー」と鳴ります。

集中着信ランプは、消灯します。

5

通話中に別の外線着信を一時待ってもらうには

(着信ウェイトメッセージ)

通話中に別の外線着信があった場合、通話中の電話機でその外線に一時待ってもらう旨のメッセージを送り、その後保留状態にできます。通話終了後に保留にした外線の電話にでることができます。

操作手順



- 1 通話中に外線着信音「ピ-」が鳴る
かかってきた外線ランプは赤で点滅します。
- 2 [着信ウェイト] キーを押す
着信ウェイトランプは赤で点灯します。
- 3 [応答] キーまたは、赤で点滅している
[外線] キーを押す
かかってきた外線には、例えば「XX会社です。
しばらくお待ち下さい。」などの録音メッセージ
を送り保留状態になります。
外線ランプは、緑と橙で交互に点滅します。
- 4 通話終了後、受話器を戻さずに
[着信ウェイト] キーを押す
保留している相手と通話できる状態になります。
外線ランプは緑の点灯に変わります。
着信ウェイトランプは消灯します。
- 5 通話終了後、受話器を戻す
外線ランプは消灯します。

補足

フレキシブルキーに [着信
ウェイト] キーを設定するに
は、P.38をご参照ください。
着信メッセージはあらかじ
め録音しておく必要があります。
(P.89)

着信ウェイトランプが赤く
点灯している電話機では、次
の外線着信には着信ウェイ
トはできません。
[着信ウェイト] キーで保留
されている外線は、他の電話
機から、その外線を捕捉する
ことはできません。

メモ

せっかくかかってきた、お客様
からの電話をのがさず、ビジネ
スのチャンスが広がります。

ご注意

この機能を使用する場合は、
販売店にご相談ください。

2

席を離れるときに

1

外線着信を指定した相手に自動転送するには

(指定外線自動転送)

転送される外線を登録しておくと、その外線の着信は、自動的に登録された相手先に転送できます。転送される外線は、電話機に登録されている外線に限ります。

<自動転送にするには>

操作手順

指定外線転送



1 [指定外線転送] キーを押す

指定外線転送ランプは赤く点灯します。

<自動転送を解除するには>

操作手順

指定外線転送

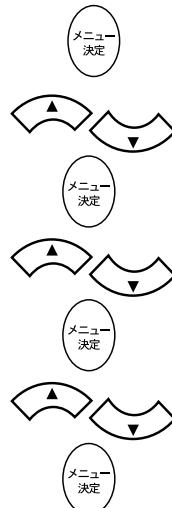


1 [指定外線転送] キーを押します。

指定外線転送ランプは消灯します。

<転送される外線に電話番号を登録する>

操作手順



- 1 [メニュー/決定] キーを押す
- 2 キーで“7(転送設定)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す
- 3 キーで“4(転送電話)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す
- 4 キーで“1(転送先(回線毎))”を選び、[メニュー/決定] キーを押す

転送先番号 回線--(F--)

!ご注意

この登録を行えるのは、システム管理電話機です。

補足

一括登録機能を使用すると、短縮番号に登録されたダイヤルを使用して手順4~14の設定を一括して完了することができます。

手順4で“3(一括登録(シスム))”を選び、[メニュー/決定] キーを押す。

次に短縮番号をダイヤルするか検索し[メニュー/決定]キーを押すことにより登録は完了します。

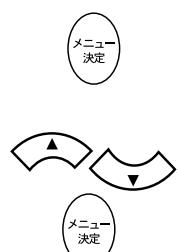
注：一括登録では、全ての回線が設定の対象になります。



- 5 自動転送する外線を指定する

転送先番号 No:1 回線02(F02)	例えば、[外線2]キーを押した場合
-------------------------	-------------------

[発信]キーを押すと、すべての外線が転送回線となります。



- 6 [メニュー/決定] キーを押す

- 7 キーで“1(番号入力)”または“2(短縮番号選択)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す

短縮番号選択は、操作手順9に進みます。



- 8 転送先の電話番号をダイヤルする

転送先番号 回線02(F02)

03113456789*123

操作手順10に進みます。



9 キーでシステム短縮番号を検索するかダイヤルする

転送先番号 No:2
短縮No000
0123456789
入スキ仔口ウ



10 [メニュー/決定] キーを押す

登録できた場合は、「ピー」と鳴ります。



11 キーで“4(転送設定)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す



12 キーで“2(転送回線指定)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す

転送回線指定
回線--(F--)

外 線



13 登録する [外線] キーを押す

転送回線指定
回線_01(F01)

*---

例えば、[外線1]キーを押した場合

[発信]キーを押すと、すべての外線が転送回線となります。

補足

手順13の表示画面にある“*”は、電話機のボタンに対応する転送電話対象外線です。

転送対象外線がISDN回線の場合、同一インターフェイス内の外線も同時に“*”が付きます。



14 [メニュー/決定] キーを押す

登録できた場合は、「ピー」と鳴ります。

他の外線にも指定外線自動転送を設定する場合は、操作手順3から繰り返します。



15 [スピーカ] キーを押す

2

外線着信を手動で別の外線に転送するには

(外線手動転送)

通話中に空いている外線を使って他の外線に転送することができます。

操作手順

内 線

1 通話中に外線転送することを伝え
[内線] キーを押す

受話器は「ツツツツ」の発信音に変わります。

[内線] ランプは赤く点滅します。

[外線] ランプは緑のままでです。

相手には、保留音(メロディ)を送ります。

外 線



2 空いている [外線] キーを押す



ワンタッチダイヤル



3 転送先の電話番号またはシステム短縮番号をダイヤルするか [ワンタッチダイヤル] キーを押す

4 転送先と通話する

指定外線転送



5 転送先に転送することを伝え [指定外線転送] キーを押す

転送元と転送先が通話状態となります。

使用中の外線ランプは赤点灯となります。



6 受話器を戻す

補足

「便利な転送機能」の中に
チェンジオーバー機能
(P.111)がありますが、操作手順4までは全く同じです。

操作手順5で[内線]キーを
押すとチェンジオーバーし
ます。

フレキシブルキーに[ワン
タッチダイヤル]キーを登録
するには、P.43を参照して
ください。

3

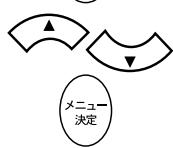
不在のメッセージを送る

(不在設定)

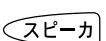
不在設定しておくと内線からの電話には、不在メッセージを相手の電話機に表示させることができます。

<メッセージを選ぶには>

操作手順

- 1 [メニュー/決定] キーを押す
 メニュー決定
- 2 キーで“7(転送設定)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す
 メニュー決定
- 3 キーで“3(不在設定)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す
 メニュー決定
- 4 キーで不在設定(理由)を選び、
[メニュー/決定] キーを押す
 - 1: 不在
 - 2: 外出
 - 3: 会議

登録できた場合は、「ピー」と鳴ります。


- 5 [スピーカ] キーを押す



[不在設定] をした内線にかけると発信者の電話機にメッセージが表示されます。

第6章



不在転送と不在設定が同時に設定されている電話機では、不在転送が優先されます。
不在メッセージの内容は、お客様で好みのメッセージに変更することができます。販売店にご相談ください。

<不在設定にする>

- 1 [不在設定] キーを押す
 不在設定



フレキシブルキーに [不在設定]キーを登録するには、P.38「フレキシブルキーに機能を割付ける」を参照してください。

<不在設定を解除する>

- 1 [不在設定] キーを押す
 不在設定

留守

4

離席時に電話を転送する

(不在転送)

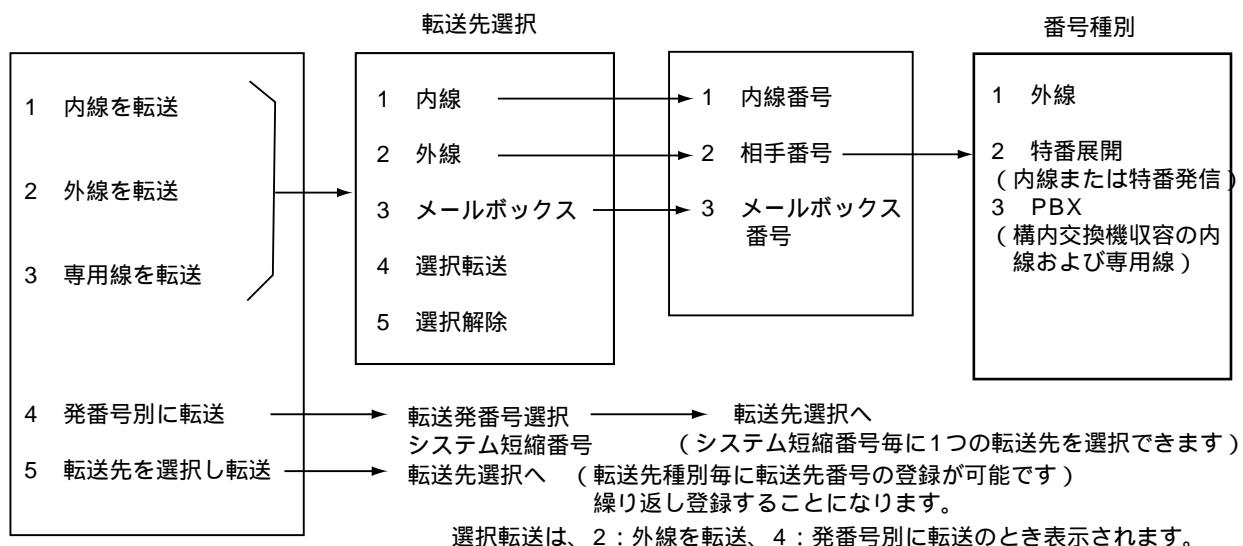
離席時に転送先の電話番号を登録すると、その後の着信は登録されている電話番号へ自動的に転送されます。

<不在転送先登録の手順>

なにを転送しますか

どこへ転送しますか

相手先番号を決めましょう



<不在転送先を登録する>

操作手順

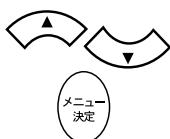
- 1 [メニュー/決定] キーを押す
- 2 キーで“7(転送設定)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す
- 3 キーで“1(不在転送)”または
“2(不在転送一括)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す
「不在転送一括」を選んだ場合、次の操作手順 5 に進みます。

補足

フレキシブルキーに[不在設定]キーを登録するには、P.38「フレキシブルキーに機能を割付ける」を参照してください。
転送する種別(内線・外線等)を選ばず、全てを転送するには、操作手順3で「不在転送一括」を選んでください。

ご注意

操作手順3で「不在転送一括」を選んだ場合、すでに不在転送が設定してある場合でも、その設定内容は見られません。設定内容を見たいときは、「不在転送」を選んでください。



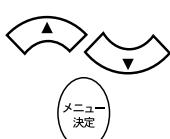
4 キーで何を転送するかを選び、[メニュー/決定]キーを押す

- 1：内線転送
- 2：外線転送
- 3：専用線転送
- 4：発番号別転送
- 5：選択転送先

発番号別転送は操作手順8に進みます。

選択転送先を選んだ場合は、繰り返し転送先番号の登録が可能です。

選択転送の場合は、「選択転送先」に進みます。操作手順5で選択転送先を選んでください。(この場合は、選択転送の表示はありません)



5 キーで転送先を選び、[メニュー/決定]キーを押す

- 1：内線
- 2：外線
- 3：メールボックス
- 4：選択転送
- 5：転送解除



6 登録する番号をダイヤルする

メールボックスの場合は、メールボックス番号をダイヤルします。

「内線」「メールボックス」の場合は、操作手順9に進みます。



7 キーで番号種別を選ぶ

- 1：外線
- 2：特番展開（内線）
- 3：PBX（構内交換機の内線および専用線）



8 システム短縮ダイヤルNoをダイヤルし、[メニュー/決定]キーを押す

転送発番号選択
短縮No:000
0123456789
スル キヤロウ

キーで検索することもできます。

操作手順5に戻ります。



9 [メニュー/決定]キーを押す



10 [スピーカ]キーを押す

<不在転送 / 選択転送を有効とする>

不在転送


1 [不在転送] キーを押す



2 [メニュー/決定] キーを押す
不在転送ランプは赤く点灯します。



3 [スピーカ] キーを押す

補足

選択転送モードに登録すると、以前の不在転送の内容は、選択転送の内容に切替わります。
(どちらかのモードでのみ働きます。)

<不在転送を解除する>

不在転送


1 [不在転送] キーを押す
不在転送ランプは消灯します。

5

外出先から転送電話の設定などを変更するには

(PB保守)

外出先から転送電話などの設定を変更することができます。この機能を使うには、販売店にご相談ください。また、この機能を使うときに使用する電話機は、プッシュ信号を出力できる電話機に限ります。

操作手順



1 外出先から会社に電話をかける

ISDN回線から着サブアドレスまたはアナログのダイヤルラインでかけた場合は、次に操作手順4となります。

着サブアドレスは、初期値で“921234”となっています。

9 2

2 PB保守特番“92”をダイヤルする

1 2 3

4

1	2	3
4	5	6
7	8	9
#	0	#

3 暗証番号“1,2,3,4”をダイヤルする

受話器から「ピー」という音が聞こえます。

暗証番号の初期値は“1,2,3,4”です。変更している場合は、販売店にお聞きください。

0

1

2

4

6

7

8

4 自分の内線番号をダイヤルする

モード番号は次のとおりです。

録音通知の変更

0

転送電話の設定／解除

1

転送電話の転送先変更

2

不在転送の設定変更

4

転送電話の一括転送設定変更

6

昼／夜モードの変更

7

転送電話の転送先短縮変更

8

不在転送設定または転送電話の一括転送設定の設定変更のときは次に操作手順10となります。

転送電話の一括転送設定で相手先の電話番号を設定または変更するときは、操作手順11となります。モード変更の設定または解除するときは、操作手順10となります。

録音通知を変更するときは次に操作手順8となります。

昼／夜モードの変更をするときは次に操作手順9となります。

補足

転送電話の転送先変更は、システム管理電話機に指定されている内線のみ可能です。操作手順6で転送電話の転送先を解除の場合“99”をダイヤルすると指定内線に登録されている外線は全て解除されます。

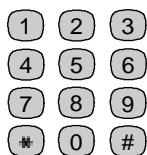
操作手順6の「外線」番号は、次の方法で確認してください。

外線
保留 #

ディスプレイ2段目右端に外線番号が表示されます。

第6章

転送

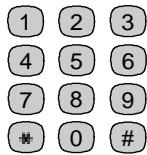


6 [外線] 番号をダイヤルする

着信する [外線] キー番号を指定します。

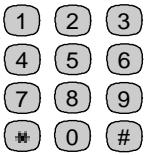
転送電話の設定 / 解除のときは次に操作手順 10 となります。

転送電話の転送先短縮変更のときは、次に操作手順 11 となります。



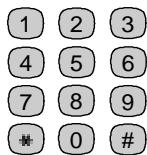
7 転送先電話番号をダイヤルする

次は、操作手順 10 となります。



8 内線番号 / 拡張内線番号をダイヤルする

次は、操作手順 10 となります。



9 夜間グループ番号をダイヤルする

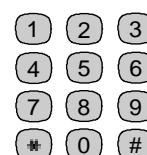
または *

10 モード変更の設定 / 解除をする

設定のときは、“#”をダイヤルします。

解除のときは、“*”をダイヤルします。

続けて別の設定を操作するときは、操作手順 5 に戻ります。終了するときは、操作手順 12 となります。



11 システム短縮番号をダイヤルする

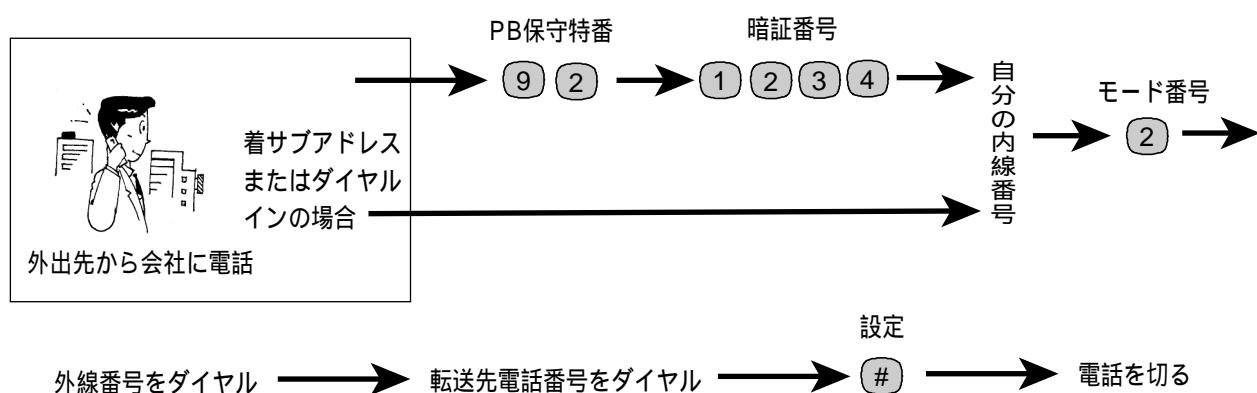
転送電話の一括転送設定のときは、次は、操作手順 5 で再度 “6” をダイヤルし、操作手順 10 となります。

転送電話の転送先短縮変更のときは、操作手順 10 となります。



12 受話器を戻す

<外出先から転送電話の設定例：転送先を変更する>



その他の便利な機能

1

迷惑電話を拒否する

(着信拒否)

非通知やあらかじめ登録しておいた電話番号から電話がかかってきた場合に、着信を拒否することができます。非通知の場合は、ナンバーディスプレイ契約が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

<個別着信中に着信拒否登録する>



1 [着信拒否] キーを押す

<外線通話中に着信拒否登録する>



1 [着信拒否] キーを押す

補足

フレキシブルキーに[着信拒否]キーを登録するには、P.38「フレキシブルキーに機能を割付ける」を参照してください。

個別着信中から着信拒否登録をしたときは、次の着信から着信拒否します。

<着信記録から登録する>

操作手順



1 ▶ キーを押す

着信記録が表示されます。



2 キーで着信拒否をする着信記録を選び、[メニュー/決定]キーを押す



3 キーで“4(着信拒否コピー)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す



4 キーで“2(エリア番号)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す



5 キーで空エリア番号を検索し、[メニュー/決定]キーを押す
登録ができた場合は、「ピー」と鳴ります。



6 [スピーカ] キーを押す

注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

補足

操作手順1のかわりに
1.[メニュー/決定]キーを押す
2.キーで“2(履歴表示)”を選び[メニュー/決定]キーを押す
3.キーで“2(着信記録)”を選び[メニュー/決定]キーを押す
と操作してもできます。

補足

非通知の電話の着信拒否は、システムのデータ設定が必要です。販売店にご相談ください。

登録できる電話番号は、システムで50件、最大桁数は20桁です。

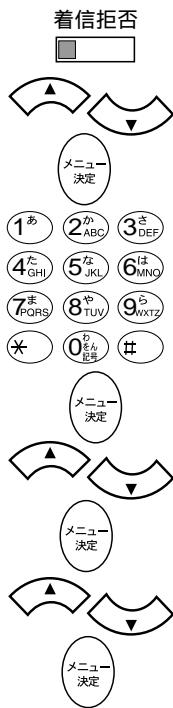
ISDN回線の場合は、応答前に着信拒否しますが、アナログ回線は、モデムダイヤルイン以外は、自動応答後に切断します。

着信拒否する電話番号は、市外局番から登録してください。

<着信拒否したい電話番号を登録する>

操作手順

受話器を置いたまま操作します。



- 1 [着信拒否] キーを押す
- 2 キーで“1(相手番号)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す
- 3 相手番号をダイヤルし [メニュー/決定] キーを押す
- 4 キーで“2(エリア番号)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す
- 5 キーで空エリア番号を検索し、[メニュー/決定] キーを押す

補足

操作手順 1 のかわりに

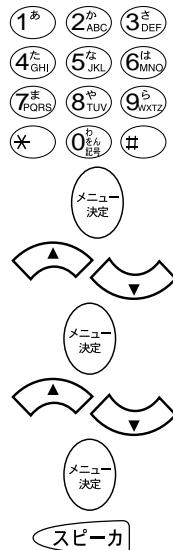
- 1 . [メニュー/決定] キーを押す
- 2 . キーで“3(番号登録)”を選び [メニュー/決定] キーを押す
- 3 . キーで“3(着信拒否登録)”を選び [メニュー/決定] キーを押す

と操作してもできます。

<着信拒否登録の変更または削除>

操作手順

- 1 [メニュー/決定] キーを押す
- 2 キーで“1(番号検索)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す
- 3 キーで“4(着信拒否検索)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す
- 4 キーで登録を変更または削除する電話番号を検索し [メニュー/決定] キーを押す
- 5 キーで“2(内容変更)”または“1(登録削除)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す
登録削除のときは操作手順 8 へ進みます。
- 6 キーで“1(相手番号)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す



7 電話番号を修正入力し、[メニュー/決定]キーを押す

修正箇所まで△キーでカーソルを移動させ、[戻る/削除]キーで削除し、再入力します。

8 キーで“2(エリア番号)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す

9 修正前の「エリア番号」または空エリア番号を選択し[メニュー/決定]キーを押す

10 [スピーカ]キーを押す

補足

操作手順7のあとにエリア番号を新たに入力すると、元のエリア番号には、修正前の登録データが残りますのでご注意ください。

2

//ナンバーディスプレイ機能を利用する

2.1 発番号対応着信

受信発番号ごとに着信形式を設定することで、着信先（昼／夜）を選択できます。

着信形式	一般 付加番号 DID DIL
------	-----------------------

登録	システム短縮番号の登録が自動的に反映します。 電話番号の登録は、市外局番から登録してください。
----	--

2.2 発番号別着信音選択

受信発番号ごとに着信音を選択することができます。

着信音	5種類の中から選択できます。
登録	システム短縮番号の登録が自動的に反映します。

2.3 ネームディスプレイ情報を表示する

アナログ回線、ISDN回線からのネームディスプレイで通知される情報を着信先の電話機に表示します。

[着信中の表示イメージ]

一般着信の場合

鈴木一郎
2/12 tue 3:30P

個別着信の場合

2/12 tue 3:30P
鈴木一郎

補足

表示指定は、電話機ごとに設定可能です。詳しくは販売店にご相談ください。

発番号名称登録がある場合は、受信したネームディスプレイ情報は表示されません。ネームディスプレイ情報に表示が不可能なコードが含まれる場合（第3/4水準の漢字は表示できません）“ ”にてコードを置換して表示します。

名称が8文字を超える場合、先頭から8文字表示します。名称が8文字を超える場合、ディスプレイ3/4行目に全表示します。

ディスプレイ3/4行目に表示した名称を消すには、着信のないときに、もう一度[拡張表示]キーを押します。フレキシブルキーに[拡張表示]キーを登録するには、P.38を参照してください。

3

受話器を上げずにかける

(オンフックダイヤル)

受話器をあげずに外線、内線にダイヤルできます。相手が応答したら、受話器をあげて通話できます。

操作手順

外線



または

内線



1 [外線] または [内線] キーを押す

外線にかける場合、[発信] キーまたは、外線ランプが消えている [外線] キーを押します。
内線にかける場合、[内線] キーを押します。



2 外線または内線の電話番号をダイヤルする

[短縮] キーを押した場合は、システム短縮番号をダイヤルします。



3 相手の応答する声が「スピーカ」から聞こえたら、受話器をあげて通話する

補足

オフック外線自動捕捉の場合は、操作手順1で[スピーカ]キーを押しても外線にかけられます。この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

4

相手の音声をスピーカで聞く

(スピーカ受話)

受話器で通話中に、相手の声を「スピーカ」から聞くように切替えられます。

操作手順

スピーカ

1 通話中に [スピーカ] キーを押す

スピーカ受話に切替わります。
こちらの音声は、相手には聞こえなくなります。



2 受話器を戻す

受話器をあげるとスピーカ受話は解除され、通常の受話器による通話に戻ります。

補足

スピーカ受話中は ⓧ ⓨ キーでスピーカの音量が調節できます。

5

Lモード(インターネット)を利用するには

< Lモード端末収容 >

市販のLモード対応の電話機を収容できます。Lモード対応の電話機を収容する場合は、販売店にご相談ください。

< Lモード対応電話機の操作方法 >

外線発信手順



- 1 受話器をあげる



- 2 相手の電話番号をダイヤルする



- 3 相手が応答すると通話ができる

- 4 通話が終了したら受話器を戻す

補足

Lモードのサービスを受けるためには、Lモードサービスの契約が必要です。
Lモード対応の電話機を収容する場合は、オフフック外線自動捕捉の設定が必要です。

内線発信手順



- 1 受話器をあげる



- 2 3秒以内にフッキングする

- 3 相手の電話番号ダイヤルする



- 4 相手が応答すると通話ができる

- 5 通話が終了したら受話器を戻す

<メッセージ到着のお知らせ>

メールまたはメッセージの到着を多機能電話機で知ることができます。フレキシブルキーに、それぞれの契約番号に対応した[センターメール]キーを割り付けておく必要があります。

マジックボックス

・Lモードサービス

<メッセージありの場合>

[センターメール]ランプが赤で点灯します。

<メッセージの確認>

[センターメール]キーを押すことにより確認できます。

補足

[マジックボックス・Lモードサービス]を受けるためには、それぞれのサービスの契約が必要です。
対応サービスは、次のように割り付けます。
・マジックボックス センター1
・Lモードサービス センター2

センター番号1にメッセージあり

0123456789
センター:1

センター番号1,2にメッセージあり

0123456789
センター:12

全センターメッセージなし

0123456789
メッセージ ナシ

6

i・ナンバー機能、ダイヤルイン機能を利用する

この機能を利用するときには、NTTとのi・ナンバー契約またはダイヤルイン契約が必要です。この機能を利用する場合は、販売店にご相談ください。

7

3人以上で通話する

電話機は通常1対1の通話で、他人が聞くことができない秘話になっています。この秘話を解除することで3人以上で通話する会議通話、割込み通話ができます。

7.1 会議通話をする（会議通話）

外線または内線と通話中に電話をかけ、もう一人通話に加え会議通話ができます。会議通話は二人まで加えて4者による通話までできます。

操作手順

内 線



- 相手に会議通話をはじめることを伝え、[内線]キーを押す



- 外線または、内線にダイヤルする

- 相手の応答に、会議通話に加わるよう伝える

たとえば、「今 の件で田中さんと話しています。山田さんも加わってください。」と伝えます。

秘話解除 / 会議



- 了解を得てから[秘話解除/会議]キーを押す

LCDディスプレイの2段目に、『会議通話』と表示されます。

[秘話解除/会議]ランプは赤く点灯します。
3者で会議通話ができます。

補足

フレキシブルキーに[秘話解除/会議]キーを登録するにはP.38「フレキシブルキーに機能を割付ける」を参照してください。

あらためてダイヤルして、4者による会議通話ができます。

外線2者と会議通話中に[指定外線転送]キーを押すことにより外線手動転送となります。

7.2 通話に3人目を加える（秘話解除）

外線との通話中に秘話を解除し、もう一人通話に加えて3者による通話ができます。

操作手順

秘話解除 / 会議



- 通話にもう一人加えることを伝え、[秘話解除/会議]キーを押す

LCDディスプレイの2段目に、『会議通話』と表示されます。

秘話は解除されます。

- 通話に加わる人に口頭で呼びかける

たとえば、「山川さん外線1番の通話に加わってください。」と呼びかけます。

補足

もう一人加えて、4者による通話ができます。
受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、呼びかけられた人は[外線]キーを押してから受話器をあげて通話します。



外線



- 3 呼びかけられた人は受話器をあげる**
受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

- 4 通話中の[外線]キーを押す**
3者での通話ができます。

7.3 通話中の外線に割込む（外線割込み通話）

通話中の外線に割込んで、通話に加わることができます。

操作手順



割込



- 1 受話器をあげる**

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

- 2 [割込]キーを押す**

割込みランプは赤く点滅します。

LCDディスプレイの2段目には「ワリコミサキ：」と表示されます。

- 3 通話中の[外線]キーを押す**

LCDディスプレイの2段目に、『割込通話』と表示されます。

通話中の内線電話機には、割込み音「ピー」が送られます。

割込みができ、3者通話ができます。

補足

フレキシブルキーに[割込]キーを登録するには、P.38「フレキシブルキーに機能を割付ける」を参照してください。

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、[内線]キーを押してから受話器をあげて通話します。

外線



7.4 通話中の内線に割込む（内線割込み通話）

通話中の内線に割込んで、通話に加わることができます。

操作手順



割込



- 1 受話器をあげる**

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

- 2 内線番号をダイヤルする**

受話器から「ツーッツーッ」と話中音が聞こえます。

- 3 [割込]キーを押す**

LCDディスプレイの2段目には、『割込通話』と表示されます。

ダイヤルした内線番号の電話機には、割込み音「ピー」を送ります。

割込みができ、3者通話ができます。

補足

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、[内線]キーを押してから受話器をあげて通話します。

ご注意

割込みができる内線は特定の内線だけです。この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

8

便利な転送機能

8.1 発信元と転送先を交互に通話する（チェンジオーバー）

転送者は発信元と（電話をかけてきた人と）、転送先の人と交互に通話することができます。また、かかってきた2本目の外線と交互に通話することができます。

操作手順

内 線



1 通話相手に保留することを伝え [内線] キーを押す

受話器は「ツツツツツ」の発信音に変わります。
内線ランプは赤く点滅します。
外線ランプは緑のままでです。
保留の相手には、保留音(メロディ)を送ります。

外 線



2 空いている [外線] キーを押す

3 転送先の電話番号をダイヤルする



4 転送先と通話する

内 線



5 転送先に保留することを伝え [内線] キーを押す

転送先の相手には、保留音(メロディ)を送ります。

6 電話をかけてきたとの通話に戻れる

[内線] キーを押すことで、通話相手を交互に変えることができます。

補足

かかってきた2本目の外線と交互に話すには、操作手順2で次にかかってきた2本目の[外線]キーを押し、通話します。チェンジオーバーするには、操作手順5にいきます。

転送先が内線の場合、操作1の次に3で内線番号をダイヤルします。

チェンジオーバー中に[指定外線転送]キーを押すと手動転送となります。（P.96）

転送者が[秘話解除/会議]キーを押すと、発信元と転送先との3者会議通話ができます。（P.109）

8.2 外線発信の依頼を受けたとき（外線依頼発信）

内線と通話中に外線に発信して、つながった外線を内線に転送できます。

操作手順

内 線



- 1** 外線発信の依頼を受けたときは、「受話器を戻さずにお待ちください」と伝え
[内線] キーを押す

受話器は「ツツツツツ」発信音に変わります。

発信依頼者には保留音（メロディ）を送ります。

外 線



- 2** 外線ランプが消えている、[外線] キーを押す

外線とつながると発信音は「ツー」に変わります。



- 3** 依頼された電話番号をダイヤルする

- 4** 相手に用件を伝える

たとえば「田中さんからの電話です。今おつなぎします。」と伝えます。

内 線



- 5** [内線] キーを押す

発信依頼者に、たとえば「中村さんとつながりました。」と伝えます。

相手には保留音（メロディ）を送ります。



- 6** 受話器を戻す

発信依頼者と田中さんの電話はつながります。



応接室や倉庫など「外線発信」できない電話機および自分の席に戻らないと外線番号がわからないなどのとき便利です。

9

キャッチホンと表示されたときは

外線または内線と通話中に他の内線から着信があると、LCDディスプレイに「キャッチホン」と表示されます。通話中の相手を一時保留し、着信の相手と通話できます。

操作手順

1 通話中に着信を受けた状態

LCDディスプレイの1段目に『キャッチホン』と表示されます。

キャッチホン
内線 10

内 線
[]

2 通話中の相手に保留することを伝え、[内線]キーを押す

かかってきた内線電話とつながります。

通話中だった相手には、保留音(メロディー)を送ります。

内線キーランプが赤く点滅します。

内 線
[]

3 前の相手に戻るときは、[内線]キーを押す

相手が受話器を戻すまでは、[内線]キーで繰返し相手を変えて通話できます。

補足

操作手順2で[内線]キーのかわりにフッキング操作(P.27)でも行うことができます。

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

10

相手が内線通話中に特番操作で終話をうながすには

(通話中着信)

相手内線が通話中のとき、特番をダイヤルすることによって相手内線に着信着信表示を行い、終話をうながすことができます。また、相手内線は[内線]キー（単独電話機はフッキング）によって、呼出内線と通話することができます。

<内線通話中の相手を呼び出すには>

操作手順

呼び出す側



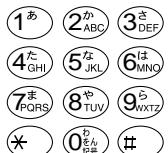
1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 内線番号をダイヤルする

受話器から「ツーッツーッ」が聞こえます。



3 「通話中着信特番」をダイヤルする

相手が[内線]キーを押すか、またはフッキング操作によって応答すると、通話できます。



この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。



この機能を使用する場合は、内線キャッチホン、シリーズコードとの併用はできません。いずれか1つの機能だけ使用できます。

呼び出される側

内線



1 通話中に着信を受けた状態

受話器から「ピ———」と音が聞こえます。

補足

PB通話中、メモダイヤル中も通話中着信が入ります。

2 通話中の相手に保留することを伝え、[内線]キーを押す

かかってきただの内線電話とつながります。

通話中だった相手には、保留音(メロディー)を送ります。

内線キーランプが赤く点滅します。

内線



3 前の相手に戻るときは、[内線]キーを押す

相手が受話器を戻すまでは、[内線]キーで繰返し相手を変えて通話できます。

11

[DSS]キーで電話をかける

フレキシブルキーは相手電話機の使用状態がわかる[DSS](内線番号)キーとして使うことができます。

操作手順



1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 [DSS]キーを押す

[DSS]ランプは赤く点灯します。

[DSS]ランプが点灯している場合は、相手電話機は使われています。



相手が応答すると、通話ができます。

3 通話終了後、受話器を戻す

補足

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、受話器をあげる前に[DSS]キーを押します。フレキシブルキーに[DSS]キーを登録するには、P.47をご参照ください。

第6章

12

ボイスワープを利用する

(キーパッドファシリティ送出)

<ボイスワープを運用開始する>

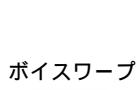


1 [ボイスワープ]キーを押す

[ボイスワープ]ランプが赤点灯し、ボイスワープの運用状態になります。

補足

フレキシブルキーに[ボイスワープ]キーを登録するには、P.38「フレキシブルキーに機能を割付ける」を参照してください。



1 [ボイスワープ]キーを押す

[ボイスワープ]ランプが消灯し、ボイスワープの運用が停止します。

ご注意

この機能を使用する場合、販売店にご相談ください。この機能を利用するにはNTTとの契約が必要です。

<ボイスワープの設定内容を変更する> (キーパッドファシリティ送出する)

INSボイスワープサービスで転送先変更などを行うとき、キーパッド情報(ISDN専用の信号)を送出することができます。

操作手順

キーパッド



- 1 通話中、キーパッド情報が必要なとき、[キーパッド]キーを押す



- 2 送るデータをダイヤルする

キーパッド



- 3 [キーパッド]キーを押す
キーパッド情報を送出します。

補足

フレキシブルキーに[キーパッド]キーを登録するには、P.38「フレキシブルキーに機能を割付ける」を参照してください。

13

プッシュホン信号を送る

(PBエンド・ツー・エンド通信)

ダイヤル回線でも外線と接続後にプッシュホン(PB)信号が送れます。これにより銀行の残高照会などのプッシュホンサービスが受けられます。通話が終わり受話器を戻すと、電話機は元のダイヤル回線に戻ります。

操作手順

PB信号



- 1 外線と通話中に[PB信号]キーを押す
PB信号ランプは赤く点灯します。



- 2 ダイヤルするとプッシュホン信号を送る

補足

フレキシブルキーに[PB信号]キーを登録するには、P.38「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。

内線や専用線にもPB信号を送ることができます。

相手が応答すると自動的にPB信号を送れるようにすることができます。また、オートダイヤル(ワンタッチダイヤル)の中にPB信号を含めて登録することができます。詳しくは、販売店にご相談ください。

14

ポーズ信号は自動的に挿入される

(オートポーズ)

ボタン電話装置に接続されている電話機では外線に発信する場合、システムで自動的にポーズ信号が挿入されます。このような場合、わざわざ外線とつながるまでの間にポーズを入れなくても電話がかけられます。

ただし、ISDN回線、VOIP専用線をお使いの場合は、オートポーズは挿入されません。

15

指定外線から直接内線に着信させる

(付加番号 DID)

指定外線にかけPB信号で内線番号をダイヤルすることにより、内線を直接呼び出すことができます。

操作手順

外出先から



1 外出先から会社に電話をかける

次のメッセージがアナウンスされます。

例：『こちらはダイヤルイン電話です。プッシュホンでおかけの方は続けて内線番号をダイヤルしてください。ダイヤルでおかけの方はしばらくお待ちください。』



2 内線番号をダイヤルする



この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

社内



1 ハンドセットをあげる

ハンドセットをあげるだけで応答できます。

16

着信の音色を選択する

(着信音選択)

電話機ごとに個別着信または一般着信の着信音の音色を選択できます。

操作手順



1 [メニュー/決定] キーを押す

2 キーで“8(その他設定)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す3 キーで“1(内線設定)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す4 キーで“1(鳴動音種)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す5 キーで“1(一般着信音種)”
または“2(個別着信音種)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す

6 キーで音種を選ぶ

着信音種は、音種選択画面が表示された時点で、現設定に“*”表示、カーソル表示、設定音種の鳴動を行う。

カーソルを移動するごとに、カーソル位置の音種を鳴動させます。



7 好みの着信音が鳴ったら [メニュー/決定] キーを押す



8 [スピーカー] キーを押す



外線別着信音を選択している場合、一般着信音の選択ができない時は、販売店にご相談ください。

17

外線別に鳴動電話機を指定する

(外線別鳴動先指定)

外線ごとに外線着信音が鳴る電話機を指定できます。外線着信音が鳴らない指定の電話機に着信があった場合でも、外線ランプは点滅しますので、着信を知ることができます。



外線別に鳴動電話機を指定する場合、販売店に相談ください。

18

外線別着信音を選択する

(外線別着信音選択)

外線ごとに着信音を変えることができます。

また、発信者番号により、着信音を変えることができます。



外線別着信音を選択する場合は、販売店にご相談ください。

個別の電話機の一般着信音選択が優先になっているときは、選択変更した電話機は適用になりません。

19

通話中の外線着信表示について

(通話中外線着信表示)

通話中に外線着信またはドアホン着信があると、通常の外線着信音とは異なる着信音「ピー・・・ピー」が鳴ります。同時にLCDディスプレイ上段に着信を表示します。

- ・外線着信
- ・ドアホン着信
- ・ナンバーディスプレイ表示
- ・発信番号表示

20

停電について

20.1 停電中に一定時間電話の機能を維持する

オプションのバッテリーを主装置内に接続すると、停電中でも一定時間は電話をかけたり、受けたりできます。通常の使用状態では約10分間、電話の機能を維持することができます。

フレキシブルキーに[停電]キーを登録しておくことにより、停電バッテリーに切り替わったときランプが赤点滅します。停電バッテリーからAC電源復旧によりランプは滅灯します。



停電時にバックアップされる機能は全機能です。機能または端末ごとの制限はできません。

20.2 停電用電話機について

停電用電話機を接続すれば、バッテリーが切れても外線と直通となっている停電用電話機で、通常通り電話をかけたり、受けたりできます。

停電用電話機としてアナログ用停電電話機とデジタル用停電電話機を用意しています。



停電の対策は、販売店にご相談ください。

21

長電話を知らせる

(長時間通話警告)

外線発信には長電話を防ぐため、一定時間が過ぎると長時間通話警報音を鳴らします。外線に発信してから2分30秒後に1回目の警告音を鳴らし、その後3分ごとに警告音を鳴らします。

(警報音の送出は、課金表示有の時だけ行なわれます。)



この機能をお使いになるときは、販売店にご相談ください。

22

秘書機能について

幹部と秘書電話機を登録することにより、秘書機能が使用できます。

秘書機能を使用する場合は、販売店にご相談ください

22.1 幹部電話機を設定する

工事設定をします。

22.2 幹部電話機が話中の場合には（話中転送）

幹部電話機が話中の場合に着信があると、自動的に秘書電話機に転送されます。

22.3 幹部電話機が離席設定の場合には（離席転送）

幹部電話機が[在席/離席]キーが押されている場合、すべての着信は秘書電話機に転送されます。

< [離席]にするには>

在籍 / 異常


1 幹部電話機で[在席/離席]キーを押す

[在席/離席]キーランプは消灯します。

秘書電話機の幹部[DSS]キーランプも消灯します。

補足

フレキシブルキーに[在席/離席]キーを登録するには、P.38「フレキシブルキーに機能を割付ける」を参照してください。

< [在席]にするには>

在籍 / 異常


1 幹部電話機で[在席/離席]キーを押す

[在席/離席]キーランプは緑で点灯します。

秘書電話機の幹部[DSS]キーランプも緑で点灯します。

22.4 幹部電話機が着信拒否をした場合には（着信拒否転送）

幹部電話機が着信鳴動中に[在席/離席]キーを押した場合は、幹部電話機の鳴動は停止し秘書電話機が着信鳴動になります。

22.5 幹部電話機の在席/離席を代行するには（代行操作）

秘書電話機で幹部電話機の在席/離席が設定できます。また、幹部電話機を呼出すことができます。

秘書電話機の[幹部DSS]キーで幹部電話機の在席、在席転送、離席を登録できます。幹部DSSキーランプは在席で緑点灯、在席転送で橙点灯、離席で消灯します。

22.6 幹部電話機が応答しない場合には（応答遅延転送）

幹部電話機が着信に対して一定時間応答しない場合は、秘書電話機に転送されます。

23

主装置で設定する機能

主装置で設定する機能の詳細は、販売店にご相談ください。

23.1 外線発信を規制するには（発信テナント）

電話機ごとに指定された外線と、つながらないように規制できます。

23.2 市外発信を規制するには（市外発信規制）

電話機ごとに市外発信を規制できます。ただし、システム短縮ダイヤルは規制しません。

23.3 指定市外のみ発信させるには（帯域市外発信規制）

指定の市外のみ発信でき、それ以外の市外発信はできません。ただし、システム短縮ダイヤルは規制しません。

23.4 海外発信を規制するには（国際発信規制）

電話機ごとに海外発信を規制できます。ただし、システム短縮ダイヤルは規制しません。

23.5 特定の海外（国）のみに発信させるには（特定国際発信規制）

特定の海外にはかけられる電話機を指定できます。ただし、システム短縮ダイヤルは規制しません。

23.6 内線番号を登録するには（ナンバーグループ）

お客様の運用に応じて1桁から4桁までの内線番号を混在して設定できます。

(23.7) 発信者番号別に着信を分けるには（発信者番号別着信）

NTTのナンバーディスプレイサービス契約回線より受信した発信者番号別に、着信先、着信方法、着信時の着信音（音色）を指定できます。

(23.8) 課金データを遠隔地から収集するには（課金データ遠隔収集）

公衆回線を利用して、遠隔地のパソコンからRPIに蓄積されている課金データを収集することができます。

(23.9) 一般着信時の着信先が塞がっているときに着信を規制するには（使用中着信規制）

一般着信時、着信先が使用中のときに、着信を規制するかどうかを指定できます。

(23.10) ISDN回線で回線ごとに着信拒否するには（回線ごと着信拒否指定）

ISDN回線の場合、回線ごとに着信を拒否するかどうかを指定することができます。



着信拒否を指定できる回線は、
発信専用回線になります。

第7章

音声メールの使い方

第7章

1.	音声メールの基本的な使い方	126
1	音声メール取扱上の注意	126
2	音声メールの検索キー・機能キーの割付け、録音・再生機能の自動割付け	127
3	パスワードを設定する	128
4	通話録音機能を利用する	131
5	メールサービスを利用する	137
2.	音声メールの応用的な使い方	145
1	メッセージ通知で外出先の電話を呼び出す	145
2	不在代行 / 着信代行サービス	149
3	メールサービスの便利な使い方	158

音声メール装置は標準装備です。増設してお使いの場合は、次の点にご注意願います。

- 標準装備の音声メール装置とは併設利用となります。テナントを分け（例えば、自宅と店舗または営業部門と管理部門）でお使いください。
- 1つの電話機に両方の音声メール装置の機能（通話録音、伝言録音など）を割り付けることはできません。
- 1つの電話機に両方の音声メール装置の【メールボックス】キーを割り付ければ、両方のメールサービスを受けられます。

録音されているメッセージについて

本製品で万一故障が発生した場合、録音されているメッセージが再生できないことがありますのでご了承ください。

無断で通話録音しないこと

通話録音は、必ず相手の了解を得てから録音をはじめてください。個人の

プライバシーの侵害
にあたる場合があります。

特に着信自動録音に設定されている電話機では相手の了解を得られない場合は、通話中に《通話録音》キーを押して通話録音を取り消してください。



外出先からはプッシュボンでかける

外出先から音声メールにアクセスする場合はプッシュボン電話機または、回転ダイヤル式電話機でトーン信号（PB）に切り替えられる電話機をお使いください。



メールボックスの指定は忘れずに

通話録音中に録音先のメールボックスの指定を忘ると、メッセージは自分のメールボックスに録音されます。このときは、「他の人にメッセージを転送する」（P.158）の項を参照し、メッセージを転送します。



専用コードレスホン、単独電話機についての注意

専用コードレスホンまたは単独電話機（表示器付）には、表示器に音声メールに関する表示はできません。

専用コードレスホンまたは単独電話機では、メールボックスの状態表示はできません。ボタン電話機に専用コードレスホンまたは、単独電話機用の《メールボックス》キーを作ると便利です。

音声メールは、同時に2人以上では使用できません。

音声メールは、1人が使用中の場合、その他の人の使用はできません。
効率よい使い方を心がめましょう。



録音時間はシステムで管理

1メッセージあたり、標準で15分間録音できます。15分以上のメッセージは録音されません。

システムで1分単位に録音時間を変えることができます。（最大15分）



メールボックスはスリムに

メールボックス1個には、最大128（全部のメールボックスあわせて128）のメッセージが録音できます。録音時間は、全てのメッセージあわせて約1時間です。不要なメッセージは、消去するよう常に心がけましょう。

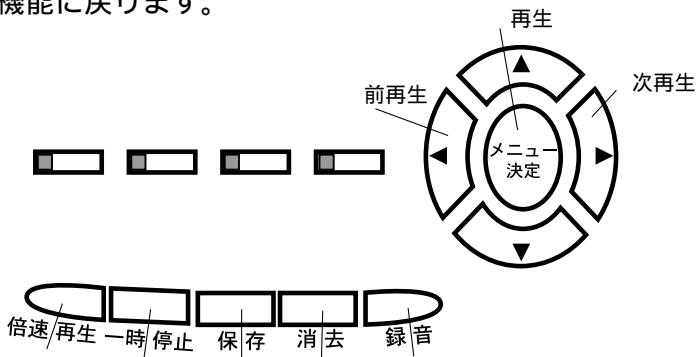


2

音声メール検索キー・機能キーの割付け、録音・再生機能の自動割付け

2.1 音声メール検索キー・機能キーへの録音・再生機能の自動割付け

録音されたメッセージの再生中（メールボックスにアクセスしている場合）は、検索キーと機能キーは自動的に次の機能に変更されます。メールサービスを終了すると自動的にもとの機能に戻ります。



再生

メッセージを再生します。

前再生

再生中のメッセージを中止し、1つ前のメッセージを再生します。

次再生

再生中のメッセージを中止し、次のメッセージを再生します。

倍速再生

標準スピードで再生中のメッセージを2倍のスピードで再生します。もう一度同じ操作で標準スピードに戻ります。

一時停止

メッセージ再生を一時停止します。一時停止中の場合は、もう一度同じ操作で再生を再開します。再生再開時は、標準スピードになります。

保存

再生中のメッセージを保存します。再生終了後でも同じ働きをします。

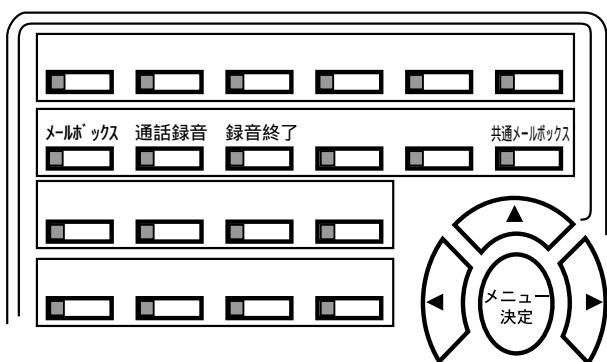
消去

再生中のメッセージをメールサービス終了時に消去します。再生終了後でも同じ働きをします。

録音

応答メッセージの録音をはじめます。

2.2 初期立上げ時のフレキシブルキーへの機能割付け



補足

初期立上げ時のフレキシブルキーの機能割付けを変更する場合に、「1.2 フレキシブルキーに機能を登録する」(P.38) 必要があります。

フレキシブルキーの機能割付けを確認するには、[保留] + 0 のあとに調べるキーを押すことにより、ディスプレイに機能を表示させることができます。

3

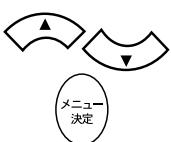
パスワードを設定する

メールボックスごとにパスワードを持つことができます。パスワードにより他人が無断で、あなたのメールボックスのメッセージを聞くことを防げます。パスワードの新規登録 / 変更 / 消去する場合の操作手順を説明します。

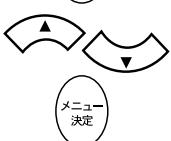
3.1 パスワードの新規登録

操作手順

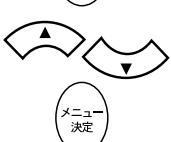
1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“8(その他設定)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



3 キーで“1(内線設定)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



4 キーで“3(MBXパスワード)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す

システム管理電話機の場合

MBXパスワード
MBX:10--

一般電話機の場合

MBXパスワード
新パスワード:-----
確認 :-----

補足

この手順は、システム管理電話機からの操作手順です。他の内線の設定もできます。操作手順4でシステム管理電話機の場合、操作している電話機のメールボックス番号(内線番号)が表示されます。

メールボックス番号を入力する場合は、[戻る/削除]キーで表示されているメールボックス番号をクリアしたのち、新しいメールボックス番号をダイヤルします。

一般的の電話機からの操作の場合は、操作手順4の次に6に行きます。



5 パスワードを登録するメールボックス番号をダイヤルし、[メニュー/決定] キーを押す

MBXパスワード
新パスワード:-----
確認 :-----



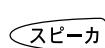
6 新しいパスワードを数字4桁ダイヤルする



7 手順6で入力したパスワードを再度ダイヤルする

設定できた場合は「ピー」と鳴ります。

手順6で入力したパスワードと異なると、エラー音が鳴ります。もう一度手順6からやり直してください。

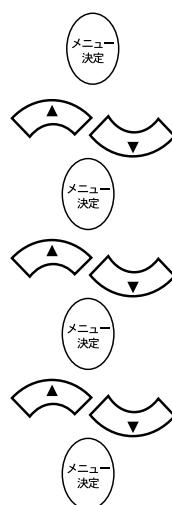


8 [スピーカ] キーを押す

3.2 パスワードの変更

一度登録したパスワードを変更します。パスワードは、セキュリティーのため状況に応じて変更されることをお勧めします。

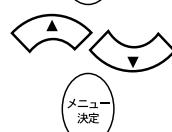
操作手順



1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“8(その他設定)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す



3 キーで“1(内線設定)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す



4 キーで“3(MBXパワード)”を選び、[メニュー/決定]キーを押す

システム管理電話機の場合 一般電話機の場合

MBXパワード
MBX:10

MBXパワード	: -----
旧パワード	: -----
新パワード	: -----
確認	: -----

一般的な電話機からの操作の場合は、操作手順4の次に6に行きます。



5 パスワードを変更するメールボックス番号をダイヤルし、[メニュー/決定]キーを押す

MBXパワード	: -----
旧パワード	: -----
新パワード	: -----
確認	: -----

補足

この手順は、システム管理電話機からの操作手順です。他の内線の設定もできます。操作手順4でシステム管理電話機の場合、操作している電話機のメールボックス番号(内線番号)が表示されます。

メールボックス番号を入力する場合は、[戻る/削除]キーで表示されているメールボックス番号をクリアしたのち、新しいメールボックス番号をダイヤルします。



6 旧パスワード / 新パスワード / 確認(新パスワード)の順でダイヤルする

設定できた場合は「ピー」と鳴ります。

手順5で確認したパスワードと旧パスワードが異なると、エラー音が鳴り元に戻ります。もう一度手順6からダイヤルし直してください。



7 [スピーカ] キーを押す

3.3 パスワードの消去

登録したパスワードを消去します。

操作手順



1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“8(その他設定)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す



3 キーで“1(内線設定)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す



4 キーで“3(MBXパスワード)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す

システム管理電話機の場合

MBXパスワード
MBX:10--

一般電話機の場合

MBXパスワード
旧パスワード : -----
新パスワード : -----
確認 : -----

一般的な電話機からの操作の場合は、操作手順4の次に6に行きます。



5 パスワードを削除するメールボックス番号を入力し、[メニュー/決定] キーを押す

MBXパスワード
旧パスワード : -----
新パスワード : -----
確認 : -----

補足

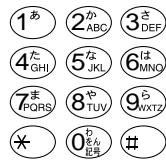
この手順は、システム管理電話機からの操作手順です。他の内線の設定もできます。操作手順4でシステム管理電話機の場合、操作している電話機のメールボックス番号(内線番号)が表示されます。

メールボックス番号を入力する場合は、[戻る/削除]キーで表示されているメールボックス番号をクリアしたのち、新しいメールボックス番号をダイヤルします。

ご注意

パスワードを一度登録しますと、メールボックスへ録音されたメッセージを再生するためにはパスワードが必要になります。

パスワードはメールボックスの機密性保持のため、参照することはできません。パスワードがわからなくなってしまった場合、登録モードではパスワードの解除はできません。わからなくなつた場合は、販売店にご相談ください。



メニュー
決定

6 現在のパスワードをダイヤルし [メニュー/決定]キーを押す

パスワードと異なると、エラー音鳴ります。もう一度ダイヤルし直してください。

MBXパスワード
旧パスワード : ****
新パスワード : ----
確認 : ----

メニュー
決定

メニュー
決定

7 [メニュー/決定]キーを2回押す

消去できた場合は「ピー」と鳴ります。

スピーカ

8 [スピーカ]キーを押す

4

通話録音機能を利用する

音声メールに、かかってきた電話（外線）との通話内容（相手と自分の声）を録音することができます。

4.1 受けた電話を自動的に録音する（着信自動録音）

着信自動録音機能が設定されている電話機では、自動的に通話内容を録音することができます。

第7章

<着信自動録音の設定>

操作手順

保留

1 [保留]キーを押す

通話録音
■

2 《通話録音》キーを押す

確認音「ピー」が鳴り、《通話録音》キーのランプが橙点灯します。

スピーカ

3 [スピーカ]キーを押す

補足

[通話録音]キーは初期で《フレキシブル》キーに登録されています。P.127「2.2 初期立ち上げ時のフレキシブルキーへの機能割付け」を参照してください。

フレキシブルキーに新たに[通話録音]キーを登録するにはP.38を参照してください。

次の場合、《通話録音》キーのランプが赤点滅し、通話録音できません。

音声メールが使用中
音声メールの総録音時間の不足
音声メールの録音件数満杯

<着信自動録音の解除>

「着信自動録音」の設定後に、同じ操作をすると解除され、ランプは消灯します。

<着信自動録音の録音先指定>

通話内容を録音していることを相手に伝え、録音の了解が得られない場合、通話中に《通話録音》キーを押して録音の取消操作をしてください。また、相手に録音の取消操作を行ったことを伝えてください。録音先を指定しないと、通話をしている内線のメールボックスに録音されます。

操作手順



1 着信に対して受話器をあげる

受話器をあげると同時に受話器から録音開始
“ピー音”が聞こえ録音をはじめます。

《通話録音》キーランプは橙点灯から緑点灯に変わります。

メールボックス



2 録音先を《メールボックス》キーまたはメールボックス番号で指定する

メールボックス番号でも指定できます。

通話録音 MBXnnnn
00 01

録音先メールボックス番号は画面上段に表示します。nnnnは、メールボックスの番号です。



3 通話が終了したら受話器を戻す

通話録音は、《録音終了》キーを押しても終了できます。

通話中の会話は指定したメールボックスに録音されています。

指定した《メールボックス》キーのランプが緑点滅します。

通話相手の切断、キャッチホンへの応答、または受話器を戻すことにより、通話録音を終了します。

<着信自動録音の取消>

相手方に通話内容録音の了解が得られない場合は、自動録音の取消操作を行います。

録音終了



自動録音の取消は、着信自動録音の録音先指定の操作手順3で《通話録音》キーを押します。



標準録音時間の15分(録音時間を変更した場合は、その時間)までは指定のメールボックスに録音されますが、それ以上は録音を終了します。

外出中の人にメッセージが入ったことを知らせることができます。「メッセージ通知で外出先の電話を呼び出す(メッセージ通知)(P.145)を参照してください。

補足

[通話録音]キー、[メールボックス]キー、[録音終了]キーは初期で《フレキシブル》キーに登録されています。P.127「2.2 初期立ち上げ時のフレキシブルキーへの機能割付け」を参照してください。

フレキシブルキーに新たに[メールボックス]キーおよび[録音終了]キーを登録するにはP.45またはP.38を参照してください。

内線メールボックスのメールボックス番号は1~4桁。共通メールボックス番号は97:初実装のとき

98:増設のとき
メールボックス番号入力中に“*”をダイヤルすると、指定途中のメールボックス番号はクリアされます。

音声メールの録音時間が無くなったらとき、通話録音を終了します。

4.2 通話中に録音を開始する（通話録音）

フレキシブルキーにあらかじめ割付けてある《通話録音》キーで、通話中の会話を録音することができます。録音先は（内線メールボックス）または（共通メールボックス）を指定できます。通話録音を開始する前に、通話内容を録音することの了解を相手方から必ず得てください。

操作手順



1 通話中に《通話録音》キーを押す

《通話録音》キーを押すと受話器から録音開始の“ピー音”が鳴り録音をはじめます。
《通話録音》ランプは緑点灯します。

メールボックス



または



2 《メールボックス》キーまたはメールボックス番号を押す

《メールボックス》キーまたはメールボックス番号を押さなかった場合は、自分の内線メールボックスへ録音されます。



または



3 通話が終了したら受話器を戻す

通話録音は、《録音終了》キーを押しても終了できます。

通話相手の切断、キャッチホンへの応答、または受話器を戻すことにより、通話録音を終了します。

補足

[通話録音]キー、[メールボックス]キー、[録音終了]キーは初期で《フレキシブル》キーに登録されています。P.127「2.2 初期立上げ時のフレキシブルキーへの機能割付け」を参照してください。

フレキシブルキーに新たに[通話録音]、[メールボックス]キーおよび[録音終了]キーを登録するにはP.45またはP.38を参照してください。

内線メールボックスのメールボックス番号は1～4桁。共通メールボックス番号は97：初実装のとき

98：増設のとき

メールボックス番号入力中に“*”をダイヤルすると、指定途中のメールボックス番号はクリアされます。

音声メールの録音時間が無くなったとき、通話録音を終了します。

参考 《フレキシブル》キーに割付けるメールサービス関連の機能

No.	機能	ディスプレイ表示	No.	機能	ディスプレイ表示
07	夜間切替	夜間切替	27	通話録音	通話録音
10	自己保留	自己保留	29	録音終了	録音終了
12	PB信号	PB信号	50	ガイダンス切替	ガイダンス切替
15	不在転送	不在転送	65	メールボックス	MBX

4.3 通話録音中に保留する

通常の電話機と同じ操作で保留ができます。保留中は録音を一時停止し、保留を解除すると録音を再開します。

他の電話機で保留を解除した場合は、保留までの通話録音は保留操作をする前に指定したメールボックスに録音されます。解除後の録音は解除した電話機で《通話録音》キーを押し、メールボックスを指定します。

<自己の電話機で保留／解除する>

操作手順



- 1 通話中の相手に保留することを伝え、[保留] または《自己保留》キーを押す

または

自己保留



録音を一時停止し、保留状態になります。
保留中は《通話録音》ランプは、着信自動録音のモード表示(消灯または橙点灯)になります。
保留の相手には、保留音(メロディ)を送ります。



- 2 保留の解除は、保留した [外線] キーを押す

保留を解除し通話ができる状態に戻ると同時に通話録音が再開されます。

録音の取消は、前項の 3 の操作で《通話録音》キーを押します。

補足

フレキシブルキーに新たに [自己保留] キーを登録するにはP.38を参照してください。



<他の電話機で保留を解除する ([保留] キーでの保留時)>

操作手順



- 1 解除する電話機の受話器をあげる
受話器は「ツーツー」の発信音が聞こえます。



- 2 外線ランプが点滅している [外線] キーを押す

通話ができる状態になります。
通話録音は終了します。



- 3 通話終了後に、受話器をおく

4.4 通話録音中に転送する

通常の電話機と同じ操作で口頭転送、内線ダイヤル転送で転送ができます。転送までのメッセージは転送操作をする前に指定したメールボックスに録音されます。転送を受けた電話機で録音する場合は、《通話録音》キーを押しメールボックスを指定します。

< 転送先に呼びかけて転送する（口頭転送）>

外線を保留してから転送先に呼びかけます。

転送元

操作手順

保留

または

自己保留



- 1 通話中の相手に転送することを伝え、[保留] または《自己保留》キーを押す
転送するまで録音された会話は、転送操作をする前に指定されたメールボックスに録音されます。
《通話録音》ランプは、着信自動録音のモード表示（消灯または橙点灯）になります。
保留の相手には、保留音(メロディ)を送ります。



- 2 受話器をおき、転送先の人に口頭で呼びかける

補足

フレキシブルキーに新たに [自己保留] キーを登録するにはP.38を参照してください。

転送先



外線

- 1 呼びかけられた人が受話器をあげる



- 2 点滅している [外線] キーを押し転送に応答する

転送元の通話録音は終了します。

応答した人が通話録音をする場合は、その人の電話機の《通話録音》キーを押すと、転送後の通話が録音できます。

- 3 通話が終了したら、受話器を戻す
受話器を戻すと、通話録音も終了します。

参考

転送先が一定時間内に応答しない場合は、保留した電話機に保留警告音（約60秒）が鳴ります。この場合、点滅している [外線] キーを押すと、保留は解除され相手との通話に戻り、通話録音も再開されます。受話器をあげると自動的に外線につながる設定をしている場合、受話器をあげないで [外線] キーを押し、その後、受話器をあげてください。

<内線にダイヤルして転送する>

内線番号をダイヤルして転送します。

操作手順

内 線



- 1 通話中の相手に転送することを伝え、
[内線] キーを押す



- 2 転送先の内線番号をダイヤルする

転送するまで録音された会話は、転送操作をする前に指定されたメールボックスに録音されます。



- 3 転送先が出たら受話器を戻すと、転送される

応答した人が通話録音をする場合は、その人の電話機の《通話録音》キーを押すと、転送後の通話が録音できます。

5

メールサービスを利用する

5.1 自分あてのメッセージを聞き出す（メッセージ再生）

自分あてのメールボックスに録音されているメッセージを聞き出し(再生)、そのメッセージを保存、または消去することができます。

また、再生中のメッセージを他の人のメールボックスに転送することができます。詳しくは、「他の人にメッセージを転送する」(P. 158)を参照してください。

<自分あてのメッセージを聞く>

操作手順



メールボックス
[]

1 受話器をあげる

2 自分の《メールボックス》キーを押す

メールボックス指定特番(74) + メールボックス番号でも指定できます。

パスワードを設定していない場合は、次のメッセージはアナウンスされません

『暗証番号を入力してください。』



3 パスワードをダイヤルする

受話器から次のメッセージがアナウンスされます。

未聴取メッセージがある場合『新しいメッセージがXX件あります。メッセージを再生します。』未聴取メッセージが自動再生されます。停止したい場合はを#押してください。

聴取済メッセージがある場合『保存されたメッセージがXX件あります。サービス番号をどうぞ。』

メッセージがない場合『メッセージはありません。サービス番号をどうぞ。』

応答

4 [応答]キーを押す

応答キーでディスプレイに表示されるメッセージの録音日時、未聴取メッセージなどメッセージの状態表示で再生するメッセージの検索ができます。

内線10 ||
2/12 10:23 保存

補足

[メールボックス]キーは初期で《フレキシブル》キーに登録されています。P.127「2.2 初期立ち上げ時のフレキシブルキーへの機能割付け」を参照してください。

フレキシブルキーに新たに[メールボックス]キーを登録するにはP.45を参照してください。

内線メールボックスのメールボックス番号は1~4桁。共通メールボックス番号は97:初実装のとき

98:増設のとき

メールボックス番号入力中に“*”をダイヤルすると、指定途中のメールボックス番号はクリアされます。

第7章

ご注意

パスワードを設定していない場合は、次の操作4を行ってください。

補足

メールボックス内に複数のメッセージが録音されている場合、[応答]キーを押すことにより、メッセージが順にスクロール表示します。

5
な
JKL

5 サービス番号“5”(録音再生)をダイヤルする

再生中の画面です。

再生中にメッセージの消去または、保存の指定ができます。詳しくは、「5.2 メッセージの消去と保存」(P.136)を参照してください。

内線10	<>
2/12 10:23	保存

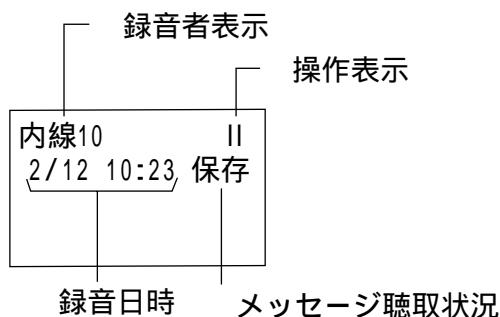


6 サービス番号“9”(終了)をダイヤルし、受話器を戻す



再生中に、倍速再生など便利な機能が利用できます。詳しくは、「メールアクセス中にできる操作と内容」(P.140)を参照してください。

<メッセージの状態表示>



録音者表示

メッセージの録音者が内線時：内線番号を表示します。

メッセージの録音者が外線時：「外線」と表示します。

操作表示

：メッセージを再生していない状態です。

< > : メッセージ再生中の状態です。

録音日時

録音開始の日時を表示します。

メッセージ聴取状況

新規 : 未聴取メッセージです。

保存 : 保存指定をしたメッセージです。

消去 : 消去指定をしたメッセージです。

補足

メールボックスにアクセスしたとき、メールボックスの状態により次のようなアナウンスがあります。

メールボックス状態		アナウンス内容
未聴取メッセージ	保存メッセージ	
無し	無し	『メッセージはありません。』 『サービス番号をどうぞ。』
無し	有り	『保存されたメッセージが、xx件あります。』 『サービス番号をどうぞ。』
有り	無し	『新しいメッセージが、xx件あります。』 『メッセージを再生します。』
有り	有り	

メールボックスにアクセスしたとき、未聴取メッセージがあると自動的に全ての未聴取メッセージを新しい順に連続再生します。

メールボックス内に複数のメッセージが録音されている場合、[応答]キーを押すことにより、メッセージが順にスクロール表示されます。

<メールアクセス中にできる操作と内容>

(1) メッセージ再生前と再生後にダイヤルキーでできる機能です。

操作	対応キー	サービス内容
メッセージ検索	応答	次のメッセージの状態表示をします。 次のメッセージがあれば、応答キーを押すごとにそのメッセージの状態表示をします。
前メッセージ再生	左矢印 または ①あ ⑤な JKL	件数表示中の場合は、先頭のメッセージを再生します。
次メッセージ再生	右矢印 または ⑤な JKL	件数表示中の場合は、先頭のメッセージを再生します。応答キーによるメッセージ検索をした場合は、次のメッセージを再生します。
頭から再生	メニュー 決定 または ①あ ②か ABC	件数表示中の場合は、先頭のメッセージを再生します。応答キーによるメッセージ検索をした場合は、そのメッセージを再生します。
メッセージ消去	内線 または ③さ DEF	応答キーによるメッセージ検索をした場合、そのメッセージを消去指定にします。
メッセージ保存	短縮 または ⑦ま PQRS	応答キーによるメッセージ検索をした場合、そのメッセージを保存指定にします。
メッセージ転送	①あ ③さ DEF	応答キーによるメッセージ検索をした場合、そのメッセージを転送します。
応答メッセージ変更	①あ ④た GHI + ②か ABC ③さ DEF ⑤な JKL ⑥は MNO # ⑨さ WXYZ 消去 再生 録音 登録終了 アクセス終了	外線着信代行時および不在代行時の応答メッセージをメールボックス毎に録音・消去・再生することができます。 “1”“4”の次の数字は次の内容です。 0：不在代行用 1：外線着信代行用（パターン1） 2：外線着信代行用（パターン2） 応答メッセージの録音により、アクセス中のメールボックスの応答メッセージを変更することができます。

(2) メッセージ再生中にダイヤルキーでできる機能です。

操作	対応キー	サービス内容
前メッセージ再生	◀ または ①あ ⑤な JKL	再生中のメッセージの1つ前のメッセージを再生します。再生中のメッセージが最新のメッセージの場合は、最新のメッセージを最初から再生します。
次メッセージ再生	▶ または ⑤な JKL	再生中のメッセージの次のメッセージを再生します。再生中のメッセージが最後のメッセージの場合は、最後のメッセージを最初から再生します。
頭から再生	メニュー REC または ①あ ②か ABC	再生中のメッセージを最初から再生し直します。
メッセージ転送	①あ ③さ DEF	再生中のメッセージを他のメールボックスに転送します。
メッセージ消去	内線 □ または ③さ DEF	再生中のメッセージを消去指定にします。
メッセージ保存	短縮 □ または ⑦ま PQRS	再生中のメッセージを保存指定にします。
倍速再生	代理応答 □ または ①あ * *	再生中のメッセージを倍速で再生します。倍速再生中の場合は、普通の再生速度に戻します。
一時停止	リダイヤル □ または *	再生中のメッセージを一時停止します。一時停止していた場合は、再生を始めます。
再生終了	#	メッセージの再生を終了します。
ボリュウムアップ	①あ ⑦ま PQRS	再生中の音量を大きくします。
ボリュウムダウン	①あ ⑧や TUV	再生中の音量を小さくします。
アクセス終了	⑨は WXYZ	アクセスを終了します。

5.2 メッセージの消去と保存

メッセージ再生後にそのメッセージを消去指定、または保存指定することができます。

<再生後メッセージを消去する>

メッセージ検索中も同じ操作でメッセージを消去指定できます。

操作手順

3[※]
DEF

1 メッセージ再生後にサービス番号“3”(消去)をダイヤルする

ディスプレイ右下に【消去】と表示されます。

外線10	
2/12 10:17	消去

次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『メッセージを消去します。サービス番号をどうぞ。』

9[※]
WXTZ



2 サービス番号“9”(終了)をダイヤルし、受話器を戻す

『終了します。』

サービス終了

Tel.10 2/12 Tue 11:00

補足

メッセージを聞き出す方法(再生)は、(P. 137)を参照してください。

メッセージの消去は、再生中に“3”をダイヤルしてもできます。

未聴取メッセージを最後まで聴取したとき、消去指定/保存指定の操作をしないと、自動的に保存または消去指定になります。自動的に消去または保存指定にするか変更したい場合は、販売店にご相談ください。

<再生後メッセージを保存する>

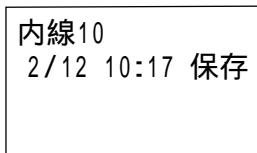
メッセージ検索中も同じ操作でメッセージを保存指定できます。

操作手順



1 メッセージ再生後にサービス番号“7”(保存)をダイヤルする

ディスプレイ右下に[保存]と表示されます。

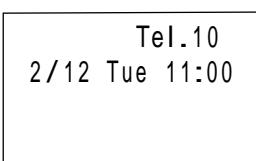
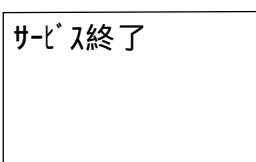


次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『メッセージを保存します。サービス番号をどうぞ。』



2 サービス番号“9”(終了)をダイヤルし、受話器を戻す

『終了します。』



補足

メッセージを聞き出す方法(再生)は、(P. 137)を参照してください。

メッセージの保存は、再生中に“7”をダイヤルしてもできます。

未聴取メッセージを最後まで聴取したとき、消去指定/保存指定の操作をしないと、自動的に保存または消去指定になります。自動的に消去または保存指定にするか変更したい場合は、販売店にご相談ください。

<5.3 メールボックスにメッセージを録音する(伝言録音)>

メールボックスを指定して、そのメールボックスに伝言メッセージを録音することができます。

<伝言メッセージの録音>

操作手順



1 受話器をあげる

通話録音



2 《通話録音》キーを押す

次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『メッセージを録音します。転送先メールボックス番号を入力してください。』

補足

次の場合、《通話録音》キー ランプが赤点滅し、伝言録音できません。(音声メールが総時間不足、件数満杯以外の場合、[通話録音]キーは赤点滅になりません。)

音声メールが使用中

音声メールの総録音時間の不足

音声メールの録音件数満杯



3 メールボックス番号をダイヤルする

次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『メッセージをどうぞ。ピー。』

録音をはじめる合図、ピー音が聞こえたら受話器からメッセージを録音します。《通話録音》ランプは緑点灯します。

メールボックス番号を間違えた場合は、『転送先メールボックス番号を入力してください。』のアナウンスがありますので、正しいメールボックス番号を再入力してください。

メールボックス番号を入力しないと、約30秒で伝言録音サービスを終了します。

補足

内線メールボックスのメールボックス番号は1~4桁。共通メールボックス番号は97:初実装のとき

98:増設のとき

メールボックス番号入力中に“#”をダイヤルすると、指定途中のメールボックス番号はクリアされます。

音声メールの録音時間が無くなった場合、伝言録音は終了します。

録音終了時



4 録音を終了する場合は、“#”をダイヤルする

次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『ピー。メッセージを転送しました。』

受話器を戻しても録音は終了できます。

録音取消時



録音を取消す場合は、“*”をダイヤルする

次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『メッセージを消去しました。』

<メッセージ録音中にできる操作>

(1) 録音先メールボックス指定中にダイヤルキーでできる機能です。

操作	対応キー	サービス内容
録音先の取消	(*)	メールボックスが指定されていないときは、入力途中のダイヤルを取消します。

(2) メッセージ録音中にダイヤルキーでできる機能です。

操作	対応キー	サービス内容
終了	(#)	メッセージ録音を終了します。
取消	(*)	録音中のメッセージを消去して終わります。

1

メッセージ通知で外出先の電話を呼び出す

メールボックスへメッセージが録音されたとき、あらかじめ指定した外線へ発信して通知することができます。メッセージ通知を受けた人は、通知を受けた時にメッセージを開くか、あらためて電話をかけ、メッセージを聞くことができます。

1.1 メッセージを外線に通知する

メッセージを外線に通知するには、メールボックス番号、電話番号、メッセージ通知の通知時間帯と通知間隔を登録しておきます。

<メッセージ通知先の登録>

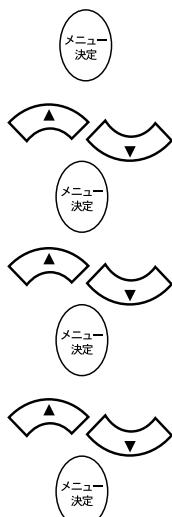


この登録操作で同時に開始または終了の設定も行います。

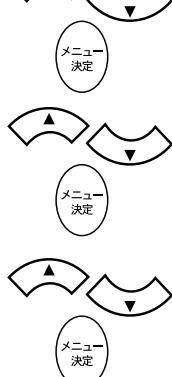
電話機からメッセージ通知先電話番号を登録します。

受話器はそのまま（オフック状態）で登録操作ができます。

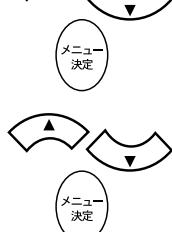
操作手順



1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“7(転送設定)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



3 キーで“5(MSG録音通知)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す
システム管理電話機以外は、操作手順6にいきます。

4 キーで“1(MBX番号)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す

5 MBX番号をダイヤルし [メニュー/決定] キーを押す

6 キーで“2(通知時間帯)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

補足

通話時間帯は00:00～23:00の間で指定します。24時間を指定する場合は00:00～00:00とします。

00:00をまたいた設定（例えば07:00～05:00）はできません。

この手順は、システム管理電話機からの操作手順です。他の内線の設定もできます。

メールボックス番号を入力する場合は、[戻る/削除]キーで表示されているメールボックス番号をクリアしたのち、新しいメールボックス番号をダイヤルします。



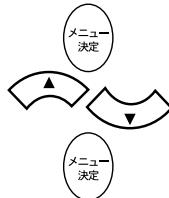
メッセージ通知をすることができる通知先は、「外出先電話」「携帯電話」「PHS」「ポケットベル」

などです。

ポーズ信号は、時間の変更ができます。変更したい場合は、販売店にご相談ください。



7 時間をダイヤルし [メニュー/決定] キーを押す



8 キーで“3(通知間隔)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す



9 通知間隔(分)をダイヤルし [メニュー/決定] キーを押す

通知間隔の設定できる範囲は 10 分～60 分です。



10 キーで“4(通知先番号)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す



11 相手番号をダイヤルし [メニュー/決定] キーを押す

最大 32 衔までの電話番号が入力できます。



12 番号種別を選び、[メニュー/決定] キーを押す

1. 外線
2. 特番展開（内線、特番発信）
3. PBX



13 キーで“5(開始/終了)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す



14 キーで“1(開始)”または“2(終了)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す

登録が完了すると「ピー」音が鳴ります。



15 [スピーカ] キーを押す

補足

通知間隔は初期値が15分です。設定は1分単位でできます。

<メッセージ通知の開始の設定>



電話機からメッセージ通知機能を設定します。
受話器はそのまま（オノフック状態）で登録操作ができます。

操作手順



1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“7(転送設定)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



3 キーで“5(MSG録音通知)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



4 キーで“5(開始/終了)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



5 キーで“1(開始)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す
登録が完了すると「ピー」音が鳴ります。



6 [スピーカ] キーを押す



メッセージ通知を行う転送動作は、回線および音声メールが共に空きでない場合は、1分後に再度転送動作を行います。
転送先が話中またはOFF状態の場合、15分後（初期値）に再度転送動作を行います。
通知先の外線が応答することにより、通知完了となります。
通知先の外線は、応答後メールボックスのパスワードを入力することによりメッセージを聞くことができます。（パスワードの登録がない場合は、パスワードの入力はありません。）

<メッセージ通知の解除>



電話機からメッセージ通知機能を解除します。
受話器はそのまま（オノフック状態）で登録操作ができます。

操作手順



1 ~ 4 <メッセージ通知の開始の設定>
と同じです



5 キーで“2(終了)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す

6 [スピーカ] キーを押す

1.2 メッセージ通知で外出先からメッセージを聞き出す

メッセージ通知で呼び出された外出先の電話からそのまま、メッセージを聞くことができます。

<メッセージ通知先の電話からメッセージを聞く>

操作手順

1 着信に応答する



パスワードを設定している場合は、次のメッセージがアナウンスされます。

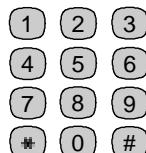
『メールボックス番号XXの新しいメッセージを転送します。』

『暗証番号を入力してください。』

パスワードを設定していない場合は、次のメッセージがアナウンスされ、メッセージを自動再生します。

『メールボックス番号XXの新しいメッセージを転送します。』

『新しいメッセージがXX件あります。メッセージを再生します。』



2 パスワードをダイヤルする

次のメッセージがアナウンスされ、メッセージを自動再生します。

『新しいメッセージがXX件あります。メッセージを再生します。』

未聴取メッセージがなくなったとき、次のメッセージがアナウンスされます。

『タイムスタンプメッセージ』『保存、消去の選択メッセージ』『選択後のメッセージ』

『サービス番号をどうぞ。』

パスワードの入力に誤りがあると、次のメッセージがアナウンスされます。

『もう一度、暗証番号を入力してください。』

パスワードを3回間違えた場合、次のメッセージがアナウンスされます。

『終了します。』

『サービス番号をどうぞ。』

3 終了は、“9”をダイヤルする

次のメッセージがアナウンスされます。

『終了します。』『サービス番号をどうぞ。』



4 受話器を戻す

携帯電話の場合は、[切]キーを押します。

補足

フレキシブルキーに新たに[メールボックス]キーを登録するにはP.45を参照してください。

パスワード未入力の状態が30秒経過すると、『終了します。』のメッセージがアナウンスされたあと切断予告音(ピーピー)を送出して切断します。



メッセージを聞き出す電話機は、PB信号を送出する電話機でなければ聞き出すことはできません。

2

不在代行 / 着信代行サービス

外出・離席など不在のときに内線からかかってきた電話、また、夜間および休日など外線からかかってきた電話に不在を知らせ、メッセージを録音する機能です。

2.1 応答メッセージを録音する

夜間・休日の外線着信に音声メール装置が応対する応答メッセージを録音します。応答メッセージが録音されていない場合は、音声メール装置の固定メッセージで応対します。

<応答メッセージの録音>

操作手順



1 受話器をあげる

2 応答メッセージ用に使用する
《メールボックス》キーを押す

メールボックス番号指定特番「74」+メールボックス番号でも指定できます。

受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『暗証番号を入力してください。』



3 パスワードをダイヤルで入力する

受話器から次のメッセージがアナウンスされます。

未聴取メッセージがある場合、『新しいメッセージがXX件あります。メッセージを再生します。』未聴取メッセージが自動再生されます。停止したい場合は#を押してください。

聴取済メッセージがある場合、『保存されたメッセージがXX件あります。サービス番号をどうぞ。』

メッセージがない場合、『メッセージはありません。サービス番号をどうぞ。』

補足

フレキシブルキーに新たに[メールボックス]キーを登録するにはP.45を参照してください。

操作手順2の《メールボックス》キーは、不在代行のときは、各内線に対応する《メールボックス》キーです。着信代行のときは、共通メールボックス用の《メールボックス》キーです。

操作手順2の説明書きのメールボックス番号は、不在代行のときは、内線番号を、着信代行のときは、共通メールボックス番号(97または98)となります。

第7章

ご注意

パスワードを設定していない場合は、次の操作4を行ってください。

①あ

④た_{GHI}

4 サービス番号「1」「4」(応答メッセージ)をダイヤルする



5 機能種別をダイヤルする

- ⑦ま_{PQRS}: 不在代行
- ⑧や_{TUV}: 着信代行 パターン1
- ⑨ら_{WXYZ}: 着信代行 パターン2

受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『応答メッセージを変更します。録音は“6”を、再生は“5”を、消去は“3”を押してください。終了するときは、シャープ(#))を押してください。』

⑥は_{MNO}

または



6 サービス番号「6」(録音)をダイヤルするか、[録音]キーを押す

受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『メッセージを録音します。録音を終了するときは、シャープ(#)を押してください。』

録音をはじめる合図、ピー音が聞こえます。



7 受話器からメッセージを録音する

#

8 「#」(録音終了)をダイヤルする

受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『ピー。録音を終了しました。録音は“6”を、再生は“5”を、消去は“3”を押してください。終了するときは、シャープ(#)を押してください。』

#

9 「#」(登録終了)をダイヤルする

受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『サービス番号をどうぞ。』



10 サービス番号「9」(終了)をダイヤルし受話器を戻す

受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『終了します。』

補足

操作手順4を行ったあとメッセージはありませんので、操作手順4と5は、連続して操作してください。



内線個別の《メールボックス》キーには、不在代行のメッセージ録音ができます。

共通メールボックスの《メールボックス》キーには、着信代行のメッセージ録音ができます。

<応答メッセージの消去>

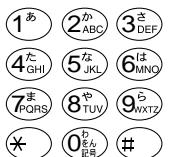
操作手順

メールボックス
[]

1 受話器をあげる

2 応答メッセージ用に使用する
《メールボックス》キーを押す

メールボックス番号指定特番「74」+メールボックス番号でも指定できます。
受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『暗証番号を入力してください。』



3 パスワードをダイヤルで入力する

受話器から次のメッセージがアナウンスされます。

未聴取メッセージがある場合、『新しいメッセージがXX件あります。メッセージを再生します。』
未聴取メッセージが自動再生されます。停止したい場合は#を押してください。

聴取済メッセージがある場合、『保存されたメッセージがXX件あります。サービス番号をどうぞ。』

メッセージがない場合、『メッセージはありません。サービス番号をどうぞ。』

(1あ) (4た)

4 サービス番号「1」「4」(応答メッセージ)をダイヤルする



5 機能種別をダイヤルする

- (0お) : 不在代行
- (1あ) : 着信代行 パターン1
- (2か) : 着信代行 パターン2

受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『応答メッセージを変更します。録音は“6”を、再生は“5”を、消去は“3”を押してください。終了するときは、シャープ(#)を押してください。』

補足

フレキシブルキーに新たに[メールボックス]キーを登録するにはP.45を参照してください。

操作手順2の《メールボックス》キーは、不在代行のときは、各内線に対応する《メールボックス》キーです。着信代行のときは、共通メールボックス用の《メールボックス》キーです。

操作手順2の説明書きのメールボックス番号は、不在代行のときは、内線番号を、着信代行のときは、共通メールボックス番号(97または98)となります。

!ご注意

パスワードを設定していない場合は、次の操作4を行ってください。

補足

操作手順4を行ったあとメッセージはありませんので、操作手順4と5は、連続して操作してください。

3^{DEF}**6 「3」(消去)をダイヤルする**

受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『消去しました。録音は“6”を、再生は“5”を、消去は“3”を押してください。終了するときは、シャープ(#)を押してください。』

#

7 「#」(登録終了)をダイヤルする

受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『サービス番号をどうぞ。』

9^b
WXTZ**8 サービス番号「9」(終了)をダイヤルし受話器を戻す**

受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『終了します。』

2.2 外出・離席中にかかってきた電話(個別着信のとき)(不在代行)

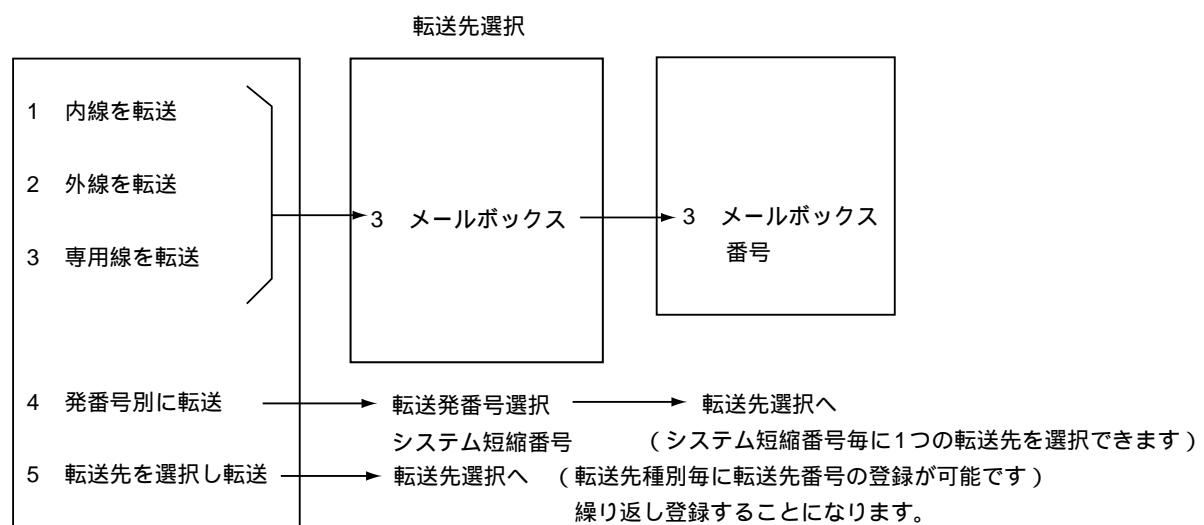
外出・離席中にかかってきた内線電話に音声メールが代わって不在であることを知らせ、メッセージがあれば指定のメールボックスに録音してもらうことができます。また、メールボックスに「応答メッセージを録音する」(P.149)で、自作の応答メッセージを録音しておくこともできます。

<不在代行登録の手順>

なにを転送しますか

どこへ転送しますか

相手先番号を決めましょう



<不在代行の登録>

不在のときの転送先をメールボックスに設定します。あらかじめ《フレキシブル》キーに[不在転送]機能を登録しておきます。



受話器はそのまま（オノフック状態）で登録操作できます。

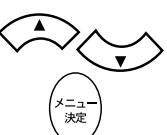
操作手順



1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“7(転送設定)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



3 キーで“1(不在転送)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



4 キーで何を転送するかを選び、
[メニュー/決定] キーを押す

- | | |
|---------|----------|
| 1：内線転送 | 4：発番号別転送 |
| 2：外線転送 | 5：選択転送先 |
| 3：専用線転送 | |

発番号別転送は操作手順 8 に進みます。

選択転送先を選んだ場合は、繰り返し転送先番号の登録が可能です。



5 キーで“3(メールボックス)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



6 メールボックス番号をダイヤルする

選択転送を選んだ場合は、「選択転送先」に進みます。操作手順 5 で選択転送先を選んでください。



7 [メニュー/決定] キーを押す

補足

フレキシブルキーに新たに
[不在転送] キーを登録する
にはP.38を参照してください。



8 システム短縮番号をダイヤルし、[メニュー/決定]キーを押す



キーで検索することもできます。
操作手順5に戻ります。

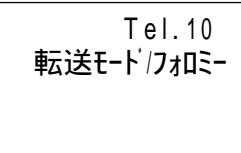
<不在代行の設定(解除中からの設定)>

外線／内線の個別着信などに対して音声メールが応答し、応答ガイダンスにより不在であることを通知した後、伝言を録音します。

操作手順

不在転送

1 《不在転送》キーを押す



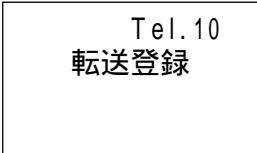
保留

2 [保留]キーを押す

この時点で不在代行サービス状態になります。
《不在転送》キーは赤く点灯します。
設定できた場合は「ピー」という音が鳴ります。

スピーカ

3 [スピーカ]キーを押す



<不在代行の解除>

不在転送

1 《不在転送》キーを押す

《不在転送》キーランプは消灯します。
設定解除できた場合は「ピー」という音が鳴ります。

補足

フレキシブルキーに新たに[不在転送]キーを登録するにはP.38を参照してください。
代行用メールボックスを「メッセージ通知」に設定しておくと、メッセージが入った場合、自動的にポケベルなどを呼び出すことができます。

参考

応答ガイダンスの切替は、P.156を参照してください。
応答メッセージ後に、メッセージを録音するかしないかを「不在代行と着信代行で録音するか、しないかを設定」(P.157)で設定できます。

不在代行により音声メールに接続したとき、音声メールのメッセージが満杯の場合、応答メッセージ送出後、外線を切断します。

独自の応答メッセージが録音されている場合は、その独自の応答メッセージをアナウンスします。

音声メールの録音時間が無くなった場合、「ピー。録音を終了しました。」をアナウンスし録音を終了し外線を切断します。
外線を切断する前に、切断予告音(ピーピー)を送出します。

2.3 夜間・休日にかかってきた電話（夜間切替のとき）（着信代行）

夜間・休日の外線着信を音声メールが応答することができます。応答するメッセージは「応答メッセージを録音する」(P.149)であらかじめ録音しておきます。登録をしていない場合は、音声メールの固定メッセージで応答します。固定メッセージには2種類あり、選ぶことができます。詳しくは、販売店にご相談ください。

<着信代行の設定（解除中からの設定）>

外線からの着信を音声メールが応答し、応答ガイダンスにより留守であることを知らせた後、メッセージを録音することができます。メッセージを録音できるメールボックスは、共通メールボックス（97：初実装のとき、98：増設のとき）です。

操作手順

夜間切替
■

1 《夜間切替》キーを押す

この時点で着信代行状態になります。
《夜間切替》キーランプは赤く点灯します。

補足

フレキシブルキーに新たに[夜間切替]キーを登録するにはP.38を参照してください。

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。
着信代行を行うためには、着信形式をメール代行に設定する必要があります。

<応答ガイダンス>

(1) 用件を録音する場合

機能種別名	ダイヤル番号	ガイダンス内容
パターン1 (不在系)	① 	『お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、ただいま不在です。メッセージを承ります。ピーという音の後に、お名前とご用件をお話ください。ピー。』
パターン2 (夜間系)	① 	『お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、本日の業務は終了いたしました。メッセージを承ります。ピーという音の後に、お名前とご用件をお話ください。ピー。』

(2) 用件を録音しない場合

機能種別名	ダイヤル番号	ガイダンス内容
パターン1 (不在系)	① 	『お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、ただいま不在です。後程お電話いただきますようお願いいたします。』
パターン2 (夜間系)	① 	『お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、本日の業務は終了いたしました。後程お電話いただきますようお願いいたします。』

<応答ガイダンスの切替>

外線からの着信に音声メールが応答しますが、応答ガイダンスには「パターン1」と「パターン2」の2種類のタイプがあります。この切替には、《ガイダンス切替》キーを使用します。

操作手順

1 《ガイダンス切替》キーを押す



現在設定してあるガイダンスのタイプ番号を表示します。

応答ガイダンスが「パターン1」に設定されている場合：

ガイダンス キリ加 0

応答ガイダンスが「パターン2」に設定されている場合：

ガイダンス キリ加 1

補足

フレキシブルキーに新たに[ガイダンス切替]キーを登録するにはP.38を参照してください。

①
0
〔記号〕
または
②
1
〔あ〕

2 応答メッセージ番号“0”または“1”をダイヤルする

ダイヤルした応答ガイダンス番号に表示が切り替わります。

設定できた場合は、「ピー」と鳴ります。



3 [スピーカ]キーを押す

<着信代行の解除>

夜間切替



1 《夜間切替》キーを押す

《夜間切替》キーランプは消灯します。

設定解除できた場合は「ピー」と鳴ります。



外線着信代行により音声メールに接続したとき、音声メールのメッセージが満杯の場合、応答メッセージと切断予告音「ピーピー」を送出後、外線を切断します。

応答メッセージ後に、メッセージを録音するかしないかを、「不在代行、着信代行で録音するか、しないかを設定」(P.157)で設定できます。

音声メールの録音時間が無くなった場合、『ピー。録音が終了しました。』をアナウンスし録音を終了し、切断予告音「ピーピー」を送出後、外線を切断します。

独自の応答メッセージが録音されている場合は、その独自の応答メッセージをアナウンスします。

音声メールが塞がっているときは一般着信となり、音声メールが空き次第応答メッセージの送出となります。

<不在代行、着信代行で録音するか、しないかを設定>

着信代行サービスで、着信したとき、応答ガイダンスで「不在」または「業務終了」を知らせるだけにするのか、伝言を録音するのかを設定します。システムでどちらかに設定することになります。(初期値は、ガイダンスのみです。)

操作手順



1 [保留] キーを押す

内線



2 [内線] キーを押す

オンラインデータセッティ
データバンク>---

(4た)
GHI
(7ま)
PQRS
(0わ)
記録

3 データ番号“470”をダイヤルする



4 ↓ キーを2回押す

(4た)
GHI
または
(5な)
JKL

5 “4”または“5”をダイヤルする
不在代行の設定のときは“4”を着信代行の設定のときは“5”をダイヤルする。



6 ↓ キーを押す

(0わ)
記録
または
(1あ)

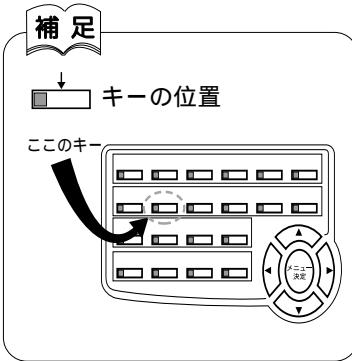
7 “0”または“1”をダイヤルする
0: 録音しない
1: 録音する
初期値は、“0”(録音しない)になっています。



8 ↓ キーを押す
設定を変更したとき、設定が正常にできた場合は「ピー」と鳴ります。



9 [スピーカ] キーを押す



不在代行を録音するか、しないかの設定を変更すると、システム全体（全部の電話機）の変更となります。

3

メールサービスの便利な使い方

3.1 他の人にメッセージを転送する

あなたのメールボックスに入っているメッセージを、他の人のメールボックスに転送することができます。メッセージ検索中も同じ操作でメッセージを転送できます。

操作手順

(1あ) (3さ)

1 メッセージ再生中に“1”、“3”をダイヤルする

次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『メッセージを転送します。転送先メールボックス番号を入力してください。』



2 転送先の《メールボックス》キーを押すかメールボックス番号をダイヤルする

次のメッセージがアナウンスされます。『転送してよければ、シャープ(#)を押してください。』

3 “#”をダイヤルする

次のメッセージがアナウンスされます。『メッセージを転送しました。』



4 サービス番号“9”(終了)をダイヤルし、受話器を戻す

『終了します。』のアナウンスがあり、この操作を終了します。

サービス終了

Tel.10
2/12 Tue 11:00

補足

フレキシブルキーに新たに[メールボックス]キーを登録するにはP.45を参照してください。

!ご注意

初期実装されている音声メール装置と増設した音声メール装置をまたがるメールボックスへのメッセージ転送はできません。

3.2 外出先からメッセージを聞き出す

メールボックスにメッセージが入ったことを(メッセージ通知)で知ることができます。(メッセージ通知)を受けるには、「メッセージを外線に通知する」(P.145)を参照してください。

<音声メールに直接電話する>

操作手順

1 「着信代行」「不在代行」中の電話番号へ電話をかける



次のメッセージがアナウンスされます。

例、固定メッセージの場合

『お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、本日の業務は終了いたしました。メッセージを受け承ります。ピーという音のあとにお名前と用件をお話しください。』

2 メッセージ再生中に“#”をダイヤルする

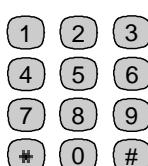
次のメッセージがアナウンスされます。

『サービス番号をどうぞ』

3 “#”(自分のメールボックス利用)をダイヤルする

次のメッセージがアナウンスされます。

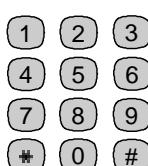
『メールボックス番号を入力してください。』



4 あなたのメールボックス番号を押す

パスワードを設定している場合は、次のメッセージがアナウンスされます。パスワードを設定していない場合は、手順5のメッセージがアナウンスされます。

『暗証番号を入力してください。』



5 パスワードをダイヤルする

次のメッセージがアナウンスされます。『新しいメッセージが××件あります。メッセージを再生します。』

メッセージが自動再生します。

未聴取メッセージがなくなると次のメッセージがアナウンスされます。『サービス番号をどうぞ。』

6 サービス番号“9”(終了)をダイヤルする

次のメッセージがアナウンスされます。

『終了します。』『サービス番号をどうぞ。』

！ご注意

メッセージを聞き出す電話機は、PB信号を送出する電話機でなければ聞き出すことはできません。音声メールに直接電話をかけられるのは、「着信代行」又は「不在代行」を設定している場合にかぎられます。

補足

内線メールボックスのメールボックス番号は1～4桁。共通メールボックス番号は
97：初実装のとき
98：増設のとき
メールボックス番号入力中に“*”をダイヤルすると、指定途中のメールボックス番号はクリアされます。

<外線を音声メールへ転送する>

外線着信に内線が応答した後、音声メールに転送することができます。

操作手順



内 線



- 外出先からの電話を内線が応答する
応答した人に音声メールへの転送を依頼する。

2 [内線] キーを押す

相手にメール転送することを伝え[内線]キーを押す。

3 メールアクセス特番(71)をダイヤルする

音声メールと接続され、外線側の人には次のメッセージがアナウンスされます。
『サービス番号をどうぞ。』



4 受話器を戻す

補足

音声メールが塞がっている、あるいは録音満杯の場合は、内線に話中音「プーブー」が返ります。[内線]キーを押す、あるいは切断後の呼び返しに応答することにより、元の外線通話に戻れます。

<メッセージを聞いた後、内線に接続する(内線呼出)>

メールボックスのメッセージを聞いた後、内線を呼び出すことができます。

操作手順



- メッセージ終了後または、再生中に“9”(終了)をダイヤルする

次のメッセージがアナウンスされます。
『終了します。』『サービス番号をどうぞ。』

2 内線番号をダイヤルする



3.3 外出先からメッセージを録音する

外出先からメールボックスを指定してメッセージを録音することができます。

<代行応答中から録音する（外線メールサービス中伝言録音）>

操作手順

1 「着信代行」「不在代行」中の電話番号へ電話をかける



次のメッセージがアナウンスされます。

例、固定メッセージの場合

『お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、本日の業務は終了いたしました。メッセージを受け承ります。ピーという音のあとにお名前と用件をお話しください。』

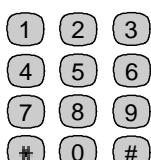
2 メッセージ再生中に“#”をダイヤルする

次のメッセージがアナウンスされます。

『サービス番号をどうぞ』

3 アナウンス中に“*”（伝言録音）をダイヤルする

次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『メッセージを録音します。転送先メールボックス番号を入力してください。』



4 メールボックス番号をダイヤルする

次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『メッセージをどうぞ。ピー。』

録音をはじめる合図、ピー音が聞こえたら受話器からメッセージを録音します。
メールボックス番号を間違えた場合は、『転送先メールボックス番号を入力してください。』のアナウンスがありますので、正しいメールボックス番号を再入力してください。



録音終了時



5 録音を終了する場合は、“#”をダイヤルする

次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『ピー。メッセージを転送しました。サービス番号をどうぞ。』

録音取消時



6 受話器を戻す

次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『メッセージを消去しました。』



ご注意

外出先からメッセージを録音するためには、PB信号を送出する電話機でなければ、このサービスは受けられません。

音声メールに直接電話をかけられるのは、「着信代行」又は「不在代行」を設定している場合にかぎられます。

補足

内線メールボックスのメールボックス番号は1～4桁。
共通メールボックス番号は
97：初実装のとき
98：増設のとき
メールボックス番号入力中に“*”をダイヤルすると、指定途中のメールボックス番号はクリアされます。

<通話中から録音する（録音転送）>

外線着信に内線が応答した後、外線を音声メールに転送して、メッセージを録音することができます。

内線側

操作手順

内線



- 1 外線と通話中の内線で、録音転送することを通話中の相手に伝え[内線]キーを押す**

メールボックス



- 2 録音先の《メールボックス》キーを押す**

外線が音声メールに転送され、外線に次のメッセージがアナウンスされます。

操作した内線には“ ププププ・・・ ” 音が聴こえます。『メッセージをどうぞ。ピー。』



- 3 受話器を戻す**

第7章

外線側

録音終了時



- 1 録音を終了する場合は、“ # ” をダイヤルする**

次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『ピー。メッセージを転送しました。終了します。ピーピー。』

録音取消時



- 1 録音を取消す場合は、“ * ” をダイヤルする**

次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『メッセージを消去しました。終了します。ピーピー。』



- 2 受話器を戻す**

補足

音声メールが塞がっている、あるいは録音満杯の場合は、内線に話中音「ブーブー」が返ります。[内線] キーを押す、あるいは切断後の呼び返しに応答することにより、元の外線通話に戻れます。フレキシブルキーに新たに[メールボックス]キーを登録するにはP.45を参照してください。

ご注意

《メールボックス》キーを割付けていないメールボックスへの録音転送はできません。

3.4 外出先から内線を呼び出して通話する

外出先から内線番号を指定し、呼び出して通話することができます。

<代行応答中から内線を呼び出す（内線呼出サービス）>

操作手順

1 「着信代行」「不在代行」中の電話番号へ電話をかける



次のメッセージがアナウンスされます。

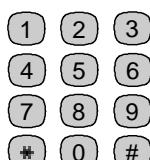
例、固定メッセージの場合

『お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、本日の業務は終了いたしました。メッセージを受け承ります。ピーという音のあとにお名前と用件をお話しください。』

2 # メッセージ再生中に“#”をダイヤルする

次のメッセージがアナウンスされます。

『サービス番号をどうぞ』



3 内線番号をダイヤルする

受話器から「プルルルー」と相手を呼び出す音が聞こえます。

相手が応答すると、通話できます。



4 受話器を戻す



内線呼出時、下記操作は行えません。

- ・呼出先内線への音声呼出
- ・代理応答

3.5 外出先からいろいろな設定を変更する（PB保守）

外出先からメッセージ通知の設定と解除や不在代行の設定と解除をすることができます。

この機能を使うには、外線を留守 PB 応答の状態にしておく必要があります。（詳しくは、販売店にご相談ください。）また、この機能を使う時に使用する電話機は、プッシュ信号を出力できる電話機に限ります。

<メッセージ通知の設定と解除>

操作手順



- 1 外出先から会社に電話をかける**
留守応答メッセージが受話器からアナウンスされます。

9 2

- 2 PB保守特番“92”をダイヤルする**

1 2 3

- 3 暗証番号“1234”をダイヤルする**

4

受話器から『ピー』という音が聞こえます。

暗証番号の初期値は1234です。変更している場合は、販売店にお聞きください。

1 2 3
4 5 6
7 8 9
* 0 #

- 4 自分の内線番号をダイヤルする**

0

- 5 メッセージ通知変更モード“0”をダイヤルする**

1 2 3
4 5 6
7 8 9
* 0 #

- 6 メッセージ通知の設定、解除を行うメールボックス番号(内線番号)をダイヤルする**

#

または

*

- 7 設定“#”または“*”の指示をダイヤルする**

“#”をダイヤルするとメッセージ通知の設定、“*”をダイヤルするとメッセージ通知の解除になります。

設定解除できた場合は「ピー」と鳴ります。

9

- 8 “9”をダイヤルする**



- 9 受話器を戻す**



ご注意
留守応答メッセージの録音はP.89を参照してください。
この機能を利用する場合は、販売店にご相談ください。

<不在代行の設定と解除>

操作手順



- 1** 外出先から会社に電話をかける
留守応答メッセージが受話器からアナウンスされます。

⑨ ②

- 2** PB 保守特番 “92” をダイヤルする

① ② ③

- 3** 暗証番号 “1234” をダイヤルする

④

受話器から『ピー』という音が聞こえます。
暗証番号の初期値は1234です。変更している場合は、販売店にお聞きください。



④

- 4** 自分の内線番号をダイヤルする



または



- 5** 不在代行変更モード “4” をダイヤルする

“#”をダイヤルすると不在代行の設定、“*”をダイヤルすると不在代行は解除されます。
設定解除できた場合は「ピー」と鳴ります。

⑨

- 7** “9” をダイヤルする



- 8** 受話器を戻す

!ご注意

留守応答メッセージの録音はP.89を参照してください。
この機能を利用する場合は、販売店にご相談ください。

第 8 章

ご参考に

1	VoIP(FoIP)専用線収容	168
2	VoIP 専用線を使って FAX を送信する	169
3	通話料金の管理	170
4	周辺機器との接続	173
5	ISDN 回線の利用	180

1

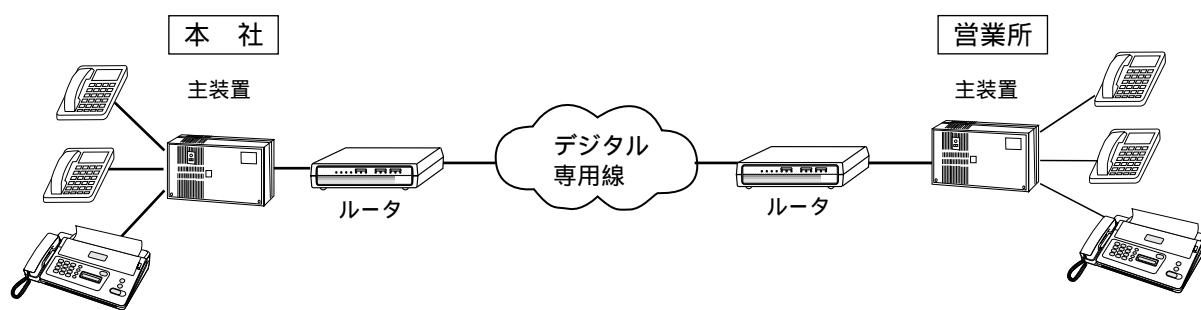
VoIP(FoIP)専用線収容

VoIP機能とは

VoIP (Voice over Internet Protocol) は、音声をパケット化し、データ系ネットワークで電話が利用できるデジタル通信技術です。

本システムはVoIP機能(FoIP機能)に対応することで既存の社内LANを構築しているIPネットワーク上で音声通話(FAX通信)を実現し、音声系ネットワークとデータ系ネットワークを統合するシステムです。

[構成例]



本システムにVoIP(FoIP)専用ユニットを収容し、専用線等にて構成された本支社間のIPネットワーク上でデータと音声通話(FAX通信)を行うことにより本支社間の通話を内線電話のように使用することが出来、通信コストの大幅な削減が可能となります。



専用線等でのIPネットワークの構築にはルータが必要です。
この機能を利用したいときは、販売店にご相談ください。

2

VoIP専用線を使用してFAXを送信する

VoIP専用線を使用してFAXを送信および転送することができます。



この機能を利用する場合は、販売店にご相談ください。

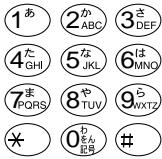
2.1 FAXを送信する

VoIP専用線を使用してFAXを送信します。

操作手順



1 受話器をあげる



2 FAX発信特番をダイヤルする

3 VoIP専用線閉番号をダイヤルする
(相手のFAX内線番号)

補足

Super G3-FAXには対応していません。

Super G3-FAXを収容するときは、モードをG3に固定してお使いください。

VoIP専用線閉番号を設定していない場合は、操作番号2、3のかわりに、

VoIP専用線捕捉特番をダイヤル

「事業所番号」をダイヤル
「FAX発信特番」をダイヤル
相手の「FAX内線番号」を
ダイヤル
してください。

2.2 FAXを転送する

VoIP専用線を使用して届いたFAXを転送します。

操作手順

内線

1 着信応答したとき、FAXのキャリア音
がする

2 [内線]キーを押す



3 データ通信特番をダイヤルする

4 VoIP専用線閉番号をダイヤルする
(相手のFAX内線番号)

5 相手FAXが応答する

6 受話器を戻す



補足

VoIP専用線閉番号を設定していない場合は、操作番号3、4のかわりに、

VoIP専用線捕捉特番をダイヤル

「事業所番号」をダイヤル
「FAX発信特番」をダイヤル
相手の「FAX内線番号」を
ダイヤル
してください。

3

通話料金の管理

3.1 度数・通話時間・料金の表示について

<度数表示>

外線発信のとき度数（通話単位時間とその料金）表示は、相手応答後すぐに表示します。

LCD ディスプレイの 1 段目には残り予算と電話番号を、2 段目には通話単位時間とその料金を表示します。

5000円Tel.10
180sec 10円

<通話時間と料金表示>

度数表示の 10 秒後に料金表示をはじめ、通話時間と通話料金を刻々表示します。

LCD ディスプレイの 1 段目には残り予算と電話番号を、2 段目には通話料金と通話時間を分・秒単位で表示します。

5000円Tel.10
10円 01 58

補足

国内発信認識番号、国際発信認識番号と登録されている識別番号で発信した番号は、目安料金を表示します。



通話料金は表示しなくすることもできます。販売店にご相談ください。

3.2 通話料金を集計表示する

外線、内線、予算管理グループごとに通話料金の実績と予算額、予算残高を集計表示できます。(表示された金額には、消費税が含まれています。)

操作手順

- 1 [メニュー/決定] キーを押す**
- 2 キーで“8(その他設定)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す**
- 3 キーで“3(料金管理)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す**
- 4 キーで“1(料金確認)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す**
- 5 集計単位を選び、[メニュー/決定] キーを押す**
集計単位

1：内線	4：予算 Grp
2：外線	5：システム
3：専用線方路	6：キャリア
- 6 指定番号をダイヤルし、[メニュー/決定] キーを押す**
例えば、内線を選択した場合は内線番号をダイヤルします。
- 7 [スピーカ] キーを押す**

補足

料金確認を繰り返し行うには、[戻る/削除]キーを押します。
1回押すと、操作手順6へ
2回押すと、操作手順5へ
戻ります。

<予算を設定する>

予算の設定と追加は、システム管理電話機で行います。

操作手順



1 [メニュー/決定] キーを押す



2 キーで“8(その他設定)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



3 キーで“3(料金管理)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



4 キーで“3(予算登録)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



5 キーで“1(新規予算登録)”
または“2(追加予算登録)”を選び、
[メニュー/決定] キーを押す



6 登録先Grpをダイヤルし、[メニュー/決定] キーを押す



7 金額をダイヤルし、[メニュー/決定] キーを押す



新規予算登録		
Grp01		
予算:	円	



追加予算登録		
Grp00		
残高:	18550円	
追加:	円	



8 [スピーカー] キーを押す

補足

操作手順6で個別登録の場合は内線番号を入力します。
予算管理は、グループ管理または個別管理となります。システムでの設定が必要となりますので変更のときは販売店にご相談ください。

4

周辺機器との接続

4.1 ファクシミリとの接続

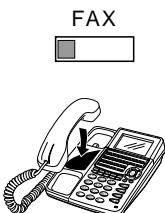
ファクシミリとの接続は、販売店にご相談ください。

< ファクシミリ手動転送 >

FAX を内線で受けた場合、手動で FAX に転送できます。

操作手順

- 着信応答したとき、FAX のキャリア音
がする



- [FAX] キーを押す
- 受話器を戻す

< ファクシミリ状況表示 >

FAX キーランプでファクシミリに受信原稿があることを知ることができます。

ファクシミリ受信中は、ランプが赤く点灯します。通信が終了すると、ランプは緑の点滅に変わります。

補足

フレキシブルキーに [FAX] キーを登録するには、P.38 「フレキシブルキーに機能を割付ける」を参照してください。

VOIP 専用線を使用して FAX を転送する場合は、P.170 「VOIP専用線を使用してFAXを送信する」を参照してください。

ご注意

FAX の機種によっては、操作手順2のあと、すぐに操作手順3を行うと保留呼び返しとなる場合があります。

4.2 構内放送装置との接続

< 構内放送するには >

外部の放送設備を利用して、電話機から構内放送ができます。構内放送との接続は、販売店にご相談ください。

操作手順



- 受話器をあげる
受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
- 構内放送特番をダイヤルする
初期値は “ * ”、“ 9 ” です。

(*) (9^ら_{WXNZ})

補足

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前で [内線] キーを押します。

① 0
〔おん
記号〕
または
② 1
〔あ〕

3 0または1をダイヤルする

0または1：一斉放送
チャイム音が流れます。



4 受話器で呼びかける

たとえば「池田さん」と呼びかけると、構内放送のスピーカから呼びかけた音声が流れます。
相手が応答すると通話ができます。



5 放送を終わるときは、受話器を戻す

補足

放送特番と装置番号を [ウンタッチダイヤル] に登録できます。応答も同様に登録できます。(内線番号を登録する手順と同じです。)



操作手順

① # ② 9
〔ら
WX7Z〕

1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

① # ② 9
〔ら
WX7Z〕

2 構内放送特番をダイヤルする

初期値は“#”、“9”です。

① 0
〔おん
記号〕
または
② 1
〔あ〕

3 0または1をダイヤルする

0または1：一斉放送の応答
構内放送した人とつながり、通話できます。



4 通話終了後、受話器を戻す

補足

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定(オフフック外線自動捕捉)をしている場合、操作手順1の前で [内線] キーを押します。

4.3 ドアホンとの接続

ドアホンとの接続は、販売店にご相談ください。

<ドアホンの呼出しに応答する>（ドアホン着信応答）

ドアホンの呼出しを電話機で受けられます。

操作手順

1 ドアホンの着信音「ピーンボーン」と鳴る



ドアホン

2 受話器をあげる



3 ランプが点灯している[ドアホン]キーを押す

通話ができる状態になります。

4 通話終了後、受話器を戻す

<ドアホンで外の音声を聞く>（ドアホンモニタ）

ドアホンを外部モニタ装置として使用することができます。

ドアホン

1 [ドアホン]キーを押す

外部の音声が「スピーカ」から聞こえます。

ドアホン

2 モニタ終了後、[ドアホン]キーを押す

第8章

<ドアホンを呼出す>（ドアホン呼出し）

ドアホンで扉の外の人に声をかけることができます。

操作手順



ドアホン

1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 [ドアホン]キーを押す

3 相手に呼びかける

扉の外の人とドアホンで通話できます。

4 通話終了後、受話器を戻す

補足

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定(オフフック外線自動捕捉)をしている場合、操作手順1の前で[内線]キーを押します。

参考

ドアホンは4台まで接続できます。

4.4 プリンタとの接続

<課金情報の出力>

全電話機または、全グループごとに通話料金をプリンタで印字することができます。
プリンタとの接続については、販売店にご相談ください。

操作手順

- 1 [メニュー/決定] キーを押す**
- 2 キーで“8(その他設定)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す**
- 3 キーで“3(料金管理)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す**
- 4 キーで“2(料金出力)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す**
- 5 料金出力項目を選び、[メニュー/決定] キーを押す**

料金出力項目		
1 : 内線	5 : システム	
2 : 外線	6 : キャリア	
3 : 専用線方路	7 : 月定時再印刷	
4 : 予算 Grp		
- 6 印字種別を選び、[メニュー/決定] キーを押す**

印字種別	
1 : 今月	2 : 先月
内線の場合は、	
1 : 今日	2 : 今月
3 : 先月 となります。	

印字を始めます。
- 7 印字が終わったら [スピーカ] キーを押す**



操作手順 6 で内線の今日を印字する場合は、データ設定が必要です。
販売店にご相談ください。

印字(例)

* ズ イジ サクヒョウ (センゲツ) *
02/02/13 15:53
* ナイセン *
タンマツ 01. 3 : 200 ヤマモト
グ ループ : 00
コクナイ : ¥1870
ゼ イキン : ¥94
コクサイ : ¥0
ゴ ウケイ : ¥1964
タンマツ 02. 6 : 201 ヨシダ
グ ループ : 00
コクナイ : ¥30
ゼ イキン : ¥2
コクサイ : ¥0
ゴ ウケイ : ¥32

< 内線ごとの料金出力 >

内線ごとの料金を集計し、出力することができます。
一度出力した内線の料金はクリアされます。

操作手順



- 1 [メニュー/決定] キーを押す
- 2 キーで“8(その他設定)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す
- 3 キーで“3(料金管理)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す
- 4 キーで“4(内線料金出力)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す
- 5 内線番号をダイヤルし、[メニュー/決定] キーを押す
- 6 印字項目を選び、[メニュー/決定] キーを押す

1 : 印字 / リセット	3 : 印字のみ
2 : リセットのみ	4 : 再印字
- 7 印字が終わったら [スピーカ] キーを押す



補足

この操作は、システム管理電話機から行います。

操作手順 6 の印字項目を説明します。

- | | |
|--|---|
| 1 : 印字 / リセット
印字をしたあと、指定内線の通話料金をクリアします。 | 2 : 印字のみ
印字をしたあとも通話料金はそのまま残ります。 |
| 3 : リセットのみ
通話料金をクリアします。 | 4 : 再印字
誤って通話料金をクリアした場合でも、クリア直前の情報は、再印字できます。 |

4.5 ヘッドセットとの接続

ヘッドセットを接続すると、受話器をあげずに応答することができます。

<ヘッドセットの接続>

操作手順



- 1 ハンドセットをヘッドセットに差し替える
- 2 Vol. の [▲] と [▼] キーを順に押したまま “4” をダイヤルする

ハンドセットモード
▲

ヘッドセットモード
▼

H A N D S E T M O D E

[▲] キーを押すとハンドセットモードになります。

H E A D S E T M O D E



ヘッドセットモードでご使用のときは、ハンドセットは所定の位置(オンフック状態)に置いておいてください。

<電話のかけかた>

- 1 [スピーカ] キーを押す
スピーカランプは赤く点灯します。

あとは、通常の電話のかけかたと同じです。

- 2 通話終了後は、[スピーカ] キーを押す
スピーカランプは消灯します。

<電話の受けかた>

- 1 着信音が鳴ったら、[応答] キーか [外線] キーを押す
通話できる状態になります。
スピーカランプは赤く点灯します。

- 2 通話終了後は、[スピーカ] キーを押す
スピーカランプは消灯します。

4.6 外部保留音との接続

保留中に相手に送る保留音を市販の外部装置を接続し使うことができます。
外部装置との接続については、販売店にご相談ください。

4.7 単独電話機との接続

市販の単独電話機、留守番電話機、アナログコードレス電話機、ファクシミリを接続することができます。
電話機との接続については、販売店にご相談ください。

4.8 高音量ベルとの接続

騒音の大きい場所でお使いの場合、高音量ベルを接続して着信音や音声呼出しを高音量ベルのスピーカから聞くことができます。高音量ベルとの接続については、販売店にご相談ください。

5

ISDN回線の利用

5.1 ISDN回線への発信

<普通にかけるには>

一般的の電話回線とほぼ同じですが、相手の電話番号の次に「#」をダイヤルします。

操作手順



1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

外線
[]2 外線ランプが消えている、ISDN回線の
[外線]を押す

外線とつながると発信音は「ツー」に変わります。

外線のランプは緑で点灯し、他の電話機の外線のランプは赤で点灯します。



3 相手の電話番号をダイヤルする

4 [#] をダイヤルする

相手が応答すると、通話ができます。

[#]をダイヤルしない場合は、一定の時間のあとダイヤル発信します。



5 通話終了後、受話器を戻す

ディスプレイの下段に通話料金と通話時間を表示します。

すべての外線のランプは消灯します。

補足

操作手順3でオートダイヤル、システム短縮ダイヤルでかけることもできますが、それぞれの電話番号の後ろに“#”を登録しておきます。受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）で、ISDN回線を指定して発信する場合、操作手順1と2の順序を逆に操作します。オフフック外線自動捕捉の機能を使う場合は、販売店にご相談ください。

<直通内線電話機にかける>（着サブアドレス付加発信）

電話番号の後に、着サブアドレスを付加して発信（内線電話番号に相当）することができます。

操作手順



1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

外線
[]2 外線ランプが消えている、ISDN回線の
[外線]を押す

外線とつながり発信音は「ツー」に変わります。



外線のランプは緑で点灯し、他の電話機の外線のランプは赤で点灯します。

3 相手の電話番号をダイヤルする



4 “*”をダイヤルする



5 着サブアドレスをダイヤルする



6 “#”をダイヤルする

相手が応答すると、通話ができます。

[#]をダイヤルしない場合は、一定の時間のあとダイヤル発信します。



7 通話終了後、受話器を戻す

ディスプレイの下段に通話料金と通話時間を表示します。

すべての外線のランプは消灯します。

補足

操作手順3でオートダイヤル、システム短縮ダイヤルでかけることもできますが、それぞれの電話番号の後に“*”着サブアドレス、“#”を登録しておくと、操作手順4～6を省略できます。

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）で、ISDN回線を指定して発信する場合、操作手順1と2の順序を逆に操作します。

オフフック外線自動捕捉の機能を使う場合は、販売店にご相談ください。

5.2 ISDN回線からの着信

<普通に受ける>（任意外線応答）

普通の電話回線と同じ操作で電話を受けることができます。ディスプレイに相手の電話番号が表示されます。[応答]キーですべての外線に応答できます。

操作手順

外線着信音「ブルルー」が鳴ります。

かかってきた外線の外線ランプは赤で点滅します。



1 受話器をあげる

受話器から「ツーッ」と発信音が聞こえます。



2 [応答]キーまたは、点滅している[外線]キーを押す

通話ができる状態になります。

外線ランプは緑の点灯に変わります。



3 通話終了後、受話器を戻す

外線ランプは消灯します。

補足

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定の場合は、操作手順1と2の順序を逆に操作します。

ご注意

この機能を使用する場合は、データ設定が必要です。販売店にご相談ください。

<サブアドレス表示の受けかた>（着サブアドレス DID）

着サブアドレス付加発信などで電話をかけてきた場合は、受話器をあげるだけで電話をうけることができます。

操作手順

外線着信音「ブルルー」が鳴ります。

LCDディスプレイの下段にかけてきた人の電話番号が表示されます。

DID 10
0123456789

かかってきた外線の外線ランプは橙で点滅します。



1 受話器をあげる

通話ができる状態になります。

外線のランプは緑の点灯に変わります。



2 通話終了後、受話器を戻す

外線ランプは消灯します。

5.3 ISDN回線またはMSAキーの使用制限について

一時的にISDN回線の使用制限または、MSAキーの使用制限をすることができます。

<登録>

受話器を置いたまま操作します。



1 [回線制限]キーを押す



2 [外線]キーまたは[MSA]キーを押す

または

MSA



続けて登録するときは、操作手順2を繰り返します。

3 [スピーカ]キーを押す

<解除>

登録と同じ操作です。

補足

アナログ回線、VoIP専用線は登録できません。

フレキシブルキーに[回線制限]キーを登録するには、P.38「フレキシブルキーに機能を割付ける」を参照してください。

アナログ回線でMSAの場合MSAを制限してもダイヤルイン以外での着信は拒否できません。着信テナント内的一般着信となります。

使用制限中の回線キー/MSAキーは橙点滅します。

R-140203
02.9 (1)